

# トヨタの概況 2009

データで見る世界の中のトヨタ



## 発行にあたって

「トヨタの概況 2009 データで見る世界の中のトヨタ」は、2008年（1月～12月）の会社概要、品質・安全・環境への取り組み、研究・開発、社会貢献活動、生産・販売・輸出、自動車以外の活動などのトヨタの取り組みを幅広く紹介しています。当社の企業活動をご理解いただく一助として、当資料をご活用いただければ幸いです。

### ■トヨタ自動車の主要情報開示ツール

トヨタの概況に加え、下記にてもトヨタ自動車の諸活動、データ、考え方につき情報開示しています。ご覧ください。



 <http://www.toyota.co.jp/jp/ir/library/annual/index.html>



 <http://www.toyota.co.jp/jp/csr/report/08/index.html>

表紙：3代目プリウス（2009年5月フルモデルチェンジ予定）

※掲載写真は2009年1月デトロイトモーターショー出展車

# トヨタの概況 2009 総目次

## 会社概要

- 2 企業理念
- 4 トヨタグローバルビジョン2020
- 5 3つのサステナビリティ
- 6 トヨタウェイ
- 7 アウトライン

## 研究・開発

- 8 国内外の研究開発拠点

## 技術開発

- 9 技術開発の歴史

## 安全への取り組み

- 11 取り組み姿勢／統合安全コンセプト

## ITS

- 12 ITSビジョン／安全
- 13 環境／快適

## 環境への取り組み

- 14 取り組み姿勢
- 15 エネルギー・温暖化／資源循環


## 社会貢献活動

- 16 取り組みの考え方・体制
- 17 取り組み事例

## 品質向上への取り組み

- 18 CF活動／自工程完結活動

## 日本における活動

- 19 トヨタグループ／サプライヤー
- 20 国内の生産・販売体制
- 21 販売体制
- 22 車名別国内生産台数
- 23 車名別国内登録台数
- 24 国内販売車両一覧
- 25  LEXUS

## 海外における活動

- 26 海外の製造事業体一覧
- 28 北米での活動／中南米での活動
- 29 ヨーロッパでの活動／アフリカでの活動
- 30 アジアでの活動
- 32 オセアニア・中近東での活動
- 33 地域別生産・販売・輸出台数
- 34 国・地域別販売車種

- 35 ウェルキャブ(福祉車両)／住宅事業
- 36 モータースポーツ／金融事業
- 37 GAZOO／自動車部品
- 38 トヨタレンタリース／U-Car(中古車)
- 39 パートナーロボット
- 40 新規事業
- 41 国内文化施設等
- 42 沿革

## 【データ編】世界

- 45 自動車生産

## 【データ編】日本

- 46 自動車生産・自動車輸出
- 47 自動車登録・届出台数・輸入車登録
- 48 自動車関係税制／自動車リサイクル法

- 49 Product Line up

## 企業理念

人・社会・地球環境と調和を図り、モノづくりを通して持続可能な社会の実現を目指します。

トヨタは創業以来、時代をリードする革新的かつ高品質な製品とサービスの提供により、社会の持続可能な発展に努めてきました。その基本は、「トヨタ基本理念」とCSR方針「社会・地球の持続可能な発展への貢献」にあります。創立70周年を迎えた2007年11月、トヨタ基本理念をベースに、ありたい企業像を示す「トヨタグローバルビジョン2020」を策定し、2020年に向けてトヨタが目指す未来像を、全世界の従業員と共有しました。

### トヨタ基本理念

「トヨタ基本理念」(1992年制定、1997年改正)は、創業以来受け継がれてきた、トヨタ独自の経営上の考え方・価値観・手法を踏まえ、「どのような会社でありたいか」をまとめたものです。連結子会社とともにその内容を理解・共有し、企業活動を通じて、社会・地球の持続的な発展に貢献することを目指しています。

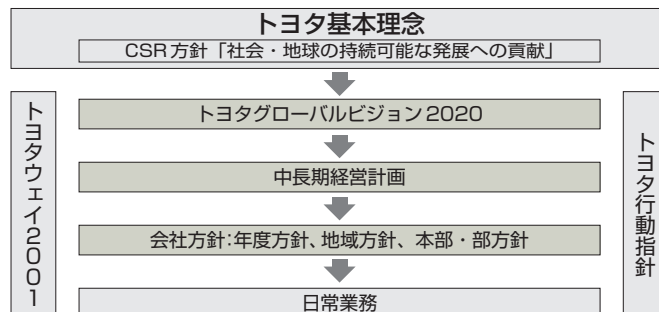
## トヨタ基本理念

< 1992年1月制定、1997年4月改正 >

1. 内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
2. 各国、各地域の文化・慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
3. クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む
4. 様々な分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する
5. 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
6. グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす
7. 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

### トヨタ基本理念と各規定類との関係

「トヨタ基本理念」のもと、2007年に「トヨタグローバルビジョン2020」を策定。その実現に向けた中長期経営計画等を立案し、達成すべき目標を定め、実現に努めています。また従業員は、「トヨタ基本理念」を实践する上で、共有すべき価値観や手法がまとめられた「トヨタウェイ2001」、「トヨタ行動指針」を行動原則とし、日常業務にあたっています。



## ■ CSR方針「社会・地球の持続可能な発展への貢献」

2005年1月、「トヨタ基本理念」をステークホルダーとの関係を念頭においてまとめた「社会・地球の持続可能な発展への貢献」を公表しました。2008年7月、その後の環境変化、社会のCSRへの関心の高まり等を踏まえ、CSR方針「社会・地球の持続可能な発展への貢献」として改定しました。

トヨタは、連結子会社とこれを共有、行動します。

### 〈お客様〉

- 私たちは、「お客様第一主義」という信念に基づき、世界中の人々の生活を豊かにするために、お客様の様々な期待に応える革新的・安全かつ卓越した高品質な製品とサービスを開発・提供します。(基本理念3, 4)
- 私たちは、各国の法およびその精神を遵守し、お客様をはじめ事業活動に関わる全ての人々の個人情報保護の徹底に努めます。(基本理念1)

### 〈従業員〉

- 私たちは、「事業活動の成功は従業員一人一人の創造力と優れたチームワークによってこそ達成される」との信念のもと、従業員を尊重し、個々人の成長を支援します。(基本理念5)
- 私たちは、均等な雇用機会を提供するとともに、従業員の多様性・一体感の確保に努力します。また、従業員に対する差別を行いません。(基本理念5)
- 私たちは、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。(基本理念5)
- 私たちは、事業活動に関わる全ての人々の人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。(基本理念5)
- 私たちは、従業員との誠実な対話と協議を通じ、「相互信頼・相互責任」の価値観を構築し共に分かち合います。そして、従業員と会社がお互いに繁栄するよう共に努力します。私たちは、従業員が自由に結社する権利または結社しない権利を、事業活動を行う国の法令に基づいて認めます。(基本理念5)
- 私たちは、経営トップの率先垂範のもと、倫理的な行動を促す企業文化を育て、それを実践していきます。(基本理念1, 5)

### 〈取引先〉

- 私たちは、サプライヤー・販売店などの取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。(基本理念7)

- 私たちは、取引先の決定にあたっては、全ての候補に対し、その国籍または規模に関わらず門戸を開き、その総合的な強みに基づき判断します。(基本理念7)

- 私たちは、各国の競争法の規定と精神を遵守し、公正かつ自由な取引を維持します。(基本理念1, 7)

### 〈株主〉

- 私たちは、株主の利益のために、長期安定的な成長を通じ、企業価値の向上を目指します。(基本理念6)
- 私たちは、株主および投資家に対して、事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。(基本理念1, 6)

### 〈地域社会・グローバル社会〉

#### 環境

- 私たちは、あらゆる事業活動を通じ環境保全に努め、環境と経済を両立する技術の開発と普及に取り組むとともに、社会の幅広い層との連携を図り、地球温暖化防止、生物多様性の保全等、環境との調和ある成長を目指します。(基本理念3)

#### 社会

- 私たちは、各国の文化・慣習・歴史および法令を尊重し、「人間性尊重」の経営を実践します。(基本理念2)
- 私たちは、社会が求めるサステイナブル・モビリティの実現に向けて、安全でクリーンかつ社会のニーズを満たす優れた技術を常に追求します。(基本理念3, 4)
- 私たちは、政府や取引先による贈収賄を許さず、行政府諸機関と誠実かつ公正な関係を維持します。(基本理念1)

#### 社会貢献

- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。(基本理念2)



## トヨタグローバルビジョン2020

世界の様々な地域で加速する経済の進展や地球規模の環境問題・エネルギー問題など、産業を取り巻く環境は大きく変化しています。その中で、10年先、20年先、地球の一員として、社会の一員として役に立つ存在であるために、トヨタは、世界の仲間と未来像を共有するグローバルビジョン2020を策定しました。

# Open the Frontiers of Tomorrow through the energy of people and technology

人と技術の力で明日の世界を切り開く

「Open the Frontiers of Tomorrow」は、従業員一人ひとりが、そしてトヨタが、新しい世界を切り開き、夢を着実に実現するという思いを込めています。

それに続く、「through the energy of people and technology」には、それを実行する源泉は、人のもつ力であり、技術の力であることを示しています。

### 【モノづくりと自然循環への調和へ…トヨタの考える世界観と私たちの使命】



トヨタは、今一度、自然と産業との関係を見つめなおし、  
「自然循環」と調和した「産業連環」の原動力となることを、  
2020年に向けた我々の使命と考えます。

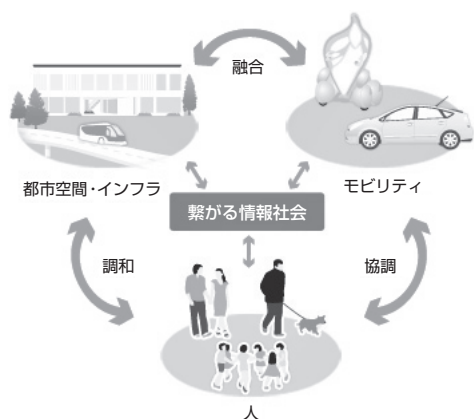
# 3つのサステナビリティ

## ■ビジョン

トヨタは創業以来、「自動車を通じて豊かな社会づくり」に貢献することを基本理念として、事業活動を営んでまいりました。2007年、創立70周年を機に、原点に立ち返り、持続可能な社会に向けて、今、我々ができることを改めて考えました。それが、「研究開発」「モノづくり」「社会貢献」からなる、「3つのサステナビリティ」というコンセプトです。2008年からは、「3つのサステナビリティ」に基づく取り組みを“Tomorrowプロジェクト”と命名し、より一層活動を推進するとともに、積極的にメッセージを発信しています。

### 1.研究開発

サステナブルな社会づくりを目指した  
技術イノベーション



サステナブルな未来社会に向けて、まずトヨタができることは、本業であるモビリティ技術に関連した研究開発です。人と、地球と共生できるクルマ社会を目指した「サステナブル・モビリティ」を実現する。そのために、「都市空間・インフラ」、「人」、「モビリティ」を常に三位一体（左図ご参照）でとらえて、研究開発を進めております。

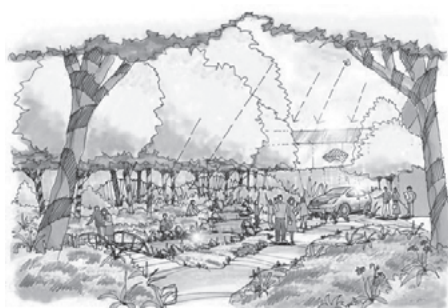
トヨタが考える技術開発の基本姿勢は、「ゼロナイズ」と「マキシマイズ」です。環境問題や交通事故、交通渋滞などクルマが社会に与えるネガティブインパクトを最小化（ゼロナイズ）し、同時に、クルマの楽しさや快適性、そして利便性などポジティブインパクトを最大化（マキシマイズ）することです。

トヨタは、「ゼロナイズ」と「マキシマイズ」を高次元で両立させ、「究極のエコカー」や「事故を起こさないクルマ」を目指し、「サステナブル・モビリティ」に向けた研究開発を日々続けております。

また、「サステナブル・モビリティ」実現のためには、私たちの生活空間から都市・交通・社会を構成するインフラ面にもイノベーションが必要です。さらに、代替エネルギーをはじめとする、地球・環境・資源を持続可能にする技術も欠かせません。トヨタは、サステナブルな社会づくりを目指し、「モビリティ」「都市・交通・社会」「生活空間」「地球・環境・資源」といったさまざまな分野で研究開発を推進してまいります。

### 2.モノづくり

サステナブルなモノづくりの追求



サステナブル・プラント Designed by 工藤未来

トヨタは、「つくるモノ（＝クルマ）」だけでなく、「つくる場所（＝工場）」、「つくるプロセス」においてもサステナビリティが必要だと考え、製造プロセスすべてを持続可能にするチャレンジを進めています。その第一歩が「サステナブル・プラント」。「自然を活用し、自然と調和する工場」をコンセプトに、太陽光・風力などの自然エネルギー活用、工場内緑化による生態系保護、省エネ・省資源活動による、工場のサステナビリティ化を実践し、100年以上経っても操業し続けられることを目指しています。さらには、物流システム、資源のリサイクルにおいても環境を重視した活動を行っております。

### 3.社会貢献

サステナブルな社会づくりへの  
社会貢献活動



中国における砂漠化防止プロジェクト

トヨタは自動車という商品そのものを通じて社会に貢献することは勿論のこと、世界的にも大きな課題である「環境」分野、我々の本業と切り離すことのできない「交通安全」分野、これからの社会を支える「人材育成」、また「芸術・文化・共生社会」といった領域で、これまで以上に高い次元での社会貢献活動を積極的に推進してまいります。

豊かな社会づくりとその持続的な発展のために貢献し、サステナブルな社会でトヨタが「信頼される良き企業市民」となることを目指して、グローバルで活動してまいります。

3つのサステナビリティについてはホームページでも公開しています。

[http://www.toyota.co.jp/jp/vision/sustainability\\_for\\_future](http://www.toyota.co.jp/jp/vision/sustainability_for_future)

# トヨタウェイ

## トヨタウェイによる価値観の共有

トヨタが「どのような会社でありたいか」という企業理念を表したものが「トヨタ基本理念」です。これを実践する上で、全世界のトヨタで働く人々が共有すべき価値観や手法を示したものが「トヨタウェイ2001」です。

事業の広がりにより多様な価値観をもつ人がトヨタの業務にかかわるようになり、暗黙知としてそれまで伝えられてきた価値観、手法を2001年に明文化しました。これにより、全世界の事業体で同じ価値観の共有が可能になりました。

また、トヨタウェイは環境変化の中で進化し、トヨタの強みでありつづけなければなりません。これからも、時代に応じトヨタウェイ自体を変革していきます。

トヨタウェイの2つの柱は、「知恵と改善」と「人間性尊重」です。

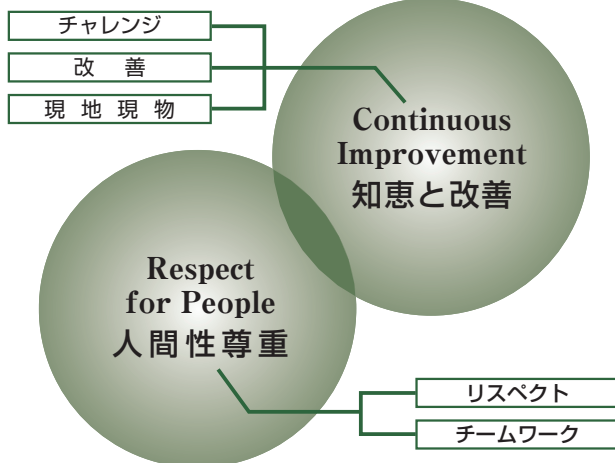
「知恵と改善」は、常に現状に満足することなく、より高い付加価値を求めて知恵を絞り続けること。そして「人間性尊重」は、あらゆるステークホルダーを尊重し、従業員の成長を会社の成果に結びつけることを意味しています。

### トヨタインスティテュートによる人材育成

トヨタウェイを共有するため、2002年1月に社内人材育成組織のトヨタインスティテュートを設立。

2003年以降は北米(アメリカ)に加え、欧州(ベルギー)、アジア(タイ、中国)、アフリカ(南アフリカ)、オセアニア(オーストラリア)の海外事業体がトヨタインスティテュートにならって人材育成の専門組織を設立しました。

### ●トヨタウェイ



## トヨタ行動指針



「トヨタ行動指針」

「トヨタ基本理念」を実践し、社会的責任を果たすため、トヨタで働く人々の基本的な心構えをまとめ、具体的な留意点を示したものが「トヨタ行動指針」(1998年策定)です。

2006年3月には、新たな法規制や社会の変化を踏まえ改訂しました。この改訂では、グローバルに通用するエッセンスを、世界のトヨタで働く人々が共有できるよう内容を見直すとともに、「会社からの指示・命令」ではなく、「トヨタで働く人々の自発的な宣言」にスタイルを改めました。また、子会社も含めてグローバルに共有すべき「行動指針」と、当社で働く人々に向けて具体的な留意点を示す「ハンドブック」の二段構成とし、前者の「行動指針」については、内外の子会社のトップにも配布し、子会社との意識の共有を図りました。



# アウトライン

## ■会社概要

会社名	トヨタ自動車株式会社 (TOYOTA MOTOR CORPORATION)
創立	1937年(昭和12年)8月28日

注)2008年3月末現在、従業員数は就業人数(受入出向者を含む)を記載。

従業員数	69,478人 (連結会社合計 316,121人)
資本金	3,970億5千万円

## 連結ベース (米国基準)

### ■経営状況

(1億円未満切捨)

	平成19年3月期 (18.4~19.3)	平成20年3月期 (19.4~20.3)	平成20年9月中間期 (20.4~20.9)
売上高	239,480億円	262,892億円	121,904億円
営業利益	22,386億円	22,703億円	5,820億円
当期純利益	16,440億円	17,178億円	4,934億円
設備投資*	14,826億円	14,802億円	6,255億円
研究開発	8,907億円	9,588億円	4,777億円
連結子会社数	522社	530社	530社
持分法適用会社数	56社	55社	55社

注)※ リース用資産除く。

### ■生産実績

		平成19年3月期 (18.4~19.3)	平成20年3月期 (19.4~20.3)	平成20年9月中間期 (20.4~20.9)
車両 (新車)	国内	5,100千台	5,160千台	2,451千台
	海外	3,080千台	3,387千台	1,638千台
	合計	8,180千台	8,547千台	4,089千台
	住宅	5,621戸	5,123戸	2,326戸

### ■販売実績

		平成19年3月期 (18.4~19.3)	平成20年3月期 (19.4~20.3)	平成20年9月中間期 (20.4~20.9)
車両 (新車)	国内	2,273千台	2,188千台	1,016千台
	海外	6,251千台	6,725千台	3,234千台
	合計	8,524千台	8,913千台	4,250千台
	住宅	5,807戸	5,431戸	2,436戸

## 単独ベース (日本基準)

### ■経営状況

(1億円未満切捨)

	第103期 (18.4~19.3)	第104期 (19.4~20.3)	第105期前半期 (20.4~20.9)
売上高	115,718億円	120,792億円	56,492億円
経常利益	15,551億円	15,806億円	5,952億円
当期純利益	10,601億円	11,381億円	4,722億円

### ■生産実績

	第103期 (18.4~19.3)	第104期 (19.4~20.3)	第105期前半期 (20.4~20.9)
国内生産台数	4,185千台	4,264千台	2,007千台
海外生産台数	3,939千台	4,424千台	2,162千台

### ■販売実績

	第103期 (18.4~19.3)	第104期 (19.4~20.3)	第105期前半期 (20.4~20.9)
国内販売台数(出荷)	1,659千台	1,595千台	722千台
輸出台数	2,597千台	2,708千台	1,303千台
住宅販売戸数	5,001戸	4,622戸	2,049戸

## ■車両生産・販売・輸出台数(2008年(平成20年)年間実績)

(単位:千台)

	トヨタ	ダイハツ	日野	合計
グローバル生産	8,211	908	106	9,225
国内生産	4,012	793	106	4,912
海外生産	4,198	115	—	4,313
グローバル販売	7,996	866	110	8,972
国内販売	1,470	642	41	2,153
海外販売	6,526	224	69	6,819
輸出	2,586	130	67	2,783

注) 国内生産: ラインオフベース、CBU+KD (含む国内向けOEM)  
 海外生産: 現地ラインオフベース、含む日本向け車両 (除く海外向けOEM、KD)  
 国内販売: 登録届出、含む海外生産車  
 海外販売: トヨタ・ダイハツ・日野調べ (除くOEM)  
 輸 出: 船積ベース、CBU+KD (含む海外向けOEM)

(千台未満四捨五入)

# 国内外の研究開発拠点



**トヨタモータースポーツ (TMG)**  
 設立:1993年(平成5年)  
 所在地:ドイツ(ケルン)  
 業務:F1カーの開発、F1レースへの参加

**Toyota Motorsport GmbH**  
 Establishment: 1993  
 Location: Cologne, Germany  
 Activities: Development of Formula One race cars; participation in F1 races



**本社テクニカルセンター  
Head Office Technical Center**



**トヨタモーターエンジニアリング&マニュファクチャリングノースアメリカ (株)**  
 設立:1977年(昭和52年)  
 所在地:ミシガン州、カリフォルニア州、アリゾナ州、ワシントンD.C.  
 業務:車両開発、試験・評価、認証、技術調査

**Toyota Motor Engineering and Manufacturing North America, Inc.**  
 Establishment: 1977  
 Location: Ann Arbor, Michigan, U.S.A.  
 York Township, Michigan, U.S.A.  
 Torrance, California, U.S.A.  
 Wittman, Arizona, U.S.A.  
 Washington, D.C., U.S.A.  
 Activities: Vehicle development & evaluation, certification, collection of technical information



**本社  
Head Office**



**トヨタモーターヨーロッパ R&D/マニュファクチャリング**  
 設立:1987年(昭和62年)  
 所在地:ベルギー(ブリュッセル)、イギリス(ダービー)  
 業務:車両開発、試験・評価、認証、技術調査

**Toyota Motor Europe R&D/Manufacturing**  
 Establishment: 1987  
 Location: Brussels, Belgium; Derby, U.K.  
 Activities: Vehicle development & evaluation, certification, collection of technical information



**キャルティ デザインリサーチ (株)**  
 設立:1973年(昭和48年)  
 所在地:カリフォルニア州(ニューポートビーチ)  
 業務:外形・室内・カラーデザイン

**Caltly Design Research, Inc.**  
 Establishment: 1973  
 Location: Newport Beach, California, U.S.A.  
 Activities: Exterior/interior/color design



**トヨタヨーロッパデザイン開発**  
 設立:1998年(平成10年)  
 所在地:フランス(ニース)  
 業務:外形・室内・カラーデザイン

**Toyota Europe Design Development**  
 Establishment: 1998  
 Location: Nice, France  
 Activities: Exterior/interior/color design



**トヨタ・モーター・アジア・パシフィック・エンジニアリング&マニュファクチャリング (株)**  
 設立:2003年(平成15年)  
 所在地:タイ(サムットプラカン県)  
 業務:車両開発、ソフトウェア開発、試験・評価、技術調査

**Toyota Motor Asia Pacific Engineering and Manufacturing Co., Ltd.**  
 Establishment: 2003  
 Location: Samutprakarn Province (Thailand)  
 Activities: Vehicle development, software development and evaluation, collection of technical information

※TTCAP-タイとTMAPタイを2007年4月に統合し、TMAP-EMとして社名を変更



**トヨタ テクニカルセンター アジア・パシフィック オーストラリア (株)**  
 設立:2003年(平成15年)  
 所在地:オーストラリア(メルボルン)  
 業務:車両開発、ソフトウェア開発、試験・評価、技術調査

**Toyota Technical Center Asia Pacific Australia Pty. Ltd.**  
 Establishment: 2003  
 Location: Melbourne, Australia  
 Activities: Vehicle development, software development and evaluation, collection of technical information

# 技術開発の歴史

トヨタは、お客様のニーズにお応えしながら環境にやさしく、安全性、走行性、快適性、信頼性などの要素を高度にバランスさせた自動車の開発に努めています。

■トヨタの技術開発（1990～）

凡例：▲環境対策関連技術 ●安全対策関連技術 ・その他 ※2009年3月時点

年	1990～1999	2000～
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲スモークレスディーゼルエンジン</li> <li>●電子制御スロットル</li> <li>▲ディーゼルスモークコントロールシステム (DSCS)</li> <li>●アルミクランクダンパーブリー</li> <li>●レーザークラッドシリンダーヘッド</li> <li>●5バルブエンジン</li> <li>▲新世代希薄燃焼エンジン</li> <li>▲連続可変バルブタイミング機構 (VVT-i)</li> <li>▲4弁直噴ディーゼル</li> <li>▲高効率直噴ガソリンエンジン (D-4)</li> <li>●窒化チタンコート</li> <li>▲燃料電池電気自動車 (FCEV)</li> <li>▲トヨタハイブリッドシステム (THS)</li> <li>▲VVTL-i (連続可変バルブタイミング&amp;可変リフト機構)</li> <li>▲コモンレール式直噴ディーゼルトーボエンジン (D-4D)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲Dual VVT-i</li> <li>▲ストイキD-4</li> <li>▲コモンレール式ピエゾインジェクション直噴ディーゼルトーボエンジン (D-4D Clean Power)</li> <li>▲Toyota Stop &amp; Go System</li> <li>▲燃料電池ハイブリッド車 (FCHV-4, FCHV-5)</li> <li>▲燃料電池ハイブリッド車 (トヨタFCHV)</li> <li>▲トヨタハイブリッドシステム (THS-C, THS-M, THSII)</li> <li>▲Toyota Intelligent Idling Stop System</li> <li>▲ディーゼルハイブリッドシステム</li> </ul>
駆動・制動 足廻り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6速M/T</li> <li>▲フレックスロックアップシステム</li> <li>●アクティブ4WS</li> <li>●車両安定性制御システム (VSC)</li> <li>●スーパーストラットサスペンション</li> <li>●ロータリトリブレッドカップリング</li> <li>●5速A/T</li> <li>●車両総合制御システム (i-Four)</li> <li>●ナビ協調シフト制御</li> <li>●ブレーキアシスト</li> <li>●EBD付ABS</li> <li>▲Super CVT</li> <li>●ARS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ランフラットタイヤ</li> <li>●新工法タイヤ</li> <li>●電子制御ブレーキシステム (ECB)</li> <li>●プリクラッシュセーフティシステム</li> <li>▲電気式4輪駆動システム (E-Four)</li> </ul>
ボディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●UVカットドアガラス</li> <li>●はっ水ドアガラス</li> <li>▲トヨタスーパーオレフィンポリマー (TSOP)バンパー</li> <li>●助手席エアバッグ</li> <li>●新衝突安全ボディ (GOA)</li> <li>●SRSカーテンシールドエアバッグ</li> <li>●SRSサイドエアバッグ</li> <li>●フォースリミッター付きシートベルト</li> <li>▲塗装補修バンパーリサイクル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーバックドア</li> <li>●助手席デュアルステージSRSエアバッグ</li> <li>●運転席デュアルステージSRSエアバッグ</li> <li>●プリクラッシュシートベルト</li> <li>●電動開閉式メタルトップシステム</li> <li>●運転席SRSニーエアバッグ</li> <li>●歩行者傷害軽減ボディ</li> </ul>
電子・電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マルチゾーンオートエアコン</li> <li>●タイヤ空気圧警報システム</li> <li>●GPSナビゲーション</li> <li>●ヘッドアップディスプレイ</li> <li>●CCD式バックモニター</li> <li>●GPSボイスナビゲーション</li> <li>▲燃焼圧センサー</li> <li>●ブラインドコーナーモニター</li> <li>●レーダークルーズコントロール</li> <li>▲電動パワーステアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スマートキーシステム</li> <li>●ナイトビュー</li> <li>●ステアリング感応式クリアランスソナー</li> <li>●インテリジェントAFS</li> <li>●音声ガイダンス機能付バックガイドモニター</li> <li>●G-BOOK</li> <li>●レーンモニタリングシステム</li> <li>●フロント&amp;サイドモニター</li> <li>●インテリジェントパーキングアシスト (IPA)</li> <li>●マイナスイオン発生装置</li> <li>●スマートエントリー&amp;スタートシステム</li> <li>●AC100Vコンセント</li> <li>●プラズマクラスター</li> <li>●花粉除去フィルター</li> </ul>
材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ディーゼル酸化触媒</li> <li>▲内装用高性能樹脂 (TSOP-5)</li> <li>●樹脂製燃料タンク</li> <li>●マグネシウムシリンダーヘッドカバー</li> <li>▲パラジウム三元触媒</li> <li>▲新冷媒エアコン</li> <li>●デオドラント機能付きファブリック</li> <li>▲リーンバーン用新三元触媒</li> <li>▲ディーゼル酸化触媒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ディーゼル車用高性能触媒システム (DPNR)</li> <li>▲トヨタエコプラスチック</li> <li>▲ケナフ材パッケージトレイトリム、ドアトリム</li> <li>▲植物系生分解樹脂 (バイオプラスチック)</li> <li>▲CO<sub>2</sub>冷媒電動ヒートポンプ式エアコン</li> </ul>

# 技術開発の歴史

注) 部分は、2008年以降に発表された技術

2000～	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▲VVT-iE (電動連続可変バルブタイミング機構)</li> <li>▲D-4S</li> <li>▲VALVEMATIC (新世代のエンジン動弁機構)</li> <li>▲リダクション機構付のTHSII</li> <li>▲リダクション機構付のTHSII+E-Four</li> <li>▲2段変速式リダクション機構付のTHSII</li> <li>▲2段変速式リダクション機構付のTHSII+フルタイムAWD</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲燃料電池ハイブリッド車 (トヨタFCHV-adv)</li> <li>▲Toyota Stop &amp; Start System</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●VDIM</li> <li>●VDIM (アクティブステアリング統合制御)</li> <li>●S-VSC+アクティブトルクコントロール4WD協調制御</li> <li>▲6 Super ECT (6速A/T)</li> <li>▲8 Super ECT (8速A/T)</li> <li>●アクティブスタビライザー サスペンションシステム</li> <li>●ドライバーステアリング付プリクラッシュセーフティシステム (ミリ波レーダー方式)</li> <li>●プリクラッシュセーフティシステム (前方対応: 歩行者検知・操舵回避支援) (ミリ波レーダー・ステレオカメラフュージョン方式)</li> <li>●プリクラッシュセーフティシステム (後方対応: 後方車両の注意喚起・プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クローコントロール</li> <li>●KDSS (キネティックダイナミックサスペンションシステム)</li> <li>●8-Speed SPDS (8速スポーツダイレクトシフト)</li> <li>●緊急ブレーキシグナル</li> <li>●ナビ・ブレーキアシスト</li> <li>●進化したドライバーステアリング付プリクラッシュセーフティシステム (目の開閉状態を検知)</li> <li>●前側方プリクラッシュセーフティシステム</li> <li>●プリクラッシュシートバック (前方・後方プリクラッシュセーフティシステムに対応)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アクティブヘッドレスト</li> <li>●SRSツインチャンバーエアバッグ</li> <li>●SRSシートクッションエアバッグ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SRSリヤウインドウカーテンシールドエアバッグ</li> <li>●SRS後席センターエアバッグ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワイドビューフロントモニター</li> <li>●LED ヘッドランプ</li> <li>●快適温熱シート</li> <li>●G-BOOK ALPHA</li> <li>●ヘルプネット</li> <li>●レーンキープアシスト</li> <li>●レーダークルーズコントロール (低速追従モード付)</li> <li>●地図差分配信技術「マップオンデマンド」 (カーナビゲーション用)</li> <li>●レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付)</li> <li>●G-BOOK mX</li> <li>●インテリジェントパーキングアシスト (IPA) (超音波センサー付)</li> <li>●酸素濃度コンディショナー</li> <li>▲エコドライブインジケータ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エコドライブモニター</li> <li>●ナイトビュー (歩行者検知機能付)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲エコプラスチック内装部品</li> <li>●抗ダニアレルゲン加工シート表皮</li> </ul>

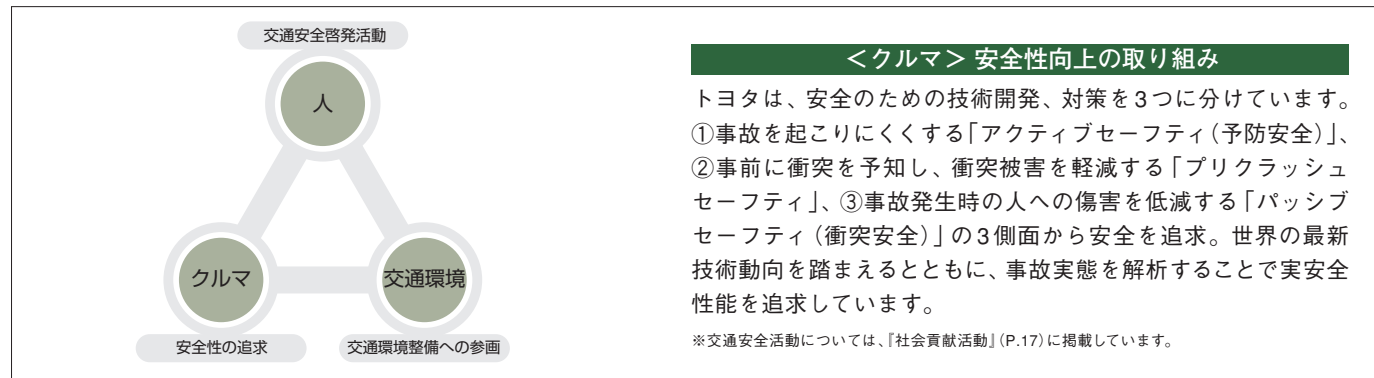
## 取り組み姿勢

### 「交通事故死傷者ゼロ」を目指して

クルマが、移動の利便を提供する交通手段として発展するためには、環境への負荷、交通事故、渋滞といったネガティブ・インパクトの最小化が必要です。トヨタは、クルマの性能向上や環境負荷の削減同様、健康で豊かなモビリティ社会の実現に向け、社会的課題への対応を最重要項目に位置付け、積極的に取り組んでいます。

安全に関しては、「交通事故死傷者ゼロ」を目指し、「人・クルマ・交通環境」が一体となった活動を推進しており、安全な「クルマ」づくりに加え、ドライバーや歩行者など「人」への啓発や「交通環境」整備への提言など、総合的にアプローチしています。

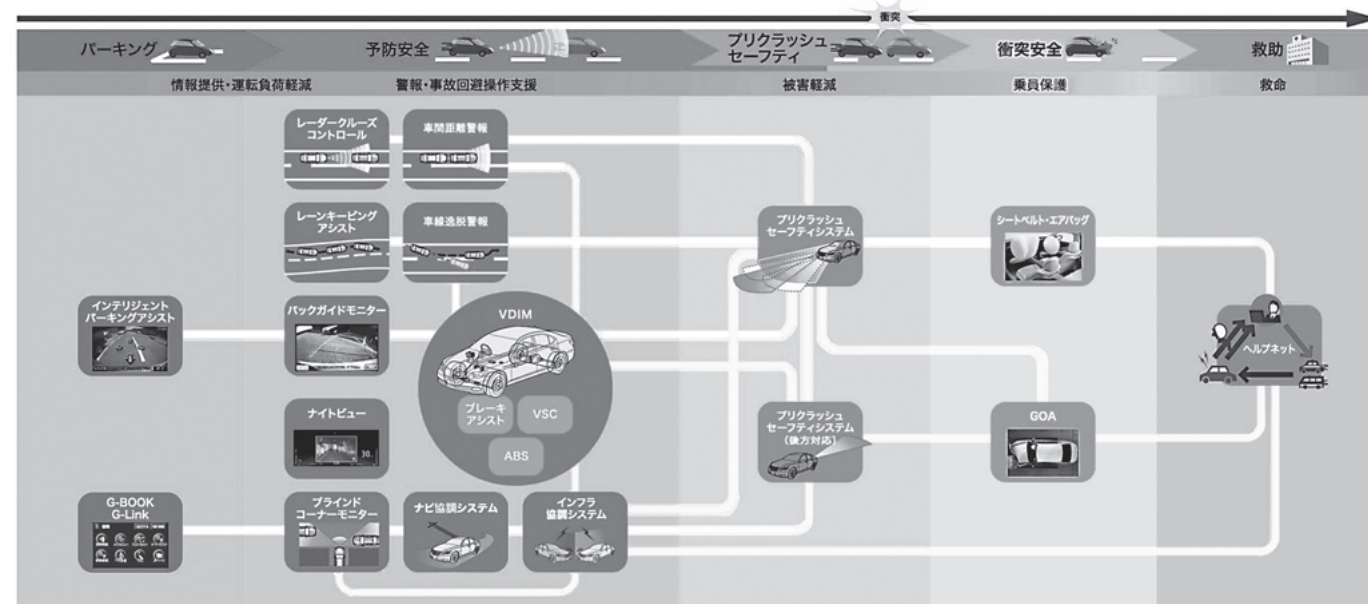
#### 交通安全総合対策



## 統合安全コンセプト

車両に搭載された個々の安全技術・システムを連携させていくとともに、将来的には、道路インフラとの協調(路車間)、自転車以外の車両から得た情報の活用(車車間)を図り、運転状況に応じた最適な運転支援を行うことにより、「事故を起こさないクルマ」の実現を目指した、今後のトヨタの安全技術・車両開発の考え方です。車両の個々の安全技術・システムを連携、さらには、「路車間」・「車車間」でも協調し、相乗効果を高めることにより、運転状況を事故に至る危険の大きさと分類した「パーキング、予防安全(アクティブセーフティ)、プリクラッシュセーフティ、衝突安全(パッシブセーフティ)、救助」の全ての運転ステージにおいて、高い安全性を追求。今後、各システムの連携をさらに進めることにより、クルマを「より危険が少ない状態」に近づけていき、「事故を起こさないクルマ」を目指します。

#### トヨタの統合安全コンセプトにおける安全技術・システムの連携イメージ





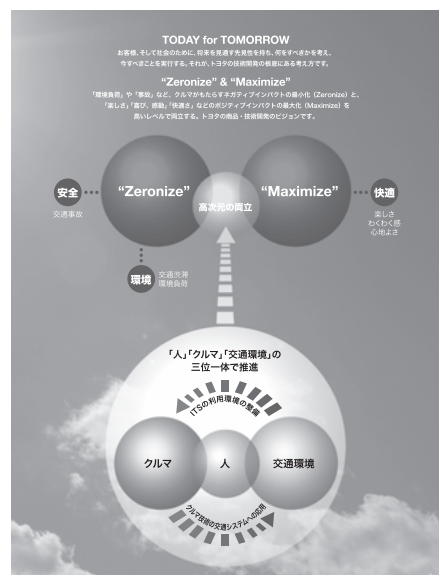
# ITSビジョン／安全

## 【ITSビジョン】

トヨタでは、来るべきITS社会・ユビキタスネットワーク社会に向けて、「安全・安心・快適に暮らせるクルマと車社会の創造」を目標の一つに掲げています。その実現のためのビジョンが「Zeronize (ゼロナイズ)」と「Maximize (マキシマイズ)」の高い次元での両立です。

「Zeronize」とは、交通事故、交通渋滞、環境負荷などのネガティブインパクトを限りなく小さくするために弛ゆまぬ努力を続けること。

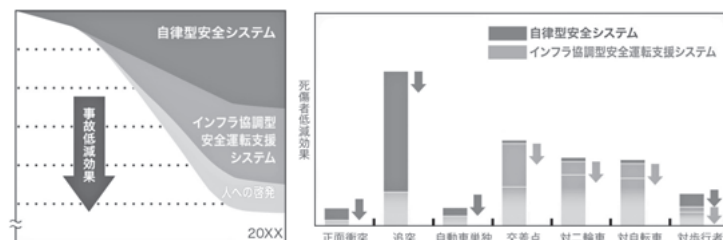
「Maximize」とは、人がクルマに求め続けている楽しさ、わくわく感、心地よさ等を通じて、心の豊かさを最大化すること。トヨタはこの目標に向かって「人」「クルマ」「交通環境」の三位一体でITSの推進に取り組んでいます。



## 【安全】インフラ協調型安全運転支援システム

トヨタは車両に搭載された個々の安全装備・システムを進化させると同時に、ITS技術を活用した「インフラ協調型安全運転支援システム」の開発に積極的に取り組んでいます。「インフラ協調型安全運転支援システム」では、クルマのセンサーでは捉えきれない情報を、道路に設置されたセンサーとクルマ、あるいはクルマとクルマが通信することで「事故を起こさない夢のクルマ」の実現を目指します。

●インフラ協調型安全運転支援システムの効果イメージ



## ■ITS-Safety 2010 公開デモンストレーション

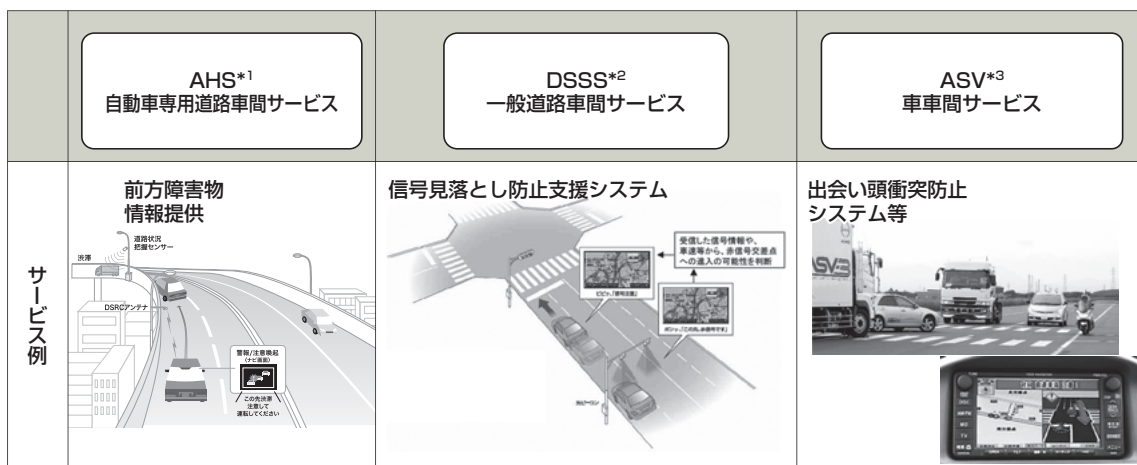
ITS技術の活用により交通事故低減を目指す「インフラ協調による安全運転支援システム」の実用化に向け、2009年2月25日から28日に、東京臨海副都心(お台場)周辺の一般道及び首都高速道路で実施された「ITS-Safety 2010 08年度大規模実証実験」公開デモンストレーション(ITS推進協議会主催\*)に参加しました。

今回のデモンストレーションでは、実験に対応した車両(LS460 5台)を開発し、路車間通信・車車間通信による「信号見落とし防止支援システム」や「右折時衝突防止支援システム」等のデモを行い、共通インフラと各メーカーの車載機の接続性、互換性などを確認しました。

※ITSによる安全運転支援システム推進のために関係省庁(内閣官房、警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省)及び産業界の代表で構成される協議会。



実験車両



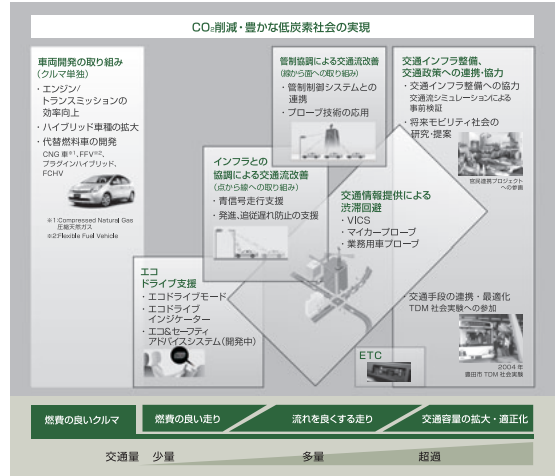
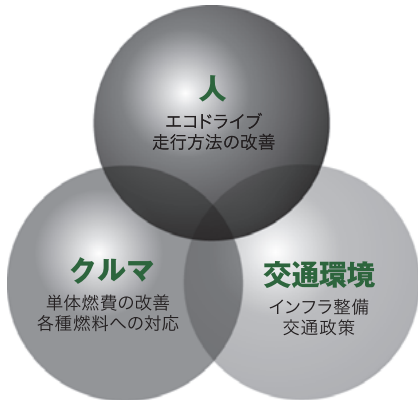
\*1 AHS: Advanced Cruise-Assist High way Systems \*2 DSSS: Driving Safety Support Systems \*3 ASV: Advanced Safety Vehicle

# 環境／快適

## 【環境】人・クルマ・交通環境の総合的な取組み

トヨタは、渋滞や排出ガスなどクルマがもたらす環境問題の解決には、クルマ自体の改良やエコドライブの実践に加え、高度化する情報通信技術の活用や抜本的なインフラ整備など、「人」「クルマ」「交通環境」が一体となった総合的な対応・取り組みが必要と考えています。

こうした考えのもと、「燃費の良いクルマ」の開発だけではなく、交通量に応じたシミュレーションに基づき、「燃費の良い走り」「流れを良くする走り」の開発・提案、さらには「交通容量の拡大・適正化」に寄与する手段の提案・協力などにより、渋滞緩和や交通流を改善し、CO<sub>2</sub>の低減と豊かな低炭素社会の実現を目指しています。



## 【快適】運転支援機能／情報サービス機能

「面倒な操作はクルマが実施」したり、「いつでも、どこでも、必要な情報とつながる」ことができれば、クルマに乗ることは、もっと楽しく、心地よいものになります。

トヨタは「走る」「曲がる」「止まる」のクルマの各機能の高度化を図り、簡単な操作でドライバーの負担をできる限り軽減することや、クルマが街や道路の周辺環境とつながることで、安全・安心をより充実させ、快適なドライブをサポートしています。

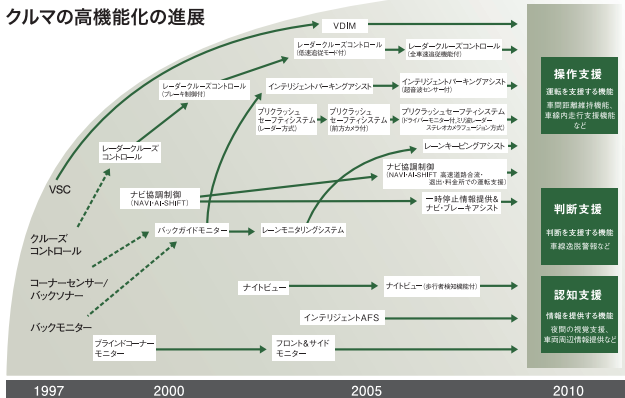
### ■運転支援機能

システムがドライバーの運転を支援することにより、運転の負担軽減を図り、利便性の向上やすべての人にクルマを運転する楽しみや安心感を提供する機能が「運転支援機能」です。トヨタでは運転時のドライバーの基本的な行動に沿った、外部情報等の認知、危険物の回避等の判断、操作それぞれを支援する機能の高度化、実用化を進めています。

### ■情報サービス機能

ITSの進化によって、「いつでも、どこでも、必要な情報とつながる」ことができれば、クルマに乗ることは、もっと楽しく、心地よいものになります。情報センターに蓄積されている道路や交通に関する膨大なデータ、個々のクルマが持っている多様な情報を、通信でリアルタイムに結び付け、共有することにより、ストレスのない快適なドライブが可能になります。

### クルマの高機能化の進展

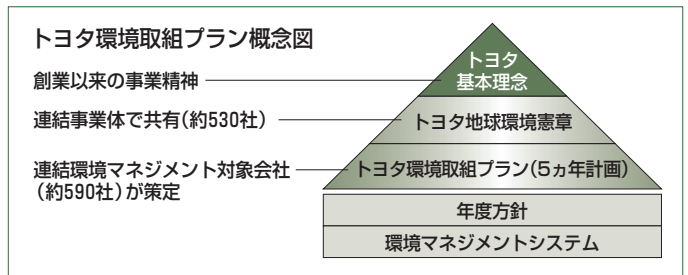
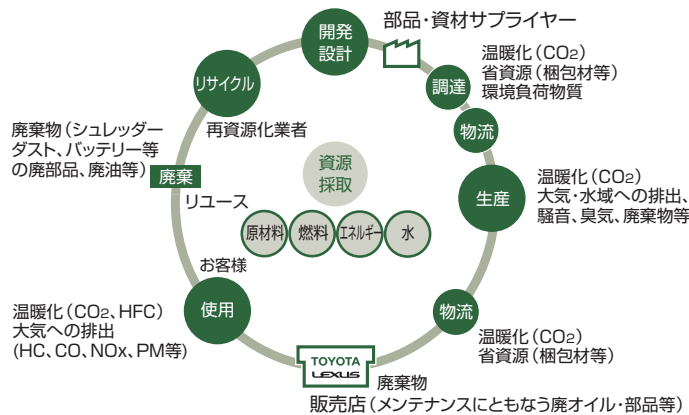


# 取り組み姿勢

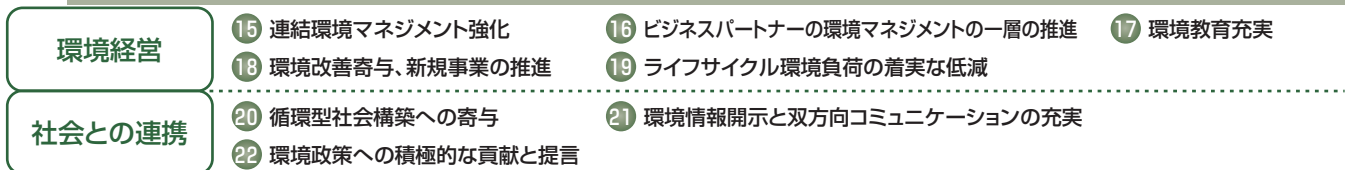
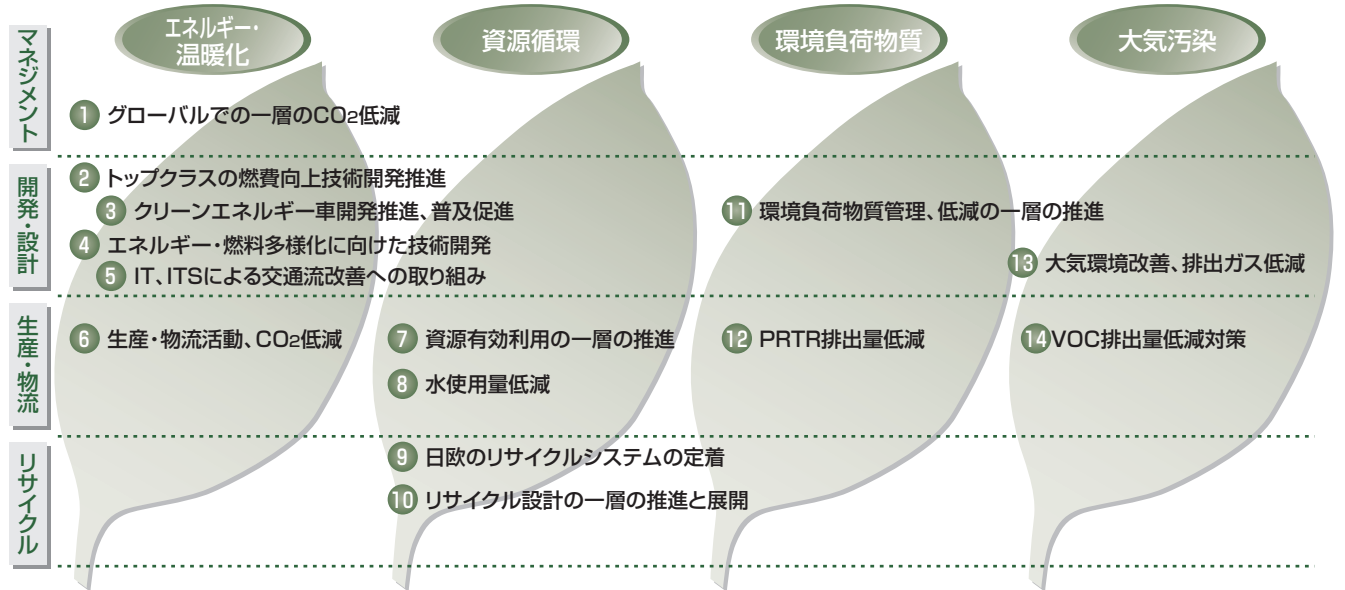
トヨタは、トップから一般従業員に至るまで、「地球温暖化問題とエネルギー問題への対応なくして自動車の未来はない」という強い危機意識を持って地球と共生できるクルマづくりに取り組んでいます。このため、1992年1月には、「地球環境に関するトヨタの取り組み方針（通称：トヨタ地球環境憲章）」を制定し、1993年2月にこれをより具体的に企業活動へ反映させるため「トヨタ環境取組プラン」を策定しました。また、2006年より2010年度目標を定めた第4次取組プランに基づく活動を開始し、目標達成に向け、取り組みを進めています。

## ■環境マネジメント

トヨタは、車の開発から生産、使用、廃棄、リサイクルにいたるすべての段階で環境負荷の低減に取り組んでいます。また、住宅、情報、バイオ・緑化事業等、あらゆる事業において環境への取り組みを進めます。世界各国・各地域でトップレベルの環境対応を実現するため、各地域・各分野において環境マネジメント体制を整備します。国内外の関連会社と一体となって連結環境マネジメントを推進し、全世界で環境経営を実現します。



## ■第4次「トヨタ環境取組プラン」2006～2010年度





# エネルギー・温暖化

エネルギー/温暖化問題は人類全体にとり最重要課題の一つであり、この問題を克服するため、世界全体のCO<sub>2</sub>排出量の20%を占める運輸部門が果たさなければならない役割は大きいと認識しています。今後も世界の交通需要、特に途上国など非OECD加盟国の保有台数の増加は顕著で、総走行量も増加傾向が続くため、温暖化対策なくして、持続可能な発展を実現することはできません。トヨタは、省エネルギーの観点からもCO<sub>2</sub>排出量削減に積極的に取り組みを進めています。

## 【開発・設計】 クリーンエネルギー車の開発推進と効果的な導入、普及促進

### ■燃費向上

トヨタはプリウスを発売した1997年から2007年までの10年間で日本国内で販売したトヨタ車全車の平均燃費を約28%向上させました。

### ■ハイブリッド車累計販売台数170万台を突破

1997年、初めてのハイブリッド車プリウスを発売し、以降ハイブリッド車種の拡充を図り、2008年12月には累計販売台数170万台を突破しました。ハイブリッド車は同クラスのガソリン車に比較し、約半分の燃料消費で走行できます。試算の結果、ハイブリッド車の普及によって、これまでに約850万tのCO<sub>2</sub>排出量と約320万klのガソリン消費を抑制することができました。今後は2010年代のできるだけ早い時期にハイブリッド車年間100万台販売を目指し、2020年代には全車種にハイブリッド技術を展開する予定です。

### ■プラグインハイブリッド車の開発

トヨタが培ってきたハイブリッド技術をベースに、「トヨタプラグインHV」を開発。2007年7月には公道走行を可能とする大臣認定を取得し公道走行試験を開始。引き続き米欧でも公道走行試験を実施しています。

### ●「トヨタプラグインHV」



「トヨタプラグインHV」はHV技術をベースに、モーターのみでの走行可能距離を拡大、家庭用電源からの充電も可能な機能を備えています。

### ■燃料電池ハイブリッド車の開発

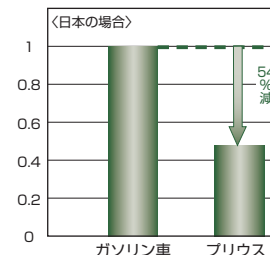
2008年9月より、新型燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV-adv」を販売開始。「トヨタFCHV-adv」は低温始動性や航続距離をより向上させています。

### ●「トヨタFCHV-adv」



「トヨタFCHV-adv」は、搭載する燃料電池システムを一新し、マイナス30℃の低温下でも始動・走行が可能となった。また、システム補機の消費電力低減や再生ブレーキシステムの改善により燃費を約25%向上させた。さらに70MPaの高圧水素タンクを搭載することで、一回の充填による航続距離を約830kmへと向上させました。

ハイブリッド車とガソリン車の燃料消費量比較



## 【生産・物流】 生産・物流分野におけるCO<sub>2</sub>低減

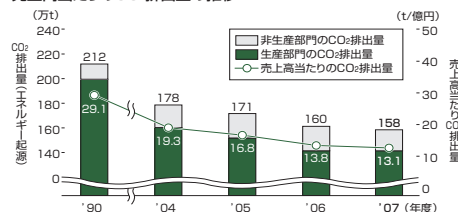
### ■グローバルで工場からのCO<sub>2</sub>を低減

全世界のトヨタ工場で「全員参加」、「現地・現物」、「見える化」等をキーワードに、継続的な取り組みを展開。その結果、TMC(トヨタ自動車株式会社=Toyota Motor Corporationの略)では、総量、原単位(売上高当り)とも改善、2007年には車両1台を1990年の半分以下のCO<sub>2</sub>排出量で生産しています。グローバルでも、2010年までに、2001年度比20%の原単位低減目標を既に達成しました。今後も、低CO<sub>2</sub>生産技術の開発・導入と日常カイゼン活動の継続等により、更にCO<sub>2</sub>の排出量低減を進めていきます。

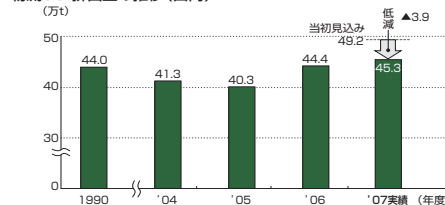
### ■物流効率化により排出を削減

トラックの積載率向上、東北・北海道向け鉄道輸送の拡大、海上輸送の港集約等により物流を効率化。物流パートナーと連携した燃費向上の継続により、2007年については、CO<sub>2</sub>を当初見込みに対し、3.9万トン低減しました。

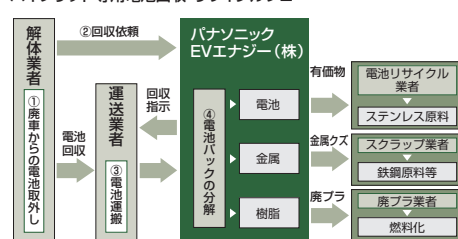
TMC CO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)と売上高当りのCO<sub>2</sub>排出量の推移



物流CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内)



ハイブリッド専用電池回収・リサイクルフロー



## 資源循環

### 【リサイクル】 日欧のリサイクルシステムの定着化

#### ■ハイブリッド車用電池リサイクル技術開発、回収システム構築

1997年12月のプリウス発売に伴い、翌1998年から全国規模のハイブリッド車用電池の回収リサイクルシステムをパナソニックEVエナジー(株)と共同で構築。2008年度は907個を回収リサイクルしました。このリサイクルシステムの周知徹底を図るため、「回収・リサイクルマニュアル」を配布するとともにホームページで公開しています。2008年3月、車種追加等に対応し、ホームページの更新を行い、全国の解体業者6,300事業所に、その旨案内しました。

「環境への取り組み」の詳しい内容については、ホームページ上の「Sustainability Report 2008」で公開しています。

<http://www.toyota.co.jp/jp/csr/report/08/index.html>

## 取り組みの考え方・体制

トヨタは、「社会から信頼される良き企業市民」を目指し、豊かな社会づくりとその持続的な発展のため、グローバルに社会貢献活動を推進しています。1989年に、社長を委員長とし、関係役員により構成する「社会貢献活動委員会」(2007年10月に、他の機能も統合のうえ「CSR委員会」を新設)を活動の最高意思決定機関として設置し、2006年1月には、活動の一層の強化を目的に、これまで社内に分散していた機能を集約し、全社の社会貢献活動を統括する「社会貢献推進部」を発足しました。「環境」「交通安全」「人材育成」の3分野をグローバル重点3分野として、社員のボランティア活動支援にも力を注ぎながら、社会ニーズに応じ、トヨタの持つ技術やノウハウ・リソースを活用し、積極的に活動を進めています。

### ■基本的な考え方

#### 社会貢献活動理念

目的	トヨタ自動車株式会社と関連子会社(以下トヨタ)は、豊かな社会の実現と、その持続的な発展のため、積極的に社会貢献活動を推進します。
取り組み姿勢	トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、持てる資源を有効に活用しながら、次の世代を担う人材の育成と社会的課題の解決に向けた社会貢献活動に取り組みます。
社員のインボルブメント	トヨタは、社員が一市民として主体的に行う社会貢献活動を支援します。
情報開示	トヨタは、社会貢献活動の成果を開示し、広く社会と共有し、社会の発展に寄与することを目指します。
グローバル展開	トヨタは、社会貢献活動基本方針をグローバルに共有し、各国・各地域の実状に合わせた社会貢献活動を展開します。

### ■推進体制



\*トヨタ財団についてはP.41でご紹介しています。



# 取り組み事例

## 【環境】

### <国内>

#### ■トヨタの森

1996年より、緑による環境の改善を狙いとする「トヨタの森」計画に取り組んでいます。具体的には、愛知県豊田市郊外のフォレストヒルズに里山活性化のための実験フィールドとしてモデル林を開設、ここで得られた緑化ノウハウを積極的に公開すると共に、回復した自然環境を活用した、学童向け自然ふれあい体験学習への協力など、様々な環境教育・学習の取り組みを進めています。



### <海外>

#### ■米国「Together Green」

2008年、米国トヨタはNGO「National Audubon Society」と連携し、全米レベルの環境保全プログラム「Together Green」を開始。革新的環境保全活動への助成や必要なスキル教育等を通じた環境保全リーダーの育成を実施しています。また、環境保全の大切さを伝え、活動参加への促進を図るため、全米各地でボランティア・デーを開催しており、現地の従業員も参加しています。



## 【交通安全】

### <国内>

#### ■交通安全啓発活動

1969年よりトヨタ交通安全キャンペーンを実施、同時に全国の新入園児に交通安全教材の配布を開始しました。1975年からは幼児向け交通安全教室、1987年からはドライバー向け安全運転講習を開始し、2005年には専用の安全運転講習施設「モビリティ」を立ち上げました。この他にも様々な機会を利用して国内外で交通安全イベントを実施し、幅広い層に向けた活動を行っています。



### <海外>

#### ■アジア「ホワイトロードキャンペーン」

トヨタは1988年より、子供向け交通安全啓発の一環として、「ホワイトロードキャンペーン」という名称の交通安全キャンペーンを発足。地元で人気のマスコットを活用し、子供達に、親しみやすい形で交通安全を呼びかけています。2004年には、タイの中心地に交通公園を開設。地域の子供達を父兄と共に招待し、楽しみながら交通安全を学べる施設・プログラムを展開しています。



## 【人材育成】

### <国内>

#### ■科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー

青少年の理科離れという社会的課題に対して、次代を担う子どもたちを対象に、社員であるトヨタ技術会の有志メンバーが講師を務め、全国の科学館・博物館と連携して開催する科学工作教室です。「空力ボディ」「衝突安全ボディ」などのオリジナル工作を通して科学・モノづくりへの興味や夢を育みます。1996年に開始以来、2008年度末で累計267回、約22,250人の児童が受講しました。



### <海外>

#### ■中国「トヨタ助学基金」

2006年、トヨタは中国宋慶齡基金会と共同で、中国中西部にある20の大学を対象に、優秀ながらも経済的な理由で大学進学・進級が困難な学生を支援するために「トヨタ助学基金」を設立しました。2006年から5年間、毎年200名を募集し、4年間に渡って年間5000元(約7.5万円)を給付しています。また全学生を中国の販売店や工場見学に招待したり、代表学生を日本に招聘するなど、社会を広く学べる機会を提供しています。



## 【芸術・文化】

### <国内>

#### ■トヨタコミュニティコンサート

音楽を通じて地域文化の振興に貢献することを目的に(社)日本アマチュアオーケストラ連盟と連携し、各地で活躍しているアマチュアオーケストラの公演を地元の販売会社とともに開催しています。1981年に開始以来、2008年度末で累計1,265回、約102万人の方々に来場いただいています。



### <国内>

#### ■トヨタ博物館

トヨタ自動車創立50周年を記念して建設され、世界中から収集したクラシックカー約140台を常設展示しています。車両はオリジナルを基本とし、いつでも動くように動態保存しているのが最大の特徴。年数回の企画展をはじめ、クラシックカー・フェスティバル、工作教室、バックヤード・ツアーなどさまざまなイベントも開催しています。

所在地：〒480-1131 愛知県長久手町  
(TEL 0561-63-5151)  
開館時間：9:30～17:00(但し、入館は16:30まで)  
月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始休館



### <国内>

#### ■トヨタテクノミュージアム産業技術記念館

トヨタグループ発祥の地に残された工場を産業遺産として保存・活用し、グループ13社により設立。グループが携わってきた繊維機械と自動車を中心に、産業と技術の変遷を本物の機械の動態展示や実演で紹介。

所在地：〒451-0051 名古屋西区則武新町4-1-35  
TEL 052-551-6115  
開館時間：9:30～17:00(但し、入館は16:30まで)  
月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始休館



## 【ボランティア】

### <国内>

#### ■トヨタボランティアセンター

従業員の自主性を尊重し、従業員・家族・OBを対象に、明るく、楽しく、安心してボランティア活動ができるように「啓発活動」と「情報提供活動」を主な業務として、1993年社内にトヨタボランティアセンターを設置。また、全工場・事業所にも窓口を設置し、従業員のボランティア活動を支援しながら地域との関わりを深めています。



### <海外>

#### ■中国「植林ボランティア」

2006年から社会貢献推進部、バイオ・緑化事業部、TMCI(トヨタ自動車(中国)投資有限公司)が協力し、日・中トヨタ従業員合同参加の植林ボランティアツアーを企画。森林伐採や環境汚染などで砂漠化が進む地域に少しでも多くの緑を取り戻すお手伝いとして、植林活動を行っています。これまでの日本人ボランティア参加者は、総勢65名となりました。



社会貢献活動については、ホームページでも公開しています。

[http://www.toyota.co.jp/jp/social\\_contribution/index.html](http://www.toyota.co.jp/jp/social_contribution/index.html)

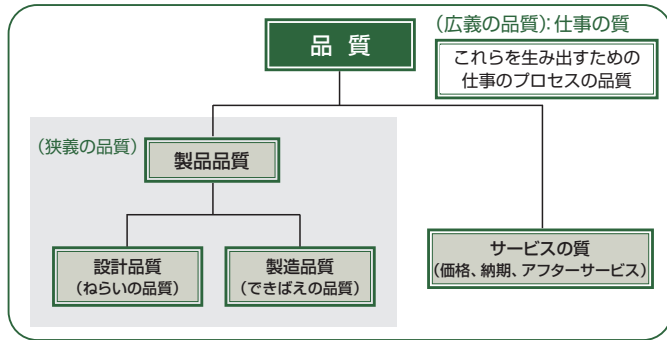
# CF活動／自工程完結活動

トヨタは創業以来、「お客様第一」「品質第一」の精神のもと、お客様に満足いただける商品・サービスの提供に組み続けています。2005年度から社長を委員長とするCF (Customer First) 活動推進委員会のもと、サプライヤーを含むオールトヨタでの「CF活動」を推進しています。とくに近年は、自動車技術の高度化、電子制御・部品による機能の複雑化、品質に対する市場の要求が一段と厳しくなっています。

このような状況のもと、品質に対する全社の意識をいま一度新たに、「品質のトヨタ」として10年後を見据えたさらなる改良・改善の取り組みを『愚直に、地道に、徹底的に実践』しています。

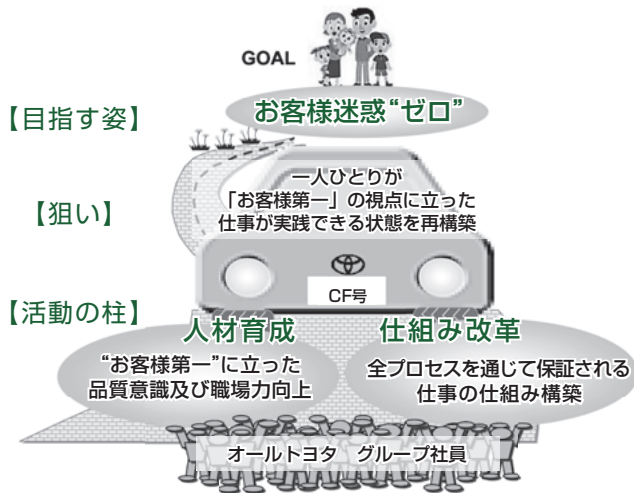
## ■品質に対する考え方

品質とは



## ■オールトヨタによるCF活動

CF (Customer First : お客様第一) 活動



## ■自工程完結活動

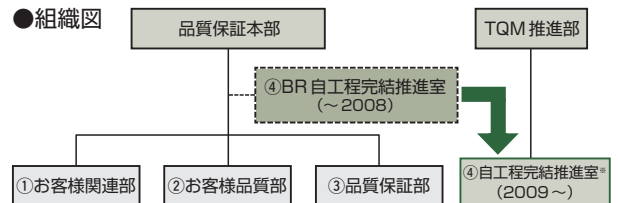
2007年1月より、トヨタのDNAである“品質は工程で造り込む”(自工程完結) という考え方の再認識とさらなる徹底を図り、開発・調達・生産・販売・サービスに至る全工程で、「自分の担当領域で悪いものを造らない」、「次の工程に決して悪いものを流さない」というモノづくりを目指して活動を開始しました。

現在、製造現場のみならず、管理間接部門も含めた全社で『自工程完結』の正しい理解と実践による『仕事の質』のさらなるスパイラルアップを目指して活動中です。

「品質月間(2008/11)」時の自工程完結活動推進ロゴ



トヨタの品質保証体制

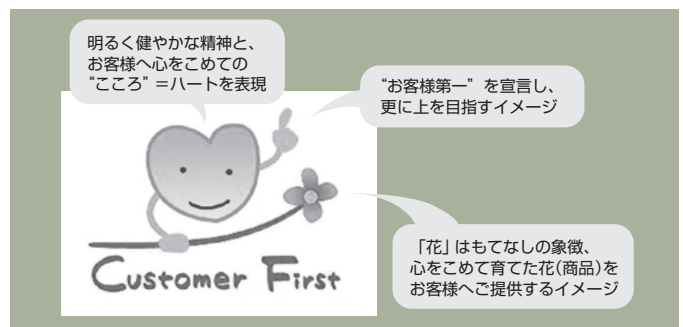


〈各組織の役割〉

- ① より良い製品・サービスづくりの強化のためにお客様の声を社内に展開
- ② 品質問題の早期発見・早期解決
- ③ 製品および体制や仕組みに対する監査改良
- ④ 自工程完結概念の社内普及と活動の定着化

※ TQM推進部の中に新組織として組み込まれ、自工程完結を軸としたTQM推進活動を実施中

CF活動のロゴマーク



《品質保証の歩み》

創業の精神

「トヨタ品質の原点」

佐吉翁 (豊田綱領等より)

1. 研究と創造に心をいたし、常に時流に先んずべし。
2. 十分な商品テストを行うにあらずんば、真価を世に問うべからず。

トヨタ生産方式 (TPS)

品質の良いモノを、安く、タイムリーにお客様へお届けする。

◆ジャスト・イン・タイム

無駄を出さない

⇒ 必要なモノを、必要な時に、必要だけ提供

◆自動化

悪いモノを造らない (本質的品質追求)

⇒ 設備や作業に異常があったらラインを止める

トヨタのDNA = “品質は工程で造り込む”

## トヨタグループ／サプライヤー

## ■トヨタグループ

会社名	設立	事業内容	資本金	従業員数	売上高	トヨタ 出資比率
(株)豊田自動織機 Toyota Industries Corporation	1926.11 (大正15年)	繊維機械、自動車、産業車両の製造・販売 物流事業	(百万円) 80,462	(人) 11,782	(百万円) 1,217,526	(%) 23.51
愛知製鋼(株) Aichi Steel Corporation	1940.3 (昭和15年)	鋼材、鍛造品、電磁品の製造・販売	25,016	2,328	202,859	23.71
(株)ジェイテクト JTEKT Corporation	1921.1 (大正10年)	工作機械、自動車用部品、 住宅設備品の製造・販売	36,854	10,023	683,176	22.54
トヨタ車体(株) Toyota Auto Body Co.,Ltd.	1945.8 (昭和20年)	乗用車、商用車、特殊車のボディー 及び部品の製造	10,371	11,564	1,502,240	56.23
豊田通商(株) Toyota Tsusho Corporation	1948.7 (昭和23年)	各種物品の国内・輸出入・外国間取引	64,936	2,474	4,862,155	21.57
アイシン精機(株) Aisin Seiki Co.,Ltd.	1949.6 (昭和24年)	自動車部品、住生活関連機器の製造・販売	45,049	11,830	878,996	22.25
(株)デンソー DENSO CORPORATION	1949.12 (昭和24年)	各種自動車用及びその他電装用品、 空調設備並びに一般機械器具、 電気機械器具の製造・販売	187,457	35,557	2,478,029	22.54
トヨタ紡織(株) Toyota Boshoku Corporation	1950.5 (昭和25年)	自動車用内装製品、フィルター及び パワートレイン機器部品、繊維製品等の 製造・販売	8,400	7,128	744,861	39.36
東和不動産(株) Towa Real Estate Co.,Ltd.	1953.8 (昭和28年)	不動産の所有・経営・売買・貸借	23,750	80	13,138	35.06
(株)豊田中央研究所 Toyota Central Research and Development Laboratories, Incorporated	1960.11 (昭和35年)	総合技術の開発、利用に関する各種の 研究・試験・調査	3,000	922	21,596	54.00
関東自動車工業(株) Kanto Auto Works, Ltd.	1946.4 (昭和21年)	乗用車、商用車、住宅関連機器及び 建築用部材の製造	6,850	5,758	739,456	50.08
豊田合成(株) Toyoda Gosei Co.,Ltd.	1949.6 (昭和24年)	ゴム・プラスチック・ウレタン製品、半導体、 電気・電子製品、接着剤等の製造・販売	28,027	6,185	386,722	42.66
日野自動車(株) Hino Motors, Ltd.	1942.5 (昭和17年)	トラック、バス、小型商用車、乗用車、 各種エンジン、補給部品の製造・販売	72,717	10,366	1,034,155	50.11
ダイハツ工業(株) Daihatsu Motor Co.,Ltd.	1907.3 (明治40年)	乗用車、商用車、特装車及び部品の 製造・販売	28,404	12,371	1,270,836	51.19

注) 2008年3月現在。 資本金、従業員数は各社決算期末の数値。売上高は2007年4月～2008年3月。

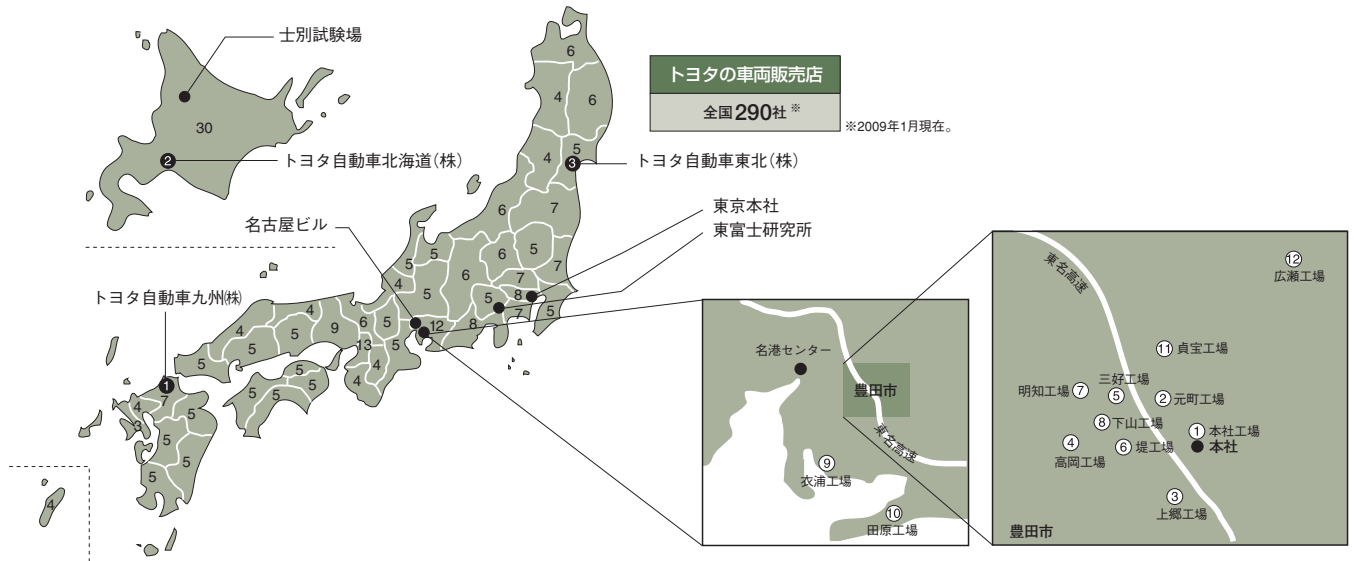
## ■サプライヤー

組織名	設立	会員	備考
協豊会	1943.12 (昭和18年)	217社	部品サプライヤー
栄豊会	1983.4 (昭和58年)	125社	設備・物流サプライヤー
合計		342社	(協豊会・栄豊会の重複加入を除くと326社)

注) 2009年4月現在。

# 国内の生産・販売体制

## 国内の主要事業所・販売・サービスの体制



## 国内の生産拠点

名称	事業内容・生産品目	完成年月	生産台数(千台)	従業員数(人)
① 本社工場	鍛造部品、ハイブリッド用部品	1938.11	—	3,719
② 元町工場	クラウン、マークX、エスティマ	1959.8	124	7,314
③ 上郷工場	エンジン	1965.11	—	3,376
④ 高岡工場	カロラ、ヴィッツ、iQ、イスト、ラクティス、サイオンxD	1966.9	391	4,608
⑤ 三好工場	駆動関係部品、冷鍛・焼結部品、エンジン関係部品	1968.7	—	1,529
⑥ 堤工場	プリウス、カムリ、プレミオ、アリオン、ウィッシュ、サイオンtC	1970.12	402	4,968
⑦ 明知工場	駆動系足廻り鋳物部品、駆動系足廻り機械部品	1973.6	—	1,661
⑧ 下山工場	エンジン、ターボチャージャー、触媒コンバーター	1975.3	—	1,726
⑨ 衣浦工場	駆動関係部品	1978.8	—	3,238
⑩ 田原工場	LS、GS、IS、IS F、GX、RAV4、ランドクルーザー、ヴァンガード、エンジン	1979.1	549	7,589
⑪ 貞宝工場	機械設備、樹脂型、鋳造型、鍛造型	1986.2	—	1,409
⑫ 広瀬工場	電子制御装置、IC等の研究開発及び生産	1989.3	—	1,381
① トヨタ自動車九州(株)	IS、ES、RX、ハリアー、ハイランダー、エンジン、ハイブリッド用部品	1992.12	363	5,791
② トヨタ自動車北海道(株)	自動変速機、無段変速機、トランスファー、アルミホイールなど自動車部品	1992.10	—	2,132
③ トヨタ自動車東北(株)	電子制御ブレーキ、サスペンション、アクスル、トルクコンバーター	1998.10	—	293

注) 1. 2009年2月現在 (事業内容・生産品目、生産台数は2008年実績)。  
 2. トヨタ自動車九州(株)、トヨタ自動車北海道(株)、トヨタ自動車東北(株)はトヨタ自動車の100%出資会社。

## その他の拠点

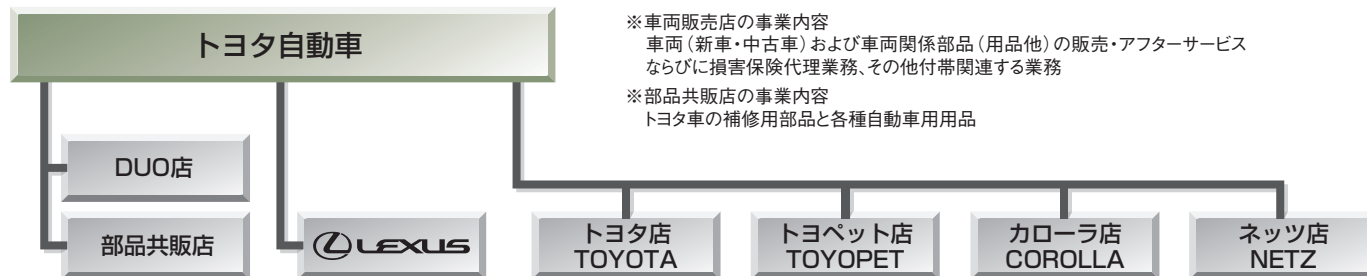
名称	事業内容	完成年月	従業員数(人)
名港センター	国内外向け完成車両の船積	1964.5	8
稲沢部品センター	大物補給部品・用品の入出庫	1978.10	67
大口部品センター	中・小物補給部品の入出庫	1978.1	178
上郷物流センター	海外及び国内遠隔地生産用部品出荷・内外装補給部品の入出庫	1968.8	207
飛島物流センター	海外向けの生産用部品出荷・補給部品の入出庫	1988.11	144

注) 2009年2月現在。



# 販売体制

## ■販売・サービス網と事業内容



## ■取扱車（2009年2月現在）

店名	トヨタ店		トヨペット店		カローラ店	ネッツ店
	東京	大阪	東京	大阪		
●セダン						
センチュリー	●	●	●	●		
クラウン マジェスタ	●	●	●	●		
クラウン （“ロイヤルサルーン”シリーズ、 “アスリート”シリーズ、“ハイブリッド”）	●	●	●	●		
クラウンセダン	●	●	●	●		
クラウンコンフォート	●	●	●	●		
コンフォート		●	●	●		
マークX	●		●	●		
カムリ					●	
プレミオ			●	●		
アリオン	●	●	●	●		
プリウス	●	●	●	●		
カローラ アクシオ					●	
ベルタ			●	●	●	
●ニューコンセプト						
マークXジオ	●		●	●		
●2BOX系						
ブレイド	●	●	●	●		
オーリス						●
カローラルミオン					●	
ラウム						●
ポルテ	●	●	●	●		
ラクティス			●	●	●	
bB						●
イスト						●
ヴィッツ						●
パッソ					●	
iQ						●
●ステーションワゴン						
サクシード	●	●	●	●		
カローラ フィールダー					●	
プロボックス					●	

店名	トヨタ店		トヨペット店		カローラ店	ネッツ店
	東京	大阪	東京	大阪		
●ミニバン・キャブワゴン						
エスティマ	●	●	●	●		●
エスティマハイブリッド	●	●	●	●		●
アイシス	●	●	●	●		
イプサム			●	●		●
ウィッシュ						●
シエンタ					●	
アルファード			●	●	●	
ヴェルファイア						●
ハイエース		●	●	●	●	
ノア					●	
ヴォクシー						●
パッソセッテ					●	
●スポーツユーティリティ系						
ランドクルーザー	●	●			●	
ランドクルーザープラド	●	●			●	
ハイラックスサーフ	●	●	●	●		
ハリアー			●	●	●	
ハリアーハイブリッド			●	●	●	
ヴェンガード			●	●	●	●
RAV4						●
ラッシュ			●	●	●	
●バン・トラック・バス						
サクシード	●	●	●	●	●	
プロボックス						●
ハイエース		●	●	●	●	
タウンエース						●
ライトエース						●
レジアスエース						●
ダイナ（2t系/1t系）	●	●			●	
トヨエース（2t系/1t系）			●	●	●	
コースター	●	●			●	
クイックデリバリー200	●	●			●	

LEXUS LS600h/LS600hL, LS460/LS460 AWD /LS460L/LS460L AWD, GS450h, GS460/GS350/GS350 AWD, IS350/IS250 /IS250 AWD, RX450h/RX350, SC430, IS F

DUO店 <VW> Polo, Golf, Golf Variant, Golf Touran, Jetta, New Beetle, New Beetle Cabriolet, Passat, Passat Variant, Passat cc, Eos, Touareg

※トヨタ特装車は、ベース車と同じ販売店で扱っています。



## 車名別国内生産台数

## ■トヨタブランド

車名	生産開始年	2008年 生産台数(台)	2008年 までの累計(台)
ランドクルーザー	1951	404,759	6,014,017
クラウン	1954	68,822	5,815,754
トヨエース・ダイナ	1954・56	39,996	3,599,853
コースター	1963	17,710	374,747
カローラ	1966	535,997	24,283,672
ハイエース	1967	215,130	5,354,668
ハイラックス	1967	47,853	10,912,439
センチュリー	1967	277	40,390
カムリ	1980	62,015	4,037,538
エスティマ	1990	60,839	1,973,612
RAV4	1994	312,494	3,169,905
コンフォート	1995	8,643	159,319
イブサム	1996	4,810	703,260
プリウス	1997	299,744	1,257,859
ハリアー	1997	42,421	1,009,554
ラウム	1997	15,079	318,424
ウィッツ	1999	270,952	2,562,259
bB	2000	35,760	644,022
ヴォクシー	2001	73,444	501,989
ノア	2001	56,833	511,495
プレミオ	2001	30,656	283,117
アリオン	2001	28,480	259,367
エスティマハイブリッド	2001	11,617	57,518
アルファード	2002	44,839	452,500
イスト	2002	10,149	507,730
プロボックス	2002	40,751	315,314
サクシード	2002	20,733	164,907
ウィッシュ	2003	42,591	591,057
シエンタ	2003	38,342	259,479
アルファードハイブリッド	2003	1,345	24,572
サイオンxB	2003	41,538	(-)
パッソ	2004	73,545	386,261
マークX	2004	20,245	182,367
アイシス	2004	26,068	198,420
ポルテ	2004	33,590	192,492

注) ※1. 完成車輸出・KD分含む。

※2. 〃は海外専用車。

※3. サイオンはトヨタブランドに含む。

1. ランドクルーザーには70、プラド、200、GX、LXを含む。

2. クラウンにはクラウンアスリート、クラウンセダン、クラウンマジェスタ、クラウンロイヤル、クラウンコンフォートを含む。

3. トヨエース・ダイナには宅配車を含む。

4. コースターの累計生産台数は1965年以降の台数。それ以前はダイナに含まれる。

5. カローラにはカローラアクシオ、カローラフィールダー、カローラルミオンを含む。

6. コンフォートには教習車を含む。

7. ハリアーには旧RX、ハリアーハイブリッドには旧RXハイブリッドを含む。

8. ESの累計生産台数は海外専用車に変更後からの台数。

車名	生産開始年	2008年 生産台数(台)	2008年 までの累計(台)
ベルタ	2005	234,002	679,660
ラクティス	2005	51,407	213,271
ハリアーハイブリッド	2005	40,229	153,403
オーリス	2006	25,491	100,724
ブレイド	2006	7,988	43,621
FJクルーザー	2006	43,553	197,449
サイオンtC	2006	30,564	186,383
カムリハイブリッド	2006	4,530	53,397
ヴァンガード	2007	19,366	34,557
マークXジオ	2007	10,997	30,246
ハイランダー	2007	107,825	202,360
ハイランダーハイブリッド	2007	23,117	35,368
サイオンxD	2007	27,180	46,812
クラウンハイブリッド	2008	8,836	8,836
ヴェルファイア	2008	42,083	42,083
iQ	2008	18,849	18,849

## ■レクサスブランド

車名	生産開始年	2008年 生産台数(台)	2008年 までの累計(台)
IS	2005	93,612	348,716
SC	2005	2,756	21,258
GS	2005	27,440	174,028
GSハイブリッド	2006	5,388	19,194
ES	2006	99,400	307,957
LS	2006	31,823	125,808
LSハイブリッド	2007	8,201	17,403
IS F	2007	5,828	6,096
RX	2008	3,132	3,132

資料：トヨタ自動車

## 車名別国内登録台数

## トヨタブランド

車名	販売開始年	2008年 登録台数(台)	2008年 までの累計(台)
ランドクルーザー	1951	16,958	693,066
トヨエース	1954	6,985	1,332,201
クラウン	1955	66,661	5,032,117
ダイナ	1956	11,841	1,186,443
コースター	1963	1,798	140,467
カローラ	1966	144,056	11,855,803
ハイエース	1967	50,358	2,760,108
センチュリー	1967	270	40,320
ハイラックス	1968	5,967	1,163,161
マークII	1968	3	4,813,260
ライトエース	1970	4,581	1,740,522
セリカ	1970	1	864,799
タウンエース	1976	6,667	2,132,339
カムリ	1980	4,864	1,218,327
エスティマ	1990	58,471	1,506,404
カルディナ	1992	1	799,033
RAV4	1994	11,211	403,620
コンフォート	1995	8,373	138,505
クイックデリバリー	1995	618	19,899
イブサム	1996	2,834	521,548
プリウス	1997	73,117	363,922
ハリアー	1997	27,406	313,523
レジアス	1997	21,651	259,764
ラウム	1997	14,117	316,384
ヴェイツ	1999	123,332	1,186,885
MR-S	1999	3	21,041
ファンカーゴ	1999	1	359,655
bB	2000	32,415	455,281

- 注) 1. ランドクルーザーにはブラドを含む。  
 2. クラウンにはクラウンセダン、クラウンロイヤル、クラウンアスリート、クラウンマジェスタ、クラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。  
 3. カローラにはカローラセダン、カローラスパシオ、カローラフィールダー、カローラアクシオ、カローラルミオンを含む。  
 4. ハイエースにはトヨタ救急車を含む。  
 5. ハイラックスにはハイラックスサーフを含む。  
 6. マークIIにはマークIIプリットを含む。  
 7. エスティマ、ハリアー、アルファードにはそれぞれハイブリッドを含む。  
 8. コンフォートにはコンフォート教習車を含む。  
 9. レジアスにはレジアスエース、レジアスエースコミューターを含む。  
 10. アベンシスにはアベンシスワゴンを含む。  
 11. トヨタ教習車、大型バス、コミューターを除く。

車名	販売開始年	2008年 登録台数(台)	2008年 までの累計(台)
ヴォクシー	2001	71,685	497,221
ノア	2001	55,967	506,428
プレミオ	2001	31,375	277,531
アリオン	2001	29,214	256,867
プレビス	2001	3	33,396
アルファード	2002	45,471	468,506
プロボックス	2002	40,522	332,644
サクシード	2002	20,370	163,526
イスト	2002	13,006	395,937
ウィッシュ	2003	39,298	551,464
シエンタ	2003	34,818	254,139
アベンシス	2003	3,745	57,422
パッソ	2004	72,579	381,644
マークX	2004	21,129	180,325
アイシス	2004	26,538	196,186
ボルテ	2004	32,965	190,030
ラクティス	2005	51,700	209,824
ベルタ	2005	20,728	83,425
ラッシュ	2006	12,440	53,686
オーリス	2006	22,901	64,587
ブレイド	2006	10,096	42,784
ヴァンガード	2007	20,232	33,391
マークX ジオ	2007	17,619	28,745
クラウンハイブリッド	2008	8,249	8,249
ヴェルファイア	2008	38,622	38,622
トヨタFCHV	2008	23	23
iQ	2008	4,021	4,021
パッソ セツテ	2008	193	193

## レクサスブランド

車名	販売開始年	2008年 登録台数(台)	2008年 までの累計(台)
IS	2005	8,542	32,685
SC	2005	621	3,564
GS	2005	4,070	20,929
GSハイブリッド	2006	1,314	4,532
LS	2006	5,515	29,214
LSハイブリッド	2007	4,298	9,624
IS F	2007	1,568	1,577
RX	2009	20	20

資料：トヨタ自動車

## 国内販売車両一覧

■国内販売車両一覧（2009年3月現在）

車名	車名の由来	初代モデル発表時期	車名	車名の由来	初代モデル発表時期
1 ランドクルーザー <sup>1)</sup>	Land(陸)とCruiser(巡洋艦)を合成した名前で、「陸の巡洋艦」という意味	1951. 8	27 イスト	stylist、artistなど、～の演出家、作家といった「～をする人」を表す接尾語	2002. 5
2 ダイナトヨエース	ダイナはDynamic(活力ある、機動力ある)の短縮、トヨエースはTOYOTAとAce(第一人者、最も優れた者、切り札)からの合成語	1956.5(ダイナ) 1954.9(トヨエース)	28 アルファード <sup>8)</sup>	星座の中で最も明るい星を意味するギリシア語のα(alpha)に由来する造語	2002. 5
3 クラウン <sup>2)</sup>	英語で「王冠」という意味	1955. 1	29 プロボックス	英語の「professional(プロの)」と「box(箱)」を合わせた造語	2002. 7
4 コースター	「沿岸貿易船」「巡航船」という意味	1963. 3	30 サクシード	英語で「成功する」の意味	2002. 7
5 カローラ <sup>3)</sup>	英語で「花の冠」という意味	1966.10	31 ウィッシュ	英語で「希望」、「願い」の意味	2003. 1
6 センチュリー	英語で「1世紀=100年」という意味	1967. 9	32 シエンタ	スペイン語の「siete(7)」と英語の「entertain(楽しませる)」からの造語	2003. 9
7 ハイエース	High(高級な、より優れた)とAceの合成語	1967.10	33 パッソ	イタリア語で「ステップ、足音」の意味	2004. 6
8 ハイラックス <sup>4)</sup>	High(高級な、より優れた)とLuxury(ぜいたくな、豪華な)の合成語	1968. 3	34 ポルテ	フランス語で「扉、ドア」の意味	2004. 7
9 ライトエース	Light(軽い、軽快な)とAceの合成語	1970.10	35 アイシス	英語で「古代エジプト豊穡の神」の意味	2004. 9
10 タウンエース	Town(町、都会)とAceの合成語	1976.10	36 マークX <sup>9)</sup>	Mark(目標、成功)とX(次世代の)の造語	2004.11
11 カムリ	カムリは日本語の「冠」をもとにつくった言葉	1980. 1	37 ラクティス	「Runner with Activities」からの造語	2005. 9
12 エスティマ <sup>5)</sup>	英語で「尊敬すべき」という意味のエスティマブル(estimable)からの造語	1990. 5	38 ベルタ	イタリア語の「美」の意味	2005.11
13 ハイメディック	「高規格な医療設備を備えた車」という意味	1992. 5	39 ラッシュ	英語で「勢いよく進む」の意味	2006. 1
14 RAV4	Recreational Active Vehicle 4 wheel driveの略	1994. 5	40 オーリス	ラテン語のAURUM「黄金」、英語のAURA「独特の雰囲気」からの造語	2006.10
15 コンフォート <sup>6)</sup>	「安らぎ、快適」という意味	1995.12	41 ブレイド	英語で「刀、やいば」の意味	2006.12
16 イプサム	ラテン語IPSUM「本来の」の意味	1996. 5	42 ヴァンガード	英語で「先駆者」の意味	2007. 8
17 レジアスエース	レジアスとエースの合成語。レジアスはラテン語で「華麗な」「すばらしい」の意味	1997. 4	43 ヴェルファイア	英語の「VELVET(もの静かな)」「FIRE(情熱)」からの造語	2008. 5
18 ラウム	英語の「ROOM」に相当するドイツ語	1997. 5	44 iQ	「i」は「個性(individuality)」、「Q」は「革新(innovation)」、「知性(intelligence)」という意味をあわせもち、「Q」は「品質(quality)」、「立体的な(cubic)」という言葉の音と「ぎっかけ(cue)」という言葉に由来	2008.10
19 プリウス	ラテン語で「～に先立って」の意味	1997.10	45 パッソセット	セットはイタリア語で「7」の意味	2008.12
20 ハリアー <sup>7)</sup>	英語で「小さな鷹の一種“チュウヒ”」の意味	1997.12	46 <LEXUS> GS <sup>10)</sup>	「Grand Sedan」の略	2005. 8
21 ヴィッツ	ドイツ語のWITZ(「才気、機知」の意)からの造語	1999. 1	47 <LEXUS> IS <sup>11)</sup>	「Intelligent Sports Sedan」の略	2005. 8
22 bB	未知の可能性を秘めた箱、「ブラックボックス」のイニシャル	2000. 2	48 <LEXUS> SC	「Sports Coupe」の略	2005. 8
23 ヴォクシー	英語のVOX(言葉・声)からの造語	2001.11	49 <LEXUS> LS <sup>12)</sup>	「Luxury Sedan」の略	2006. 9
24 ノア	優しい語感の人名(英語)から命名	2001.11	50 <LEXUS> RX	「R」は「Radiant=輝く、光を放つ」、「X」は「Crossover=交差を意味するx」に由来	2009. 1
25 プレミオ	英語の「PREMIER(第1位の)」からの造語	2001.12			
26 アリオン	英語の「ALL IN ONE(すべてをひとつに)」からの造語	2001.12			

注) 1)ランドクルーザープラドを含む。 2)クラウンマジェスタ、ロイヤル、アスリート、コンフォートを含む。  
3)カローラアクシオ、カローラフィールダー、カローラハイブリッドを含む。 4)ハイラックスサーフを含む。  
5)エスティマハイブリッドを含む。 6)教習車を含む。 7)ハリアーハイブリッドを含む。  
8)アルファードハイブリッドを含む。 9)マークXジオを含む。 10)GS450hを含む。  
11)IS Fを含む。 12)LS600h、LS600hLを含む。

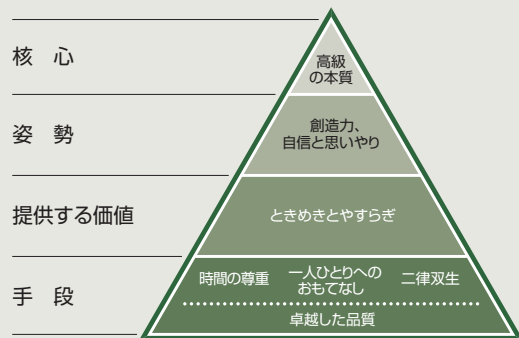


■ブランド

1989年に北米で創設、その後、欧州やアジアなど世界に展開してきたレクサスブランドが2005年8月、日本に導入されました。レクサスは、「高級の本質の追求」をブランドの理念として掲げ、「最高の商品」を「最高の販売・サービス」で提供、お客様がレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「ときめき」と「やすらぎ」に満ちた最高の時間」とするために開発・生産・販売の全ての面で妥協のない取り組みを続けています。

●レクサスピラミッド

レクサスピラミッドは、レクサスの思想を51文字で表現したものです。そして、その思想はグローバルに統一されています。



●レクサスブランドステートメント

レクサスブランドステートメントは、レクサスピラミッドの51文字を分かりやすい言葉で明文化し、お客さまとの約束として宣言したものです。

【レクサスブランドステートメント】

- ◎私たちは、最高の商品を最高の販売、サービスでお届けし「高級の本質」を追求し続けます。
- ◎私たちは、「時間の尊重」「一人ひとりへのおもてなし」「二律双生」「卓越した品質」の4つの手段で最高を実現します。
- ◎私たちは、お客さまがレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「ときめき」と「やすらぎ」で心満たされることを約束します。
- ◎私たちは、常に「創造力」を発揮し、「自信」と「思いやり」をもって行動します。

■販売・サービスの体制

●レクサス販売店



全国165店（2009年3月現在）

●主なサービス

オーナーズデスク	オーナーのご要望に、24時間365日対応。レクサスオーナー専用のコールセンターが、いつでも、どこでも、レクサスライフをサポート。
G-LINK [3年間無料]	いつでも、どこでも、オーナーの車をネットワークでサポートする最新のテレマティクスサービス。
●レクサス緊急サポート24	事故や故障など万一のトラブルにも、24時間365日体制でサポート。
●G-Security	大切な愛車を24時間見守る最先端のセキュリティサービス。
●リモートメンテナンスサービス	販売店からの定期点検・メンテナンス・イベント情報などを直接お車にメールでお知らせ。車両の異常を検知した場合にもその内容をお知らせ。
オーナーズカード	全国のレクサス販売店でのご提示により、最適なメンテナンスで対応。
新車保証 [5年間/10万km]	万一の不具合が生じた場合、新車登録日から5年間(ただし走行距離10万kmまで)、保証書の内容に基づき無料で修理。

■取り扱い車種（2009年3月現在）



LS600hL / LS600h / LS460L / LS460L AWD / LS460 / LS460 AWD



GS450h / GS460 / GS350 / GS350 AWD



IS F



IS350 / IS250 / IS250 AWD



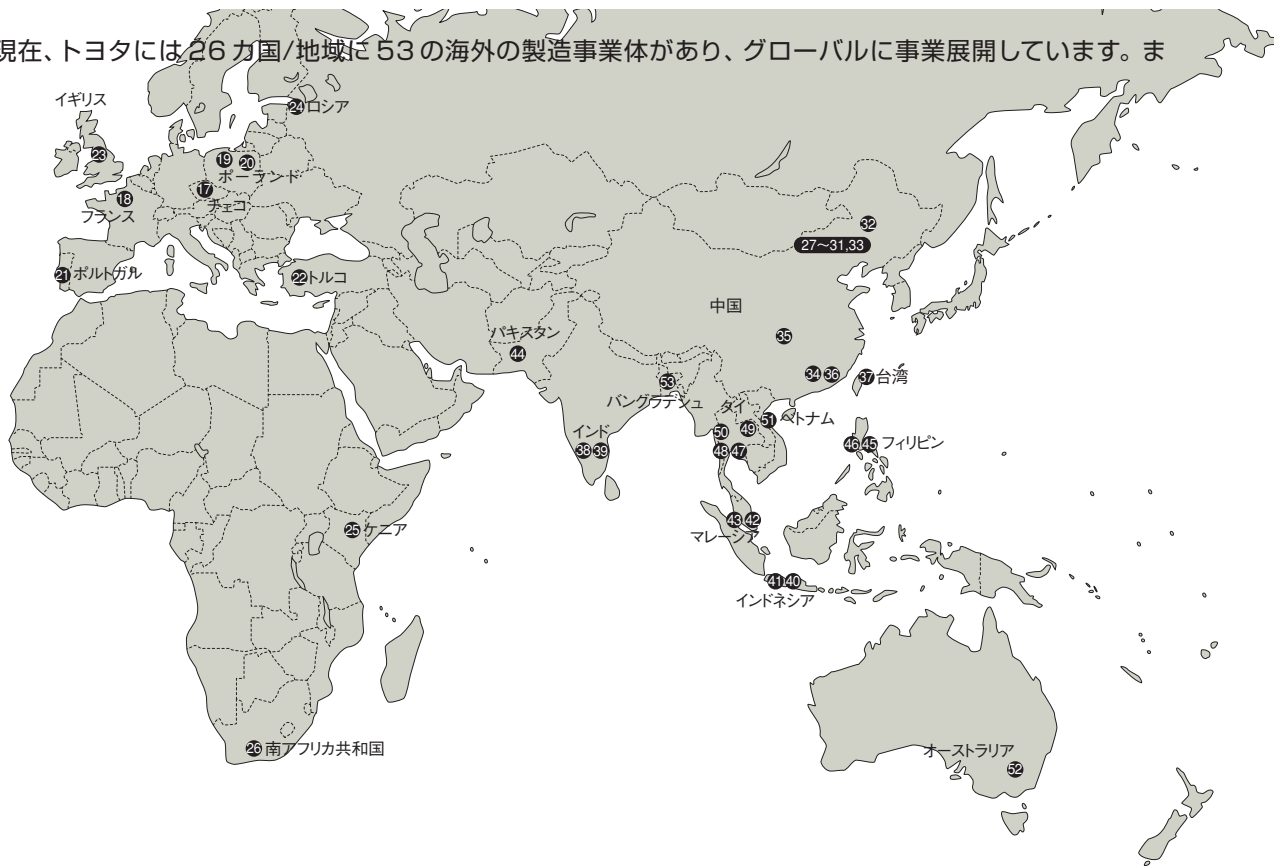
SC430



RX450h / RX350

# 海外の製造事業体一覧

2009年3月末現在、トヨタには26カ国/地域と53の海外の製造事業体があり、グローバルに事業展開しています。ま



■ 海外製造事業体一覧(生産会社53社、26カ国/地域)

国/地域	会社名 ( )内は略称	主な生産品目*	従業員数** (人)	トヨタ車両 生産実績** (千台)	
北米	カナダ	① Canadian Autoparts Toyota Inc.(CAPTIN)	249	—	
		② Toyota Motor Manufacturing Canada Inc.(TMMC)	5,964	287	
	アメリカ	③ TABC, Inc.	触媒、ステアリングコラム、プレス部品	509	—
		④ New United Motor Manufacturing, Inc.(NUMMI)	カローラ、タコマ	4,519	271
		⑤ Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc.(TMMK)	カムリ、カムリハイブリッド、ソラーラ、アバロン、ヴェンザ	7,365	456
		⑥ Catalytic Component Products, Inc.(CCP)	エンジン	39	—
		⑦ Bodine Aluminum, Inc.	触媒	1,000	—
		⑧ Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc.(TMMWV)	アルミ製造部品	1,098	—
		⑨ Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc.(TMMI)	エンジン、トランスミッション	4,327	208
		⑩ Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc.(TMMAL)	タンドラ、セコイア、シエナ	853	—
		⑪ Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc.(TMMTX)	エンジン	1,858	90
		⑫ Subaru of Indiana Automotive, Inc.(SIA)	タンドラ	3,083	92
⑬	カムリ	3,069	65		
中南米	アルゼンチン	⑬ Toyota Argentina S.A.(TASA)	3,069	65	
	ブラジル	⑭ Toyota do Brasil Ltda.(TDB)	3,294	67	
	メキシコ	⑮ Toyota Motor Manufacturing de Baja California S.de R.L.de C.V.(TMMBC)	カローラ、カローラフィールダー	787	50
			ハイラックス足廻り部品	—	—
ベネズエラ	⑯ Toyota de Venezuela Compania Anonima(TDV)	タコマ デッキ	1,899	13	
ヨーロッパ	チェコ	⑰ Toyota Peugeot Citroën Automobile Czech, s.r.o.(TPCA)	カローラ、フォーチャナー、ハイラックス、ダイナ、ランドクルーザー	3,441	108
	フランス	⑱ Toyota Motor Manufacturing France S.A.S.(TMMF)	アイゴ	3,788	240
			ヤリス	—	—
	ポーランド	⑲ Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o.(TMMPL)	エンジン組付	2,025	—
		⑳ Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o.(TMIP)	エンジン、トランスミッション	939	—
	ポルトガル	㉑ Toyota Caetano Portugal, S.A.(TCAP)	エンジン	375	—
	トルコ	㉒ Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc.(TMMT)	コースター(オブティモ)、ダイナ、セミボン	3,077	127
	イギリス	㉓ Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd.(TMUK)	カローラヴァーソ、オーリス	4,450	213
アフリカ	ロシア	㉔ Limited Liability Company "TOYOTA MOTOR MANUFACTURING RUSSIA"(TMMR)	アベンシス、オーリス	772	—
	ケニア	㉕ Associated Vehicle Assemblers Ltd.(AVA)	エンジン	258	—
	南アフリカ共和国	㉖ Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd.(TSAM)	カムリ	9,750	179
アジア	南アフリカ共和国	㉖ Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd.(TSAM)	カローラ、ハイエース、ハイラックス、フォーチャナー、ダイナ	—	—
	中国	㉗ 天津津豊汽車底盤部件有限公司(Tianjin Jinfeng Auto Parts Co.,Ltd.(TJAC))	マニパター、エキマニ	—	—
		㉘ 天津豊津汽車伝動部件有限公司(Tianjin Fengjin Auto Parts Co.,Ltd.(TFAP))	カローラ、ハイエース、ハイラックス、フォーチャナー、ダイナ	413	—
㉙ 天津一汽豊田発動機有限公司(Tianjin FAW Toyota Engine Co., Ltd.(TFTE))		ステアリング、プロペラシャフト	762	—	
	等速ジョイント、アクスル、デフ	1,863	—		
	エンジン	—	—		

注)2009年3月末時点。\* 生産品目、従業員数、トヨタ車両生産実績は2008年12月末時点。車両生産実績(KD及びOEMを除く)は千台以上の場合のみ記載。



た、トヨタ車は、海外の170カ国が地域以上で販売されています。



地域	製造事業体	ディストリビューター数
北米	12	3
中南米	4	43
ヨーロッパ	8	28
アフリカ	2	49
アジア(日本を除く)	25	15
オセアニア	1	15
中近東	1	17
海外合計	53	170

国/地域	会社名( )内は略称	主な生産品目*	従業員数* (人)	トヨタ車両 生産実績** (千台)	
中国	⑤⑥ 天津豊田汽車鍛造部件有限公司(Tianjin Toyota Forging Co.,Ltd.(TTFC))	鍛造部品	237	—	
	⑤⑦ 天津一汽豊田汽车有限公司(Tianjin FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(TFTM))	ヴィオス、カローラ、クラウン、レイツ	12,492	366	
	⑤⑧ 一汽豊田(長春)発動機有限公司(FAW Toyota (Changchun) Engine Co.,Ltd.(FTCE))	エンジン	806	—	
	⑤⑨ 豊田一汽(天津)模具有限有限公司(Toyota FAW (Tianjin) Dies Co.,Ltd.(TFTD))	金型	220	—	
	⑤⑩ 广汽豊田発動機有限公司(GAC Toyota Engine Co.,Ltd.(GTE))	エンジン、エンジン部品	1,157	—	
	⑤⑪ 四川一汽豊田汽车有限公司(Sichuan FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(SFTM))	コースター、ランドクルーザー、 ランドクルーザープラド、プリウス	2,265	5	
	⑤⑫ 广汽豊田汽车有限公司(GAC Toyota Motor Co., Ltd.(GTMC))	カムリ、ヤリス	5,791	176	
台湾	⑤⑬ 國瑞汽車股份有限公司(Kuozui Motors,Ltd.)	カムリ、カローラ、ウィッシュ、ヴィオス、 ヤリス、イノーバ、ダイナ	2,473	66	
アジア	インド	⑤⑭ Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.(TKM)	カローラ、イノーバ	1,985	54
		⑤⑮ Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd.(TKAP)	アクスル、プロペラシャフト、トランスミッション	3,785	—
	インドネシア	⑤⑯ PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia(TMMIN)	イノーバ、フォーチュナー、ダイナ	5,230	66
		⑤⑰ P.T. Astra Daihatsu Motor(ADM)	エンジン	—	—
	マレーシア	⑤⑱ Assembly Services Sdn. Bhd.(ASSB)	アバンザ	9,124	102
		⑤⑲ Perodua Manufacturing Sdn. Bhd.(PMSB)	ハイエース、ヴィオス、ハイラックス、 イノーバ、フォーチュナー	2,748	74
	パキスタン	⑤⑳ Indus Motor Company Ltd.(IMC)	エンジン	—	—
		⑤㉑ Toyota Motor Philippines Corp.(TMP)	アバンザ	816	29
	フィリピン	⑤㉒ Toyota Autoparts Philippines Inc.(TAP)	カローラ、ハイラックス	1,904	23
		⑤㉓ Toyota Motor Thailand Co., Ltd.(TMT)	イノーバ、ヴィオス	1,168	—
タイ	⑤㉔ Toyota Motor Thailand Co., Ltd.(TMT)	トランスミッション、等速ジョイント	—	—	
	⑤㉕ Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd.(TABT)	カローラ、カムリ、ウィッシュ、ヴィオス、 ヤリス、ヴィーゴ、フォーチュナー	12,824	513	
	⑤㉖ Thai Auto Works Co., Ltd.(TAW)	プレス部品	—	—	
	⑤㉗ Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd.(STM)	フォーチュナー	969	60	
ベトナム	⑤㉘ Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.(TMV)	エンジン、エンジン部品	2,381	—	
	⑤㉙ Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.(TMV)	カムリ、カローラ、ヴィオス、イノーバ、 ハイエース	1,305	26	
オセアニア	⑤㉚ Toyota Motor Corporation Australia Ltd.(TMCA)	カムリ	4,776	141	
中近東	⑤㉛ Aftab Automobiles Ltd.	エンジン	—	—	
		ランドクルーザー	61	—	

■今後稼働予定の製造事業体

国/地域	会社名( )内は略称	所在地	生産品目	生産開始時期	
北米	アメリカ	Toyota Motor Manufacturing, Mississippi, Inc.(TMMMS)	ミシシッピ州ユニオン郡ブルー・スプリングス	プリウス	未定

# 北米での活動／中南米での活動

## ■統括管理会社等

国/地域	会社名	設立年月	主な活動
アメリカ	Toyota Motor North America, Inc. (TMA)	1996.3	北米全体の渉外・広報・調査活動
	Toyota Motor Engineering & Manufacturing North America, Inc. (TEMA)	2006.4	北米での研究開発と北米生産事業統括

## ■生産体制

国/地域	会社名	生産開始年月	
カナダ	① Canadian Autoparts Toyota Inc. (CAPTIN)	1985.2	
	② Toyota Motor Manufacturing Canada Inc. (TMMC)	1988.11	
	③ TABC, Inc.	1971.11	
	④ New United Motor Manufacturing, Inc. (NUMMI)	1984.12	
	⑤ Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc. (TMMK)	1988.5	
	⑥ Catalytic Component Products, Inc. (CCP)	1991.4	
	⑦ Bodine Aluminum, Inc.	1993.1	
	アメリカ	⑧ Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc. (TMMWV)	1998.11
		⑨ Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc. (TMMI)	1999.2
		⑩ Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc. (TMMAL)	2003.4
		⑪ Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc. (TMMTX)	2006.11
		⑫ Subaru of Indiana Automotive, Inc. (SIA)	2007.4 *
アルゼンチン	⑬ Toyota Argentina S.A. (TASA)	1997.3	
ブラジル	⑭ Toyota do Brasil Ltda. (TDB)	1959.5	
メキシコ	⑮ Toyota Motor Manufacturing de Baja California, S.de R.L.de C.V. (TMMBC)	2004.9	
ベネズエラ	⑯ Toyota de Venezuela Compania Anonima (TDV)	1981.11	

注) \*委託生産開始年月。

## ■ディストリビューター

<北米>

ディストリビューター数*	北米での販売台数(千台)
3	2,441.8

注) \* 2008年4月現在。

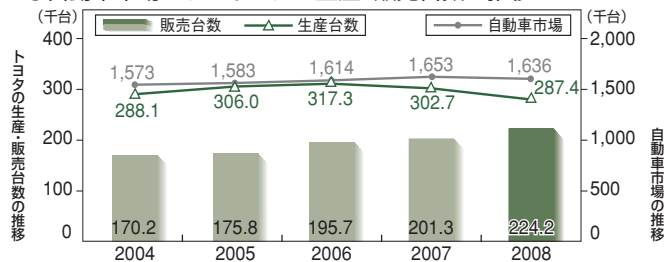
<中南米>

ディストリビューター数*	中南米での販売台数(千台)
43	370.2

注) \* 2008年4月現在。

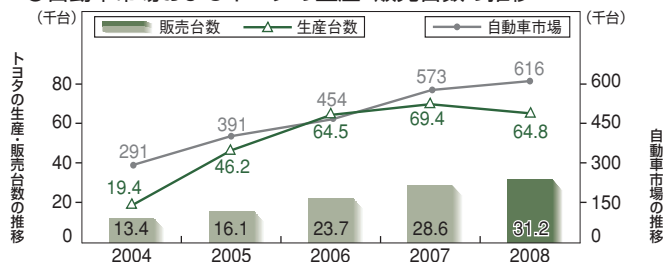
## ■カナダ

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



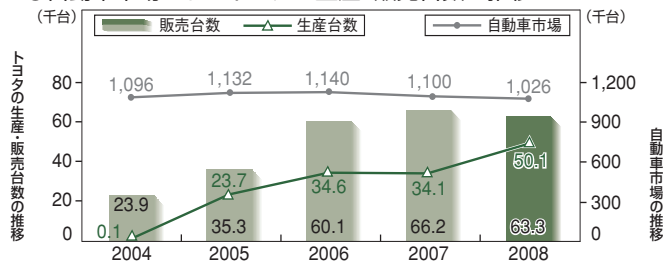
## ■アルゼンチン

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



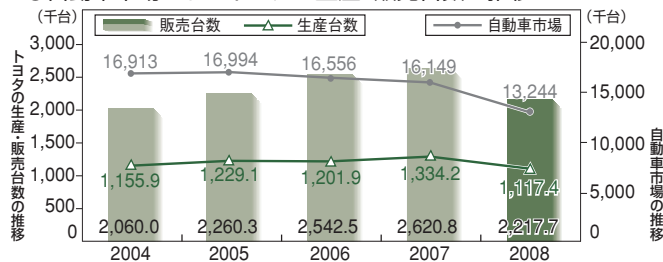
## ■メキシコ

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



## ■アメリカ

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



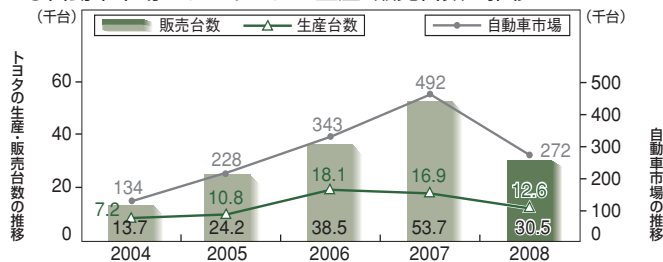
## ■ブラジル

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



## ■ベネズエラ

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



資料:トヨタ自動車

## ヨーロッパでの活動

## ■統括管理会社等

国/地域	会社名	設立年月	主な活動
ベルギー	Toyota Motor Europe NV/SA (TME)	2005.10	トヨタの欧州事業の統括

## ■生産体制

国/地域	会社名	生産開始年月
チェコ	⑰ Toyota Peugeot Citroën Automobile Czech, s.r.o. (TPCA)	2005.2
フランス	⑱ Toyota Motor Manufacturing France S.A.S. (TMMF)	2001.1
ポーランド	⑲ Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o. (TMMP)	2002.4
	⑳ Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o. (TMIP)	2005.3
ポルトガル	㉑ Toyota Caetano Portugal, S.A. (TCAP)	1968.8
トルコ	㉒ Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc. (TMMT)	1994.9
イギリス	㉓ Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd. (TMUK)	1992.9
ロシア	㉔ Limited Liability Company "TOYOTA MOTOR MANUFACTURING RUSSIA" (TMMR)	2007.12

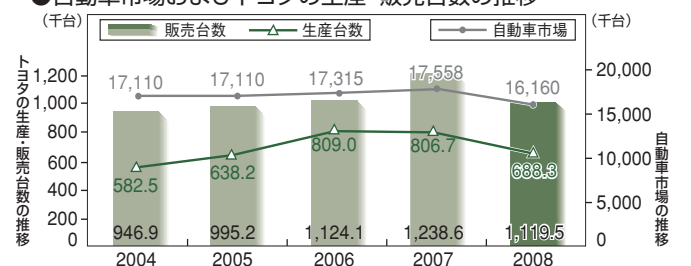
## ■ディストリビューター

ディストリビューター数*	ヨーロッパでの販売台数 (千台)
28	1,119.5

注) ※ 2008年4月現在。

## ■ヨーロッパ

## ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



資料:トヨタ自動車

## アフリカでの活動

## ■生産体制

国/地域	会社名	生産開始年月
ケニア	㉕ Associated Vehicle Assemblers Ltd. (AVA)	1977.8
南アフリカ共和国	㉖ Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd. (TSAM)	1962.6

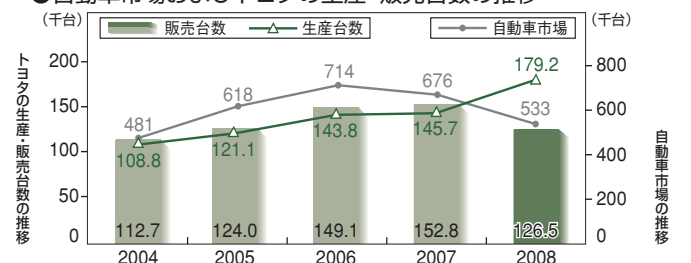
## ■ディストリビューター

ディストリビューター数*	アフリカでの販売台数 (千台)
49	288.1

注) ※ 2008年4月現在。

## ■南アフリカ共和国

## ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



資料:トヨタ自動車

## アジアでの活動

## ■統括管理会社等

国/地域	会社名	設立年月	主な活動
シンガポール	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd. (TMAP-MS)	1990.7	アセアン各国への部品供給とアジアでのマーケティング販売サポート
タイ	Toyota Motor Asia Pacific Engineering and Manufacturing Co., Ltd. (TMAP-EM)※	2003.9	アジア・オセアニア・中近東地域の現地生産車の開発、評価、生産事業会社への業務支援

注)※ TTCP-タイと TMAP-タイを2007年4月に統合し、TMAP-EMとして社名を変更。

## ■生産体制

国/地域	会社名	生産開始年月
中国	27 天津津豊汽車底盤部件有限公司 (TJAC)	1997.10
	28 天津豊津汽車伝動部件有限公司 (TFAP)	1998.5
	29 天津一汽豊田発動機有限公司 (TFTE)	1998.7
	30 天津豊田汽車鍛造部件有限公司 (TTFC)	1999.1
	31 天津一汽豊田汽車有限公司 (TFTM)	2002.10
	32 一汽豊田(長春)発動機有限公司 (FTCE)	2004.12
	33 豊田一汽(天津)模具有限有限公司 (TFTD)	2004.12
	34 广汽豊田発動機有限公司 (GTE)	2005.1
	35 四川一汽豊田汽車有限公司 (SFTM)	2000.12
	36 广汽豊田汽車有限公司 (GTMC)	2006.5
台湾	37 國瑞汽車股份有限公司	1986.1
インド	38 Toyota Kirloskar Motor Private Ltd. (TKM)	1999.12
	39 Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd. (TKAP)	2002.7
インドネシア	40 PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia (TMMIN)	1970.5
	41 P.T. Astra Daihatsu Motor (ADM)	2004 ※
マレーシア	42 Assembly Services Sdn. Bhd (ASSB)	1968.2
	43 Perodua Manufacturing Sdn. Bhd. (PMSB)	2005 ※
パキスタン	44 Indus Motor Company Ltd. (IMC)	1993.3
フィリピン	45 Toyota Motor Philippines Corp. (TMP)	1989.2
	46 Toyota Autoparts Philippines Inc. (TAP)	1992.9
タイ	47 Toyota Motor Thailand Co., Ltd. (TMT)	1964.12
	48 Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd. (TABT)	1979.5
	49 Thai Auto Works Co., Ltd. (TAW)	1988.5
	50 Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd. (STM)	1989.7
ベトナム	51 Toyota Motor Vietnam Co., Ltd. (TMV)	1996.8

注)※委託生産開始年月。

## ■ディストリビューター

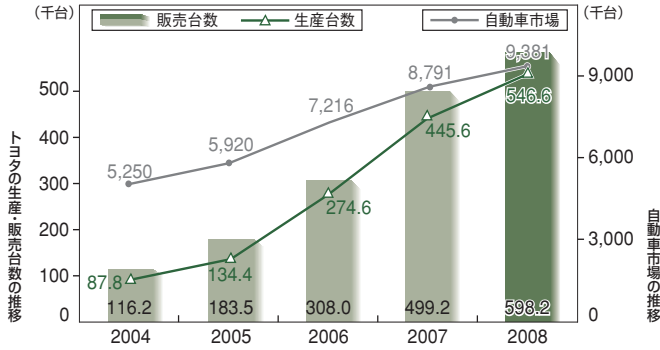
ディストリビューター数※	アジアでの販売台数 (千台)
15	1,438.6

注)※ 2008年4月現在。

資料:トヨタ自動車

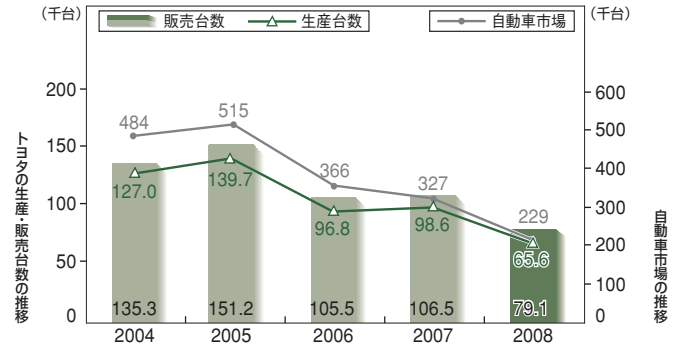
■中国

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



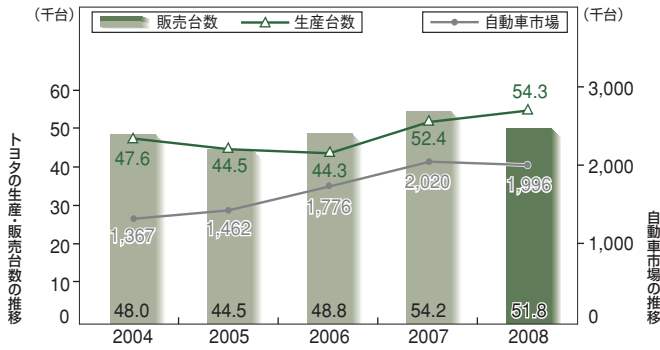
■台湾

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



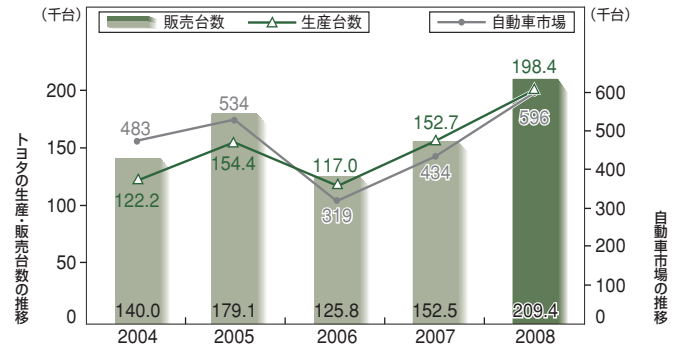
■インド

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



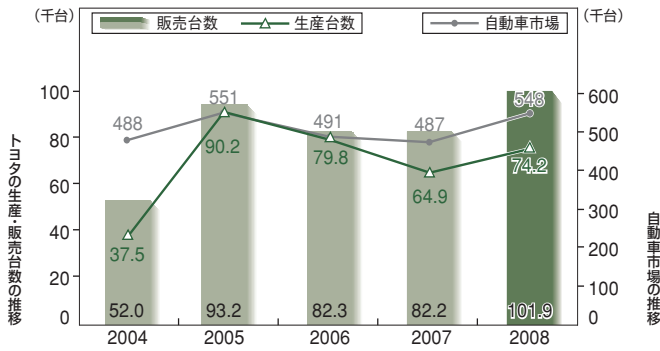
■インドネシア

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



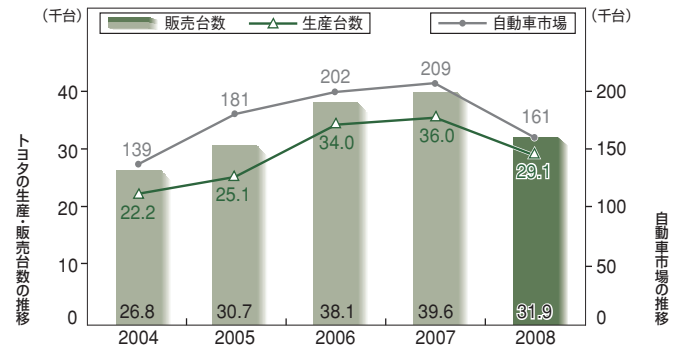
■マレーシア

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



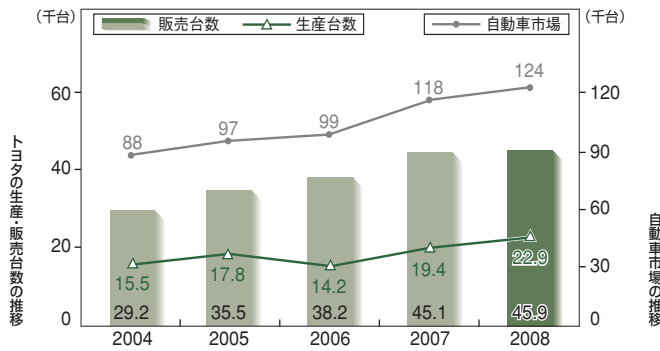
■パキスタン

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



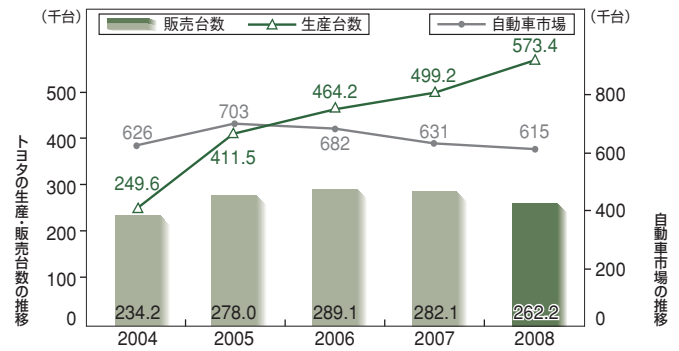
■フィリピン

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



■タイ

●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



資料：トヨタ自動車



# オセアニア・中近東での活動

## 生産体制

国/地域	会社名	生産開始年月
オーストラリア ㊦	Toyota Motor Corporation Australia Ltd. (TMCA)	1963.4
バングラデシュ ㊦	Aftab Automobiles Ltd.	1982.6

## ディストリビューター

### <オセアニア>

ディストリビューター数*	オセアニアでの販売台数 (千台)
15	277.7

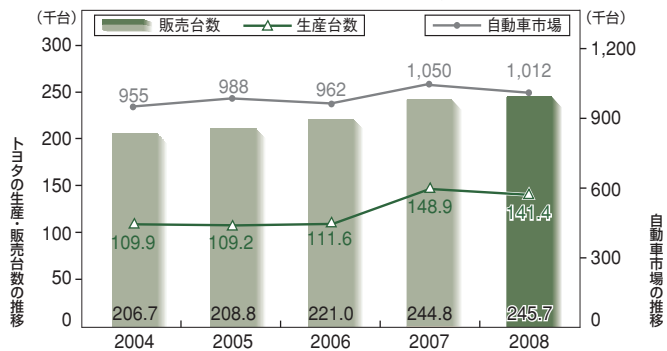
### <中近東>

ディストリビューター数*	中近東での販売台数 (千台)
17	590.1

注)※ 2008年4月現在。

## オーストラリア

### ●自動車市場およびトヨタの生産・販売台数の推移



資料:トヨタ自動車

## 地域別生産・販売・輸出台数

## トヨタの地域別海外生産台数の推移

(単位：千台)

地域	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
北米	1,061.9	1,104.0	1,088.5	1,205.3	1,278.4	1,444.0	1,535.1	1,519.3	1,636.9	1,404.8
中南米	16.8	19.6	17.5	27.8	58.1	80.4	138.5	177.9	183.1	194.8
ヨーロッパ	190.5	188.1	219.5	383.6	466.1	582.5	638.1	808.8	806.5	688.3
アフリカ	68.4	77.5	77.5	75.5	93.3	108.8	121.1	143.8	145.7	179.2
アジア	182.8	269.8	282.7	371.8	548.4	717.0	1,029.2	1,137.7	1,387.3	1,590.0
オセアニア	91.0	92.4	94.6	86.6	113.6	109.9	109.2	111.6	148.9	141.4
海外生産合計	1,611.5	1,751.3	1,780.3	2,150.5	2,558.0	3,042.7	3,571.2	3,899.0	4,308.6	4,198.4
国内生産合計	3,118.2	3,429.2	3,354.4	3,485.2	3,520.3	3,680.9	3,789.6	4,194.2	4,226.1	4,012.1
グローバル生産合計	4,729.7	5,180.5	5,134.7	5,635.7	6,078.3	6,723.7	7,360.9	8,093.2	8,534.7	8,210.5

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車

## トヨタの地域別海外販売台数の推移

(単位：千台)

地域	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
北米	1,605.3	1,742.8	1,869.0	1,908.9	2,031.3	2,230.3	2,436.1	2,738.3	2,822.2	2,441.8
中南米	125.9	129.1	132.0	128.8	162.1	214.9	270.5	339.4	379.4	370.2
ヨーロッパ	606.8	671.9	672.3	764.8	851.5	946.9	995.2	1,124.1	1,238.6	1,119.5
アフリカ	123.2	121.8	126.5	139.8	160.6	206.7	227.2	265.7	313.5	288.1
アジア	263.6	371.7	380.3	493.4	682.4	846.3	1,062.9	1,106.7	1,329.6	1,438.6
オセアニア	171.8	176.7	162.2	182.2	215.1	232.8	236.9	250.3	275.9	277.7
中近東	161.4	168.7	204.3	220.3	251.4	270.9	325.3	404.8	482.7	590.1
海外販売合計	3,058.1	3,382.6	3,546.7	3,838.3	4,354.5	4,948.8	5,554.1	6,229.3	6,841.9	6,526.1
国内販売合計	1,664.4	1,771.7	1,715.2	1,680.5	1,715.9	1,758.8	1,713.1	1,692.3	1,587.3	1,470.0
グローバル販売合計	4,722.5	5,154.3	5,261.9	5,518.8	6,070.4	6,707.6	7,267.3	7,921.6	8,429.3	7,996.1

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車

## トヨタ車の地域別輸出台数

(単位：千台)

地域	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
北米	650.1	717.7	720.8	852.1	782.8	813.5	939.6	1,344.7	1,244.1	1,124.2
中南米	89.0	93.9	97.4	75.2	71.5	95.6	120.2	148.9	178.9	146.4
ヨーロッパ	447.9	491.1	433.1	392.7	424.6	419.0	360.7	375.1	441.5	420.3
アフリカ	42.3	37.4	38.2	53.6	58.2	92.0	107.2	130.0	147.0	148.7
アジア	93.4	117.5	99.0	147.2	154.7	156.2	129.8	112.3	151.2	169.1
オセアニア	102.3	115.0	113.1	128.1	154.1	164.6	159.2	171.6	175.2	184.2
中近東	114.5	126.3	158.5	160.4	182.6	202.1	226.5	246.7	328.3	393.4
合計	1,548.0	1,706.2	1,665.7	1,816.8	1,836.0	1,951.7	2,043.2	2,529.3	2,666.1	2,586.3

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。「KDセット」(「KDセット」とは、1台当りの構成部品価格が60%未満のもので、部品扱い)を除く。合計にはその他の地域を含む。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車



## ウェルキャブ (福祉車両)

「すべての方に快適な移動の自由をご提供する」ことを目指し、お身体の不自由な方や高齢の方はもちろん、介助する方にとっても安全で快適なクルマをご提供できるよう、開発に取り組んでいます。

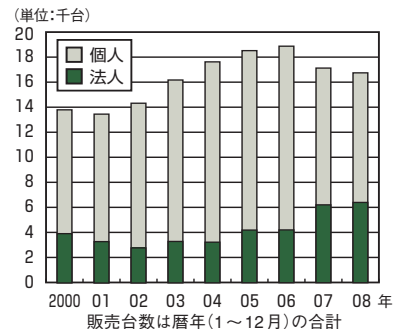


### ■ラインアップ -29車種62タイプ- (2009年3月現在)

介助用シートが電動で昇降  
 〈代表的なタイプ〉  
 介助用車いすのままご乗車  
 お身体の不自由な方がご自身で運転



### ■ウェルキャブ販売台数



### ■トヨタハートフルプラザ

常時8~15台のウェルキャブを展示し、専任スタッフがお車選びやカスタマイズのご相談を承る、ウェルキャブ総合展示場「ハートフルプラザ」を全国10ヶ所に設置しています。(札幌、仙台、千葉、千葉中央、東京、横浜、名古屋、神戸、広島、福岡)

### ■ウェルキャブステーション

ウェルキャブの試乗車・展示車を常設し、専門の知識を備えたウェルキャブコンサルタントが常駐する、トヨタ販売店のバリアフリー店舗「ウェルキャブステーション」の設置を進めています。(2009年2月現在 全国168店舗)

ウェルキャブラインアップ・展示場所についてホームページで詳しくご紹介しています。 <http://toyota.jp/welcab>

## 住宅事業

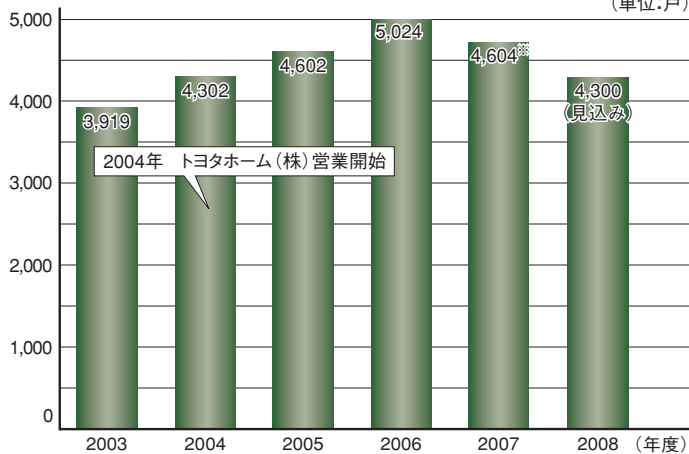
トヨタは1975年から住宅事業への取り組みを開始。以来、「日本の住まいをよくしたい」を企業理念に、いつまでも安全・安心・快適に過ごせる「長寿命」で家計と地球にも優しい「省エネ」に優れ、「環境にやさしい」家を追求し続けています。2004年1月、営業機能を担うトヨタホーム株式会社が営業を開始。“Sincerely for You”をブランドビジョンに、お客様に生涯にわたりご満足いただけますよう、努力しております。また、多様なニーズにお応えするため、戸建住宅のほか、賃貸住宅を「トヨタホーム」の商品群に加えるとともに、リフォーム事業にも取り組んでいます。

### ■事業内容

	商品分類	商品	販売ルート
	鉄骨ユニット工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンセ・ソレスト</li> <li>シンセ・カーダ モード</li> <li>シンセ・スマートステージ ECO</li> <li>シンセ・ヴァイトロワ</li> <li>シンセ・アヴェンティエーノ</li> <li>シンセ・A III</li> <li>シンセ・はぐみ</li> <li>シンセ・カーダ</li> <li>シンセ・レゾン</li> <li>シンセ・ピアーナ</li> <li>シンセ・A II</li> </ul>	
	鉄骨軸組工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>エスパシオ EF ガレージのある暮らし</li> <li>エスパシオ EF アーバンウィンド</li> <li>エスパシオ Mezzo</li> <li>エスパシオ EF3</li> <li>エスパシオ EF</li> <li>エスパシオ GX</li> </ul>	
	トヨタ SW 工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>Vie α</li> <li>Vie α K2</li> </ul>	

注) 2009年4月現在。写真は「シンセ・ソレスト」。

### ■トヨタホームの販売戸数の推移



注) 2009年3月現在。  
 ※トヨタ自動車全体の住宅販売戸数(含む子会社)約5,400戸(2008年度見込み)

### ■事業所

名称	所在地	事業内容・生産品目
春日井事業所	愛知県春日井市	トヨタホームの研究開発及び生産
栃木事業所	栃木県栃木市	トヨタホームの生産
山梨事業所	山梨県南アルプス市	トヨタホームの生産

### ■トヨタホーム展示施設

名称	所在地	概要
トヨタホーム本社ショールーム	愛知県名古屋市東区	住まいづくりの夢を体感、納得しながらカタチにしていく創作拠点
アトリスプラザ横浜(ショールーム)	神奈川県横浜市港北区トレッサ横浜内	オート・ショッピングモール内にある地震・3Dシアターなどの体験型施設
アトリスパーク刈谷	愛知県刈谷市	グッドデザイン賞を受賞した新しい視点の“住環境総合展示場”
ハウスヴィレッジ丸山	愛知県豊田市	トヨタホームの住宅商品だけで構成された総合展示場

## モータースポーツ

トヨタはモータースポーツ活動を通して、クルマの持つ「楽しさ、夢」を追求し、クルマの限りない可能性を世界中の人々に感じていただきたいと思います。その活動の柱は、F1、米国のNASCAR、そして日本のSUPER GT、フォーミュラ・ニッポンというトップカテゴリーへの参戦です。またトップドライバーの育成、ワンメイクレースの開催、富士スピードウェイの活用などモータースポーツの基盤を支える活動を行っています。

### ■フォーミュラ・ワン世界選手権 (F1)

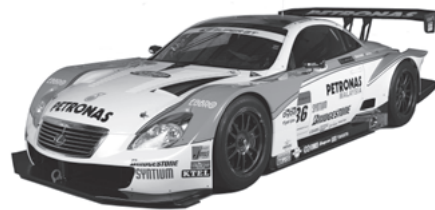


・2002年シーズンより、「パナソニック・トヨタ・レーシング」として参戦。



・2009年シーズンは、新型F1カー「トヨタ TF109」を投入。ドライバーはヤルノ・トゥルーリ選手(写真左)、ティモ・グロック選手(写真右)の体制で臨む(サードドライバーは小林可夢偉選手)。

### ■SUPER GT



・日本のモータースポーツのトップカテゴリーに、トヨタテクノクラフト(株)を通じて、参戦チームを支援(写真は2009年レクサスSC430)。

### ■NASCAR



・2004年より、クラフトスマン・トラック・シリーズにトヨタ タンドラで参戦。  
 ・2007年からは、トヨタ カムリで現在のスプリント・カップ、ネイションワイド・シリーズにも参戦。2008年クラフトスマン・トラック・シリーズでマニファクチャラーズとドライバーズとのダブルタイトルを獲得。  
 ・2008年3月9日のスプリント・カップにてトヨタ カムリが1位&2位でフィニッシュし、初勝利に花を添える。

### ■TDP



・「世界および日本のトップカテゴリーにおいて活躍できるレーシングドライバーの育成」を目的に、才能ある人材を発掘し、継続的なステップアップを支援する育成プログラムとしてTDP(トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム)を実施。<2009年は8名参加>(写真は左からTDPの中嶋一貴選手、大嶋和也選手、小林可夢偉選手、石浦宏明選手)

### ■富士スピードウェイ



・「モータースポーツの振興」「若者への情報発信」「安全運転教育の推進」を3つの柱に改修を実施、2005年4月にリニューアルオープン。  
 ・2007年と2008年に、「FIA F1世界選手権フジテレビジョン日本グランプリレース」を開催。

## 金融事業

トヨタは、金融事業の競争力強化と意思決定の迅速化を図るため、内外の金融子会社を傘下におく統括会社トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下TFS)を2000年7月に設立。TFSグループは個人のお客さまを中心に総合的な金融サービスの提供を目指しています。

### ■特徴

#### ●TFSグループのミッション

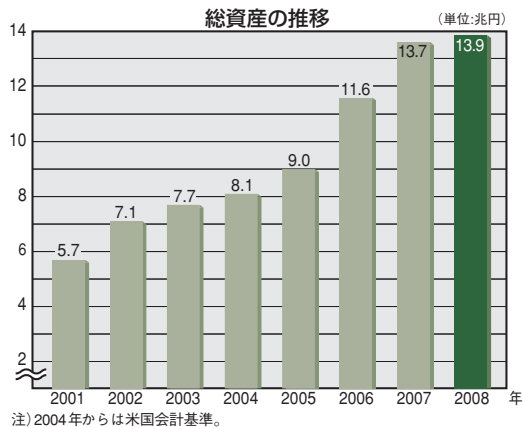
トヨタのお客さまに健全な金融サービスを提供し、豊かな生活に貢献し、トヨタファンの拡大を目指します。

#### ●グローバルな販売金融ネットワーク

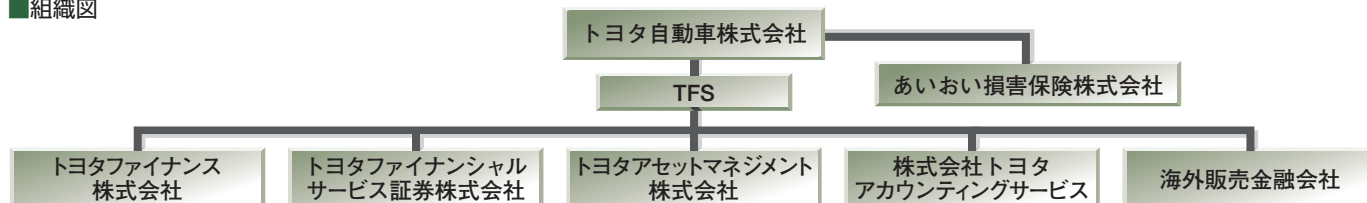
トヨタ車市場の約90%をカバー。世界33ヶ国・地域におよぶグローバルな販売金融ネットワークを展開し、クレジットカード会員を含め、1,400万人以上のお客さまにサービスを提供しています。

#### ●お客様の生活に密着した総合金融サービス

年齢とともに変化するお客さまのニーズに対応し、結婚、出産、進学、自動車や住宅の購入などのあらゆるライフ・イベントをサポートするための商品・サービスを提供し続けます。



### ■組織図





「GAZOO (ガズー)」は、1998年クルマのビジュアル情報ネットワークとしてサービスを開始しました。同時にインターネットサイト「GAZOO.com」を開設、1999年にはショッピングモール「ガズー商店街」を開設してeコマースへ進出しました。

2000年にはマルチメディアキオスク端末「E-TOWER」を開発し、コンビニ等への提供を開始、同年GAZOO事業を強力に推進するために、トヨタメディアサービス(株)を設立しました。

2002年には、GAZOOモビリティサービスとして車載端末向け情報サービス「G-BOOK」を開始し、テレマティクス分野に事業を拡大。2005年には新世紀テレマティクス「G-BOOK ALPHA」、レクサス向け「G-Link」、2007年には地図更新機能などより進化した「G-BOOK mX」を開始しました。

現在では、「GAZOO.com」にお客様参加型のブログ機能を盛り込み、「G-BOOK」と連携。同サイトではこの連携を活かした新しい体験型ドライブコンテンツ「Gazoo mura」、バーチャルカーライフなどを体験できる3次元仮想都市「トヨタメタポリス」などを提供しています。

2004年には、最先端のネットワークシステム「e-CRB」\*をタイで発表。現在ではタイ、豪州、中国をはじめ数カ国でe-CRBが導入されています。

今後も、世界中のお客様とより密接で長期的な信頼関係を構築すべく、グローバルに取り組んでいきます。

\* evolutionally Customer Relationship Building



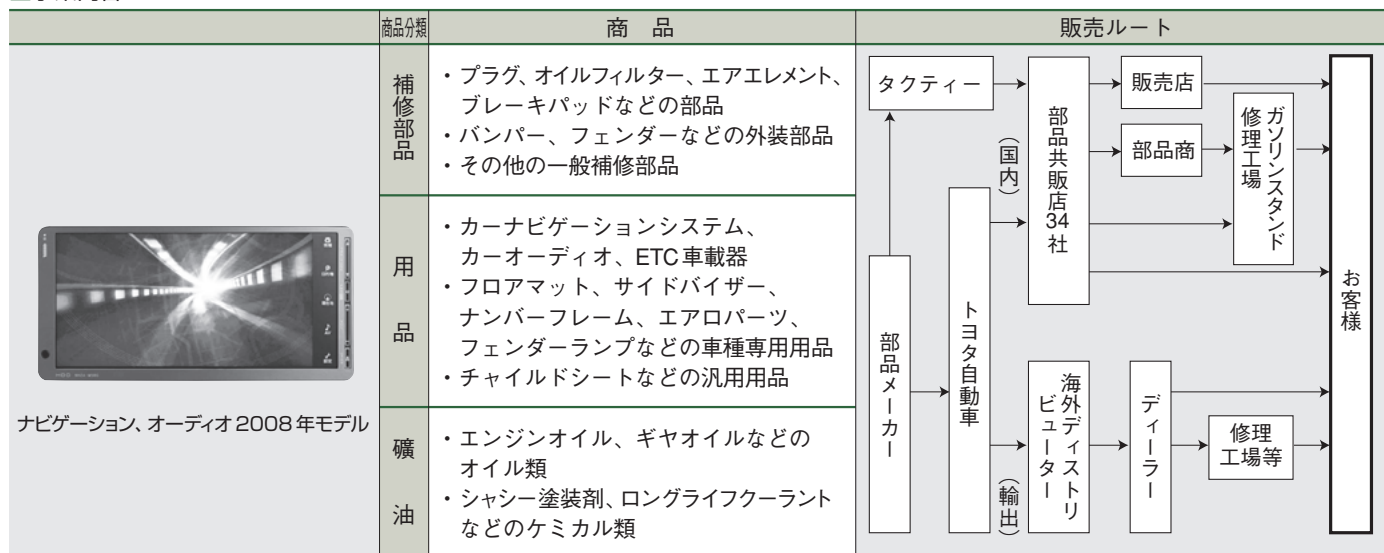
インターネットサイト「GAZOO.com」とコンテンツ「Gazoo mura」

車載端末向け情報サービス「G-BOOK mX」

## 自動車部品

トヨタの部品・用品販売は、修理、整備に必要な補修部品、カーアクセサリ用品、オイル類を中心に販売。また、国内だけでなく海外においてもサービス体制を整え、お客様のニーズに迅速に対応できるようにしています。

### ■事業内容



注) 2009年2月現在。

### ■トヨタ部品・用品販売の推移

(単位: 億円)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
国内	3,630	3,697	3,741	3,623	3,783	4,132	4,305	4,584	4,678	4,659
海外*	1,676	1,577	1,749	1,983	1,882	2,000	2,220	2,531	2,839	2,844

\* 日本からの輸出分のみ

### ■トヨタ部品・用品の売上の構成(2008年)

(単位: 億円)

	補修部品	用品	礦油	合計
国内	2,382(51.1)	1,923(41.3)	354(7.6)	4,659(100.0)
海外*	2,770(97.4)	42(1.5)	32(1.1)	2,844(100.0)

注) ( )内は構成比率(%)。

\* 日本からの輸出分のみ

## トヨタレンタリース

トヨタ自動車をフランチャイザーとしたトヨタレンタリース店63社を国内に展開し、2008年(9月末時点)のトヨタレンタリースのレンタカー保有台数は、10.0万台(前年比102%)、カーリース保有台数は45.3万台(同103%)と、年々着実に拡大しています。

### ■国内のレンタカー、カーリースの保有台数推移(各年9月末時点)

#### ●レンタカー

(単位:台)

	市場総数	トヨタレンタリース
2008	395,303	100,144
2007	386,312	97,741
2006	368,303	93,024
2005	342,129	87,173
2004	314,666	79,675
2003	299,956	75,812
2002	288,075	68,759
2001	287,503	67,952
2000	271,332	62,335
1999	261,100	57,949

#### ●カーリース

(単位:台)

	市場総数	トヨタレンタリース
2008	3,068,003	453,446
2007	2,955,978	438,404
2006	2,873,577	425,356
2005	2,790,751	398,212
2004	2,635,874	366,401
2003	2,499,004	338,989
2002	2,399,571	320,865
2001	2,315,271	307,356
2000	2,229,053	287,509
1999	2,130,293	276,107

### ■レンタカー予約の窓口


**トヨタレンタカー予約センター**  
ゼロハチゼロゼロ データセン イチバンイイ  
**0800-7000-111** 無料 オープン時間8:00~20:00(年中無休)


**ホームページ** [www.toyota.co.jp/rent/](http://www.toyota.co.jp/rent/)  
**トヨタレンタカータイプ** [携帯電話からの予約は <http://rent.toyota.co.jp>]

## U-Car(中古車)

2008年のU-Car(中古車)市場<除軽>は427万台(前年比94%)でした。

### ■2008年のU-Car市場(除軽)

	台数(除軽)	前年比
U-Car登録	4,273,432	94.0%
<参考>新車登録	3,214,309	93.6%

### ■トピックス

#### 1) 仕入れ

##### ●安心・信頼のクルマ買取ネットワーク「T-UP」

クルマに対する確かな目を活かして、メーカーを問わず買取りいたします。電話やインターネットから無料お試し査定、来店予約などがご利用頂けます。[www.toyota.co.jp/t-up/](http://www.toyota.co.jp/t-up/) ※2008年12月末現在全国410店舗



#### 2) 流通

##### ●トヨタ・オートオークション「TAA」

TAAは業務提携を実施しているCAAと合わせて、全国で14会場を展開しており、2008年の出品台数は130万台と、業界第2位の出品規模。今後は2009年夏に四国(香川県)での会場新設を予定しています。



#### 3) 小売

##### ●U-Car検索システム GazooU-Car情報



全国のトヨタ販売店で扱う約5万台のU-Car情報がインターネットや店舗端末から検索できます。

●大規模U-Car小売店舗「カーロット」の展開  
カーロット品質評価制度に基づく車両検査で、「安心・信頼」のクルマ選びができるカーロット。全国15店舗3,000台の在庫車両からお選びいただけます。また、サービス工場も併設しており、アフターサービスも万全です。



## 【パートナーロボットのコンセプト】

トヨタでは「人と社会のより良い関係を築ける、人の活動をサポートするロボット」をコンセプトに、80年代より開発を進めてきた産業用ロボットの技術をさらに進化させ、車で培った技術を応用することで、人と共生し、人の役に立ち、人のパートナーとして人をサポートするパートナーロボットを開発しています。

現在、実用化に向けた開発の具体的な方向性として、「介護・医療支援」「パーソナル移動支援」「家庭内での家事支援」「製造モノづくり支援」の4つの領域を目指しています。

## 【パートナーロボットの紹介】

それぞれの領域で人と社会をサポートするロボットとして、「製造モノづくり支援」領域では、高岡工場の革新ラインにおいて、人と協調しウィンドウはめ込み作業を支援するアシストロボットを実用化しています。

また、「介護・医療支援」領域では、人と対話し見守りなどの支援をするアシスタントロボット「Robina」を開発し、二足で歩行し楽器を演奏できるまで道具を使う能力を高めたヒューマノイドロボットの開発では、将来の「家庭内での家事支援」領域での貢献を目指しています。

さらに、「パーソナル移動支援」の領域では、若年層から高齢者まで、歩行弱者から健常者まで、ユニバーサルに人の移動を支援するパーソナルモビリティロボットとして、立ち乗り型の「Winglet」、座り乗り型の「MobiRo」の開発と実用化トライアルを進めています。

## 【パートナーロボットを支える要素技術】

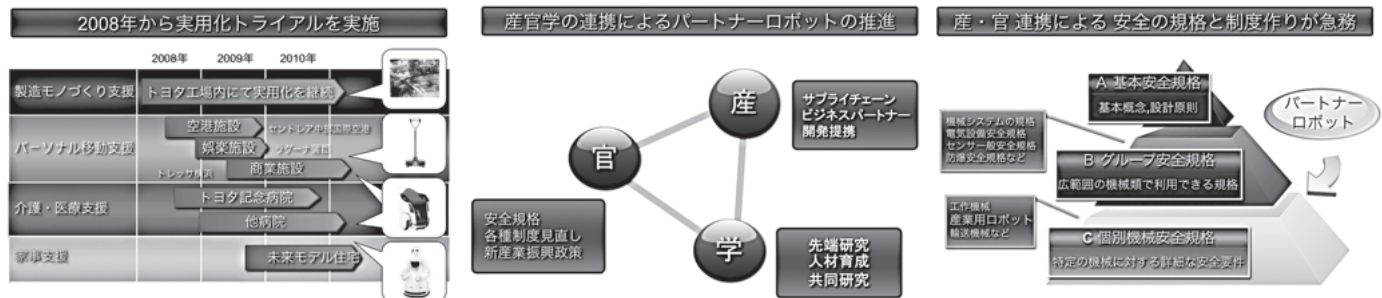
ロボットには、様々な領域とシーンで人をサポートする多様で柔軟な能力が求められます。それらを実現するコアとなる要素技術として「移動技術」「全身運動能力」「人と協調する技術」「道具を使う能力」「人との対話能力」の5つの領域で先端要素技術開発を進めています。

## 【今後の取り組み】

今後は、パートナーロボットの実用化に向けて、さらに開発を加速し、社内、病院、介護施設、商業施設などの様々な実用領域で実用化トライアルを進め、ユーザーニーズを反映し、真に人と社会に役に立つロボットの実用化を目指していきます。

また、平行して、産官学のコラボレーションも積極的に推進し、産官の提携では、パートナーロボットに最適な安全規格の策定やロボットの普及に必要な関連制度の見直しや振興政策等の社会基盤整備にも国内外で取り組んでいきます。特に、安全性については、人と離れて運用される産業用ロボットと異なり、人と共生し、人の傍や人の近くで人をサポートするパートナーロボットに最適な安全規格と安全性の確立に向けた制度の策定は急務であり、重要な課題として取り組んでいきます。

産学の連携では、国内外の大学や研究機関との共同研究を通じ、人材の育成と、技術のイノベーションとブレークスルーを実現し、より優れたロボットを開発していきます。



## 【未来へ向けて】

トヨタでは、パートナーロボットの早期実用化を通じて、誰でも豊かで幸せな暮らしができる持続可能な社会を実現し、人とクルマとロボットの共生する世界と未来のハーモニーを創っていきたくと考えています。

パートナーロボットについては、ホームページでも公開しています。 <http://www.toyota.co.jp/jp/tech/robot/index.html>



## 新規事業

自動車以外の事業として、また、社会に豊かな生活を提供できる企業となるために、トヨタは様々な事業展開を推進してきました。これまでのトヨタの新規事業への取り組みは4つのフェーズに分けることができます。第1期は、1985年から1989年の“90年代プロジェクト”にあたります。「エンジニアリング／ファクトリーオートメーション／ITS／情報通信／金融／半導体／バイオ」といった『自動車周辺の成長分野』へ参入しました。1989年には、事業開発部を設け、第2期となる1990年から1995年は、『新たなパーソナルモビリティ分野』に取り組み、「マリン／エアロ」分野に参入。また、第3期となる1996年から2001年は「バイオ／マリン／エアロ」と『将来成長分野』へと事業開発の拡大を進めてきました。

現在は第4期にあたり、「バイオ／マリン／環境・エネルギー／先端技術」といった『将来成長分野かつトヨタの強みを活かせる分野』に着目。本業以外の新たな収益性の創出や、既に立ち上げた事業の収益確保・拡大に向けた取り組みを行っています。

### トヨタ新規事業のあゆみ

	第1期 ('85～'89)	第2期 ('90～'95)	第3期 ('96～'01)	第4期 ('02～)
参入分野	自動車周辺の成長分野	新たなパーソナルモビリティ分野	将来成長分野	将来成長分野かつトヨタの強みを活かせる分野
トヨタの動き	'85 90年代プロジェクト '89 新規事業テーマ募集 '89 事業開発部設立	'95 起業家制度導入	'96 トヨタベンチャーファンド制度導入 '96 役員持株制度導入 '97 マリン事業部設立 '01 バイオ・緑化事業部設立	過去の取り組みを踏まえた変革期
重点取り組み分野	エンジニアリング、FA、ITS、情報通信、金融、半導体、バイオ	マリン、エアロ	バイオ、マリン、エアロ、起業家	バイオ、マリン、環境・エネルギー、先端技術等

### 事業会社および社内事業の概要

事業会社・社内事業		事業概要	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金(百万円)
バイオ	オーストラリアンアフォレストेशन(株)	樹木の植栽・加工・販売及び植林に関する研究開発	1998	90	9,950千A\$
	(株)トヨタフローリテック	花卉の生産・販売	1999	50	100
	(株)トヨタバイオインドネシア	サツマイモを原料とした飼料製造	2001	90	19,312千US\$
	トヨタルーフガーデン(株)	環境緑化システム、園芸緑化資材の販売	2001	70	55
エネルギー	(株)トヨタタービンアンドシステム	コージェネレーションシステムの開発・製造・販売・据付・保守	1998	100	490
ライフサポート	(株)グッドライフデザイン	地域医療機関等のサポート事業と健康・介護・生活サポート事業	2002	51	260
	いきいきぶらちな倶楽部(トヨタ自動車の社内事業)	50歳からの健康、暮らし、夢づくりのサポートとサービスの提供	2007	-	-
マリン	マリン事業(トヨタ自動車の社内事業)	プレジャーボート及び船舶用エンジンの開発・製造・販売	1997	-	-
	蒲郡海洋開発(株)(ラグーナ蒲郡)	海洋レジャーを主体とした複合レクリエーション施設「ラグーナ蒲郡」の経営	1991	19.6	13,247
	長崎サンセットマリーナ(株)	マリーナ事業(ボート・ヨット等の舟艇販売、保管、メンテナンス等)	1993	76.9	140
エアロ	朝日航洋(株)	航空機運航、測量・地図情報事業	1955	99.3	3,192.5
	エアフライドジャパン(株)	パイロット養成、飛行場の運営	1992	75.0	400
新素材	(株)アドマテックス	酸化物セラミックス粉(シリカ、アルミナ、複合酸化物)の製造・販売	1990	53.3	307
エンジニアリング	サンリツオートメーション(株)	組込み型ボードコンピュータとITSの関連機器開発・製造・販売	1971	30.0	132.6
	ラティス・テクノロジー(株)	3DのCADデータを超軽量化する技術の開発・販売	1997	22.2	700
	(株)トヨタケーラム	CAD/CAMの開発・販売・保守、技能伝承ツールの開発・販売およびソリューション提案	1993	51.0	700
ユニット販売	ユニット販売(トヨタ自動車の社内事業)	自動車用エンジン、ハイブリッド部品等の販売	1995	-	-
起業家	(株)カーテックフジ	ブレーキ関係各種業務請負、自動車整備	1996	13.3	20
	(株)メディアクリック	カーオーディオ&ナビ向け楽曲情報提供サービス	2001	46.5	100

注) 2009年3月現在。

■トヨタ財団

設 立	1974.10(昭和49年)	基金規模	400億円
活 動 内 容	トヨタ自動車が、人間のより一層の幸せを目指し、将来の福祉社会の発展に資することを期して設立した助成財団。世界的視野にたち、長期的かつ幅広く社会活動に寄与するため、生活・自然環境、社会福祉、教育文化等の多領域にわたり、研究並びに事業を助成。		
所 在 地	〒163-0437 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階(TEL 03-3344-1701)		
会 長	豊田達郎	理 事 長	遠山敦子

(注)2009年2月現在。

■豊田工業大学

開 学	1981.4(昭和56年)	大学院設置	1984.4(昭和59年)
設 置 法 人	学校法人 トヨタ学園		
理 事 長	豊田達郎	学 長	生嶋 明
建学の精神等	建学の理念は「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」(豊田佐吉遺訓)。広く産業界から実務を経験した社会人を、1993年(平成5年)からは一般学生も受け入れ、設立当初から徹底した少人数の「塾的大学」として、21世紀社会が求める豊かな人間性と創造性あふれる技術者・開発者の育成を目指す。		
所 在 地	〒468-0034 名古屋市天白区久方2丁目12-1(TEL 052-802-1111)		
設 置 学 部	工学部(入学定員80名)		
設置大学院	大学院工学研究科 修士課程(入学定員24名)／博士後期課程(入学定員12名)		
付 置 機 関	半導体センター、総合情報センター、先端フロンテクノロジー研究センター、超高効率光起電力変換共同研究推進センター、宇宙ロボティクス研究センター、未来情報記録材料共同研究推進センター、ナノ格子新技術開発研究センター、TTI at Chicago(大学院大学)		

(注)2009年2月現在。

■展 示 館

	<b>トヨタ鞍ヶ池記念館</b>
	完 成 1974.9(昭和49年)
	来 場 者 52,231人(平成20年実績)
	展 示 内 容 豊田喜一郎とその仲間たちの大いなる夢、情熱の日々…。創業期の歩みとモノづくりのスピリッツを紹介。
	所 在 地 〒471-0001 豊田市池田町南250番地(TEL 0565-88-8811)
開 館 時 間 9:30～17:00(最終入館は16:30)、月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始は休館	
	<b>トヨタ会館</b>
	完 成 1977.11(昭和52年)
	来 場 者 426,000人(平成20年実績)
	展 示 内 容 トヨタが目指す豊かなモビリティ社会と最新の「クルマづくり」を紹介。
	所 在 地 トヨタ自動車(株) 本社地区内(TEL 0565-29-3345)
開 館 時 間 9:30～17:00、日曜日、年末年始、GW、夏季連休は休館	
	<b>アムラックス東京</b>
	完 成 1990.9(平成2年)
	来 場 者 1,412,000人(平成20年実績)
	展 示 内 容 トヨタ車を紹介するショールームとしての機能のほか、トヨタの新技術、環境や安全への取り組みなどを紹介。
	所 在 地 〒170-8447 東京都豊島区東池袋3-3-5(TEL 03-5391-5900)
開 館 時 間 (2～4F)11:00～19:00、(B1～1F)11:00～21:00、月曜(祝祭日の場合翌日は休館)、年末年始は休館	
	<b>メガウェブ</b>
	完 成 1999.3(平成11年)
	来 場 者 5,581,000人(平成20年実績)
	展 示 内 容 3つのテーマ館と3つのドライブコース。クルマのさまざまな楽しさを「見て、乗って、感じる」体験型クルマのテーマ施設。
	所 在 地 〒135-0064 東京都江東区青海1丁目(TEL 03-3599-0808)
開 館 時 間 11:00～21:00、不定休	

(注)2009年2月現在。



# History of TOYOTA

## トヨタの歩み

トヨタ自動車の創業者・豊田喜一郎は1894年(明治27年)に生まれました。自動織機の発明家として歴史に名を残す豊田佐吉の、「研究と創造」の精神を受け継いだ息子の喜一郎は、当時の日本ではまだ未知の分野であった自動車づくりに生涯をかけ、苦心の末、1935年(昭和10年)にA1型試作車を完成。トヨタ自動車の歴史はこうして始まりました。そして、1999年(平成11年)10月、トヨタは、おかげさまで国内生産累計1億台を達成しました。



豊田佐吉

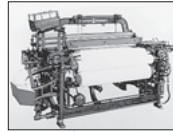


豊田喜一郎

### 1867 慶応3年～

#### 事業展開／工場・施設展開

- 1867年(慶応3年)
  - 豊田佐吉誕生
- 1890年(明治23年)
  - 豊田佐吉「豊田式木製人力織機」完成
- 1894年(明治27年)
  - 豊田喜一郎誕生
- 1924年(大正13年)
  - 豊田佐吉「無停止杼換式豊田自動織機(G型)」完成
- '29年(昭和4年)
  - 豊田喜一郎自動車事情視察などのため欧米へ出張
  - 自動織機の特許を英国のプラット社に譲渡
- '30年(昭和5年)
  - 豊田喜一郎小型ガソリンエンジンの研究を開始
- '33年(昭和8年)
  - (株)豊田自動織機製作所に自動車部を設置
- '35年(昭和10年)
  - 日の出モータース(株)営業開始(現・愛知トヨタ(株))
- '36年(昭和11年)
  - トヨタマーク制定
- '37年(昭和12年)
  - トヨタ自動車工業(株)設立
- '38年(昭和13年)
  - 拳母工場操業開始(現・本社工場)
  - 「ジャストインタイム」方式本格的スタート



無停止杼換式豊田自動織機(G型)



拳母工場



拳母工場生産ライン

### 1940 昭和15年～24年

- '40年(昭和15年)
  - 豊田製鋼(株)設立(現・愛知製鋼(株))
  - (財)豊田理化学研究所設立
- '41年(昭和16年)
  - 豊田工機(株)設立
- '43年(昭和18年)
  - 東海飛行機(株)創立(現・アイシン精機(株))
- '45年(昭和20年)
  - トヨタ車体工業(株)設立(現・トヨタ車体(株))
- '46年(昭和21年)
  - 関東電気自動車製造(株)設立(現・関東自動車工業(株))
- '48年(昭和23年)
  - 日新通商(株)設立(現・豊田通商(株))
- '49年(昭和24年)
  - 名古屋ゴム(株)設立(現・豊田合成(株))
  - 日本電装(株)設立(現・(株)デンソー)

#### 新車発表／生産・販売・輸出実績

- '35年(昭和10年)
  - A1型試作乗用車完成
  - G1型トラック完成
- '36年(昭和11年)
  - トヨタAA型乗用車、AB型フェートン、GA型トラック発表
- '38年(昭和13年)
  - GB型トラック生産開始



A1型試作乗用車



G1型トラック



トヨタAA型乗用車

- '41年(昭和16年)
  - AE型乗用車生産開始
- '42年(昭和17年)
  - KB型トラック生産開始
- '43年(昭和18年)
  - AC型乗用車、KC型トラック生産開始
- '47年(昭和22年)
  - BM型トラック、SB型小型トラック、SA型小型乗用車生産開始
- '49年(昭和24年)
  - SD型小型乗用車生産開始



SB型小型トラック



急行列車と競争するSA型小型乗用車

- '36年(昭和11年)
  - トヨタ車(G1型トラック)初輸出



- '47年(昭和22年)
  - 国内生産累計10万台達成



# 1950 昭和25年～34年

- '50年(昭和25年)
  - 経営危機/労働争議・人員整理
  - トヨタ自動車販売(株)設立
  - 民成紡績(株)設立(現・豊田紡織(株))

- '51年(昭和26年)
  - 創意くふう提案制度発足

- '53年(昭和28年)
  - 東和不動産(株)設立
  - 会社代表標語「よい品よい考」制定



標語制定

- '54年(昭和29年)
  - 技術本館(テクニカルセンター)完成

- '56年(昭和31年)
  - トヨペット店営業開始
  - 本社テストコース完成



米国トヨタ自動車販売

- '57年(昭和32年)
  - 米国トヨタ自動車販売(株)設立

- '58年(昭和33年)
  - トヨタ・ド・ブラジルS.A.社(ブラジルトヨタ)操業開始

- '59年(昭和34年)
  - 元町工場操業開始



元町工場

# 1960 昭和35年～44年

- '60年(昭和35年)
  - 新本館(現・旧本館)完成
  - (株)豊田中央研究所設立



トヨタ本社新本館

- '61年(昭和36年)
  - パブリカ店営業開始(現・トヨタカローラ店)
  - TQCの全社的導入決定
  - 春日工場完成(現・春日センター)

- '62年(昭和37年)
  - 「労使宣言」に調印
  - トヨタ・モーター・タイランド社設立



労使宣言 調印式

- '65年(昭和40年)
  - デミング賞実施賞受賞
  - 上郷工場操業開始

- '66年(昭和41年)
  - 高岡工場操業開始
  - 日野自動車工業(株)と業務提携
  - 東富士工場の自動車性能試験場完成



デミング賞実施賞

- '67年(昭和42年)
  - トヨタオート店営業開始(現・ネットトヨタ)
  - ダイハツ工業(株)と業務提携

- '68年(昭和43年)
  - 三好工場操業開始



東富士自動車性能試験場

# 1970 昭和45年～54年

- '70年(昭和45年)
  - 第1回日本品質管理賞受賞
  - 堤工場操業開始



日本品質管理賞受賞

- '73年(昭和48年)
  - 明知工場操業開始
  - キャルティデザインリサーチ設立

- '74年(昭和49年)
  - トヨタ鞍ヶ池記念館完成
  - トヨタ財団設立
  - 日進研修センター完成



日進研修センター

- '75年(昭和50年)
  - 下山工場操業開始
  - 住宅事業に参入

- '77年(昭和52年)
  - トヨタテクニカルセンターU.S.A設立
  - トヨタ会館完成

- '78年(昭和53年)
  - 衣浦工場操業開始

- '79年(昭和54年)
  - 田原工場操業開始



田原工場

- '51年(昭和26年)
  - BX型トラック、BJ型トヨタジープ発表(現・ランドクルーザー)
  - SF型小型乗用車生産開始

- '52年(昭和27年)
  - SG型小型トラック生産開始

- '53年(昭和28年)
  - RH型トヨペット・スーパー、RK型小型トラック発表

- '54年(昭和29年)
  - SKB型小型トラック発表(現・トヨエース)

- '55年(昭和30年)
  - トヨペット・クラウン、トヨペット・マスター、クラウン・デラックス発表



トヨペット・クラウン

- '56年(昭和31年)
  - RK52型小型トラック発表(現・ダイナ)

- '57年(昭和32年)
  - DA60型ディーゼルトラック、トヨペット・コロナ発表

- '61年(昭和36年)
  - パブリカ発表
- '63年(昭和38年)
  - RK170B型ライトバス発表(現・コースター)



パブリカ

- '64年(昭和39年)
  - クラウン・エイト、FA100型・DA100型大型トラック発表

- '65年(昭和40年)
  - トヨタスポーツ800発表

- '66年(昭和41年)
  - カローラ発表



カローラ

- '67年(昭和42年)
  - トヨタ2000GT、ハイエース、ミニエース発表



トヨタ2000GT  
スピードトライアル

- '68年(昭和43年)
  - ハイラックス、カローラスプリンター、コロナマークII発表

- '70年(昭和45年)
  - カリーナ、セリカ、ライトエース発表



セリカ

- '73年(昭和48年)
  - パブリカスターレット発表

- '76年(昭和51年)
  - タウンエース発表

- '77年(昭和52年)
  - チェイサー発表

- '78年(昭和53年)
  - セリカXX発表(現・スープラ)、ターセル、コルサ発表



ターセル



コルサ

- '57年(昭和32年)
  - 国産乗用車対米輸出第1号(クラウン)



- '62年(昭和37年)
  - 国内生産累計100万台達成

- '69年(昭和44年)
  - 輸出累計100万台達成
  - 年間国内販売100万台達成



- '72年(昭和47年)
  - 国内生産累計1,000万台達成

- '75年(昭和50年)
  - 輸出累計500万台達成

- '79年(昭和54年)
  - 輸出累計1,000万台達成



1980 昭和55年～64年(平成元年)

事業展開／工場・施設展開

- '80年(昭和55年)
  - トヨタビスタ店営業開始
- '81年(昭和56年)
  - 豊田工業大学開学
- '82年(昭和57年)
  - トヨタ自動車工業(株)、トヨタ自動車販売(株)合併新社名トヨタ自動車(株)
- '84年(昭和59年)
  - 米国でのトヨタ・GM 合併会社(NUMMI)生産開始
  - 土別試験場完成
- '85年(昭和60年)
  - 飛鳥センター完成
- '86年(昭和61年)
  - 貞宝工場操業開始
- '87年(昭和62年)
  - 春日井事業所操業開始
  - トヨタ記念病院完成
  - 欧州テクニカルセンター設立
- '88年(昭和63年)
  - TMM(現・TMMK)生産開始
- '89年(平成元年)
  - 広瀬工場操業開始
  - 栃木事業所操業開始
  - トヨタ博物館完成
  - 米国レクサス店設立
  - 東京デザインセンター設立



工販合併



NUMMI



TMM工場納入式



レクサス店

1990 平成2年～11年

- '90年(平成2年)
  - アムラックス オープン
  - TMME 設立
- '91年(平成3年)
  - 山梨事業所操業開始
- '92年(平成4年)
  - 「トヨタ基本理念」発表
  - 「トヨタ地球環境憲章」制定
  - TMUK 生産開始
  - VW・Audi 車販売店舗 DUO オープン
  - トヨタ自動車北海道(株) 操業開始
  - トヨタ自動車九州(株) 操業開始
- '94年(平成6年)
  - 産業技術記念館オープン
- '96年(平成8年)
  - (株)コンボン研究所設立
- '98年(平成10年)
  - トヨタオート店 社名をネットトヨタに変更
  - TMMI/TMMWV 操業開始
  - 天津トヨタ自動車エンジン有限会社操業開始
  - トヨタ自動車東北(株) 操業開始
- '99年(平成11年)
  - MEGA WEB(メガウェブ)オープン
  - ニューヨーク・ロンドン株式上場
  - トヨタ・キルロスカ・モーター社 操業開始



TMUK 全景



フランス工場建設発表



天津エンジン工場 操業開始

2000 平成12年～

- '00年(平成12年)
  - 金融統括会社「トヨタファイナンシャルサービス株式会社」設立
  - 四川トヨタ自動車有限会社生産開始
- '01年(平成13年)
  - TMMF 生産開始
  - TMMAL 設立
- '02年(平成14年)
  - F1 参戦
  - TPCA 設立
  - TMMBC 設立
  - 天津トヨタ自動車有限会社生産開始
  - TMIP 設立
  - TMMMP 生産開始
  - TKAP 設立
- '03年(平成15年)
  - 「トヨタホーム(株)」を設立
  - TMMTX 設立
  - 一汽トヨタ自動車販売有限会社を設立
- '04年(平成16年)
  - 广汽トヨタエンジン有限会社(GTE) 設立
  - トヨタ一汽(天津)金型有限会社(TFTD) 設立
  - 一汽トヨタ(長春)エンジン有限会社(FTCE) 設立
  - 广汽トヨタ自動車有限会社(GTMC) 設立
- '05年(平成17年)
  - TPCA で「ブジョー107」「トヨタアイゴ」「シトロン C1」の共同生産を開始
  - TMMR 設立
  - レクサス全国で開業
- '06年(平成18年)
  - TEMA 設立
- '07年(平成19年)
  - TMAP-EM 設立
  - 同方環球(天津) 物流有限会社(TFGL) 設立
  - TMMR 生産開始
  - SIA 生産開始
- '08年(平成20年)
  - TRI-NA 設立

新車発表／生産・販売・輸出実績

- '80年(昭和55年)
  - セリカ・カムリ(現・カムリ)、クレスタ発表
- '81年(昭和56年)
  - ソアラ発表
- '82年(昭和57年)
  - ビスタ、カローラII、スプリンターカブリ、マスターエース・サーフ発表
- '84年(昭和59年)
  - ハイラックスサーフ、MR-2 発表
- '89年(平成元年)
  - デリボーイ、セルシオ発表



ソアラ



セルシオ

- '90年(平成2年)
  - セラ、エスティマ発表
- '91年(平成3年)
  - サイノス、ウィンダム、アリスト発表
- '92年(平成4年)
  - セブター、カルディナ発表
- '94年(平成6年)
  - カレン、RAV4L、RAV4J 発表
- '95年(平成7年)
  - アバロン、グランビア、トヨタキャバリエ、クラウン・コンフォート発表
- '96年(平成8年)
  - メガクルーザー、イブサム発表
- '97年(平成9年)
  - ハイエースレジアス(現・レジアス)、ラウム、プリウス、ハリアー発表
- '98年(平成10年)
  - プログレ、ガイア、ナディア、デュエット、アルテッツァ発表
- '99年(平成11年)
  - ヴィッツ、キャミ、プラッツ、ファンカーゴ、MR-S 発表



プリウス



ヴィッツ

- '00年(平成12年)
  - WILL Vi、bB、プロナード、オーバ、スーパーキー、クルーガーV 発表
- '01年(平成13年)
  - アレックス、アリオン、ヴォクシー、WILL VS、プレビス、ヴェロッサ発表
- '02年(平成14年)
  - イスト、アルファード、プロボックス、サクシード、ウォルツ、WILL サイファ発表
  - 「トヨタ FCHV」限定販売
- '03年(平成15年)
  - ウィッシュ、シエンタ、アベンシス発表
- '04年(平成16年)
  - パッソ、ポルテ、アイシス、マークX 発表
- '05年(平成17年)
  - ラクティス、ベルタ、GS430、SC430、IS350/250、ハリアーハイブリッド、クルーガーハイブリッド 発表
- '06年(平成18年)
  - ラッシュ、GS450h、LS460、カローラアクシオ、オーリス、ブレイド 発表
- '07年(平成19年)
  - LS600h/600hL、ヴァンガード、マークX ジオ、IS F、カローラルミオン 発表
- '08年(平成20年)
  - クラウンハイブリッド、ヴェルファイア、iQ、パッソ セッテ 発表
  - 「トヨタ FCHV-adv」リース販売

- '85年(昭和60年)
  - 輸出累計 2,000万台達成
- '86年(昭和61年)
  - 国内生産累計 5,000万台達成
- '88年(昭和63年)
  - 年間国内販売 200万台達成



- '94年(平成6年)
  - 年間海外生産 100万台達成
- '99年(平成11年)
  - 国内生産累計 1億台達成
  - 年間海外販売 300万台達成



- '02年(平成14年)
  - 北米生産累計 1,000万台達成
  - プリウス販売累計 10万台突破
- '05年(平成17年)
  - カムリ販売累計 1,000万台突破
- '06年(平成18年)
  - プリウス販売累計 50万台突破
- '07年(平成19年)
  - ハイブリッド車販売累計 100万台突破
- '08年(平成20年)
  - プリウス販売累計 100万台突破
  - TPCA 生産累計 100万台達成



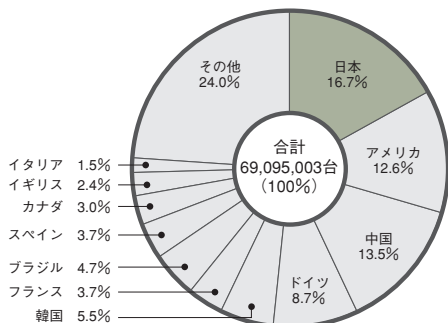
# 自動車生産

■主要自動車生産国の自動車生産台数

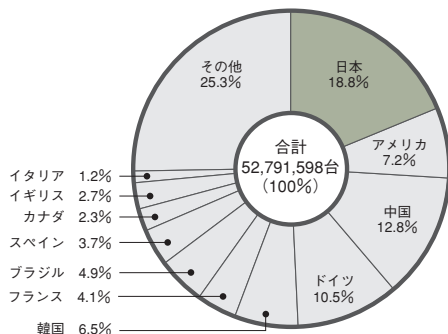
(単位：台)

		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比 (%)	シェア (%)
日本	乗用車	8,097,082	8,359,434	8,117,563	8,618,354	8,478,328	8,720,385	9,016,735	9,754,903	9,944,637	9,916,149	99.7	18.8
	商用車	1,795,307	1,781,362	1,659,628	1,638,961	1,807,690	1,791,133	1,782,924	1,729,330	1,651,690	1,647,480	99.7	10.1
	計	9,892,389	10,140,796	9,777,191	10,257,315	10,286,018	10,511,518	10,799,659	11,484,233	11,596,327	11,563,629	99.7	16.7
アメリカ	乗用車	5,637,949	5,542,217	4,879,119	5,018,777	4,510,469	4,229,625	4,321,272	4,366,996	3,924,268	3,776,641	96.2	7.2
	商用車	7,415,510	7,260,640	6,570,354	7,285,540	7,605,592	7,758,672	7,656,185	6,925,127	6,828,042	4,896,450	71.7	30.0
	計	13,053,459	12,802,857	11,449,473	12,304,317	12,116,061	11,988,297	11,977,457	11,292,123	10,752,310	8,673,091	80.7	12.6
カナダ	乗用車	1,626,316	1,550,500	1,274,853	1,369,042	1,340,175	1,335,516	1,356,271	1,389,536	1,342,133	1,195,436	89.1	2.3
	商用車	1,430,667	1,412,597	1,259,998	1,264,259	1,212,687	1,376,020	1,331,621	1,181,830	1,236,657	886,805	71.7	5.4
	計	3,056,983	2,963,097	2,534,851	2,633,301	2,552,862	2,711,536	2,687,892	2,571,366	2,578,790	2,082,241	80.7	3.0
フランス	乗用車	2,784,789	2,879,810	3,181,549	3,282,858	3,220,329	3,227,416	3,112,956	2,728,196	2,550,869	2,145,935	84.1	4.1
	商用車	395,724	468,551	446,860	409,072	399,727	438,574	436,047	446,064	464,985	423,043	91.0	2.6
	計	3,180,513	3,348,361	3,628,409	3,691,930	3,620,056	3,665,990	3,549,003	3,174,260	3,015,854	2,568,978	85.2	3.7
ドイツ	乗用車	5,309,524	5,131,918	5,301,189	5,123,238	5,145,403	5,192,101	5,350,187	5,398,508	5,709,139	5,532,030	96.9	10.5
	商用車	378,168	394,697	390,488	346,071	361,226	377,853	407,523	421,106	504,321	513,700	101.9	3.2
	計	5,687,692	5,526,615	5,691,677	5,469,309	5,506,629	5,569,954	5,757,710	5,819,614	6,213,460	6,045,730	97.3	8.7
イタリア	乗用車	1,410,459	1,422,284	1,271,780	1,125,769	1,026,454	833,578	725,528	892,502	910,860	659,221	72.4	1.2
	商用車	290,797	316,031	307,916	301,312	295,177	308,527	312,824	319,092	373,452	364,553	97.6	2.2
	計	1,701,256	1,738,315	1,579,696	1,427,081	1,321,631	1,142,105	1,038,352	1,211,594	1,284,312	1,023,774	79.7	1.5
イギリス	乗用車	1,799,004	1,641,452	1,492,365	1,629,934	1,657,558	1,647,246	1,596,356	1,442,085	1,534,567	1,446,619	94.3	2.7
	商用車	173,557	272,442	192,873	191,267	188,871	209,293	206,753	207,707	215,686	202,896	94.1	1.2
	計	1,972,561	1,913,894	1,685,238	1,821,201	1,846,429	1,856,539	1,803,109	1,649,792	1,750,253	1,649,515	94.2	2.4
スペイン	乗用車	2,208,708	2,366,359	2,211,172	2,266,902	2,399,374	2,402,501	2,098,168	2,078,639	2,195,780	1,943,049	91.7	3.7
	商用車	643,681	666,515	638,716	588,337	630,452	609,673	654,332	698,796	693,923	598,595	76.1	3.7
	計	2,852,389	3,032,874	2,849,888	2,855,239	3,029,826	3,012,174	2,752,500	2,777,435	2,889,703	2,541,644	88.0	3.7
ブラジル	乗用車	1,107,751	1,361,721	1,501,586	1,520,285	1,504,998	1,756,166	2,009,494	2,092,003	2,391,354	2,561,496	107.1	4.9
	商用車	243,077	329,519	315,530	271,245	322,040	453,896	518,806	519,031	585,796	658,979	112.5	4.0
	計	1,350,828	1,691,240	1,817,116	1,791,530	1,827,038	2,210,062	2,528,300	2,611,034	2,977,150	3,220,475	108.2	4.7
韓国	乗用車	2,361,735	2,602,008	2,471,444	2,651,273	2,767,716	3,122,600	3,357,094	3,489,136	3,723,482	3,450,478	92.7	6.5
	商用車	481,379	512,990	474,885	496,311	410,154	346,864	342,256	350,966	362,826	376,204	103.7	2.3
	計	2,843,114	3,114,998	2,946,329	3,147,584	3,177,870	3,469,464	3,699,350	3,840,102	4,086,308	3,826,682	93.6	5.5
中国	乗用車	-	-	-	-	2,867,744	3,253,120	3,941,767	5,233,029	6,381,116	6,737,745	105.6	12.8
	商用車	-	-	-	-	1,396,963	1,787,739	1,775,852	2,046,689	2,501,340	2,607,356	104.2	16.0
	計	-	-	-	-	4,264,707	5,040,859	5,717,619	7,279,718	8,882,456	9,345,101	105.2	13.5

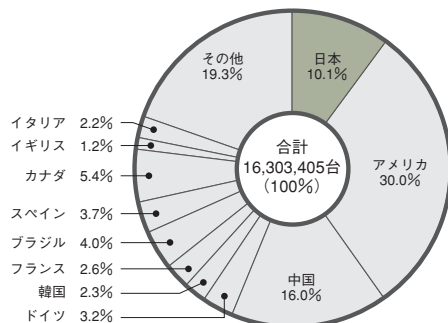
2008年国別自動車生産（シェア）



2008年国別乗用車生産（シェア）



2008年国別商用車生産（シェア）



注) 生産台数は2009年3月現在の公表値。中国は2003年より掲載。  
2008年の自動車生産合計値はVDA（Verband der Automobilindustrie）推計およびWard'sによる。

資料：各国自工会



## 自動車生産・自動車輸出

## 国内生産台数の推移

(単位：台)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総生産台数	9,892,389	10,140,796	9,777,191	10,257,315	10,286,018	10,511,518	10,799,659	11,484,233	11,596,327	11,563,629
除軽生産台数	7,990,329	8,263,346	7,937,686	8,435,112	8,471,371	8,630,641	8,844,721	9,425,144	9,701,299	9,692,514
トヨタ生産台数	3,118,226	3,429,209	3,354,424	3,485,168	3,520,017	3,680,946	3,789,582	4,194,188	4,226,137	4,012,388
乗用車	8,097,082	8,359,434	8,117,563	8,618,354	8,478,328	8,720,385	9,016,735	9,754,903	9,944,637	9,916,149
トヨタ	2,698,503	2,992,889	2,938,820	3,070,456	3,082,044	3,231,430	3,374,526	3,826,819	3,849,353	3,631,146
トヨタ以外(除軽)	4,141,312	4,083,451	3,900,101	4,238,068	4,106,064	4,122,280	4,233,456	4,390,874	4,653,843	4,857,606
軽自動車	1,257,267	1,283,094	1,278,642	1,309,830	1,290,220	1,366,675	1,408,753	1,537,210	1,441,441	1,427,397
商用車	1,795,307	1,781,362	1,659,628	1,638,961	1,807,690	1,791,133	1,782,924	1,729,330	1,651,690	1,647,480
トヨタ	419,723	436,320	415,604	414,712	437,973	449,516	415,056	367,369	376,784	381,242
トヨタ以外(除軽)	730,791	750,686	683,161	711,876	845,290	827,415	821,683	840,082	821,319	822,520
軽自動車	644,793	594,356	560,863	512,373	524,427	514,202	546,185	521,879	453,587	443,718

資料：日本自動車工業会

## メーカー別自動車生産台数(含軽)(2008年)

(単位：台)

会社名	総生産台数			乗用車			商用車		
	生産台数	前年比(%)	シェア(%)	生産台数	前年比(%)	シェア(%)	生産台数	前年比(%)	シェア(%)
トヨタ	4,012,388	94.9	34.7	3,631,146	94.3	36.6	381,242	101.2	23.1
ダイハツ	793,257	100.8	6.9	641,322	98.9	6.5	151,935	109.8	9.2
日野	106,216	99.4	0.9	0	—	—	106,216	99.4	6.4
日産	1,293,082	109.7	11.2	1,095,661	111.5	11.0	197,421	100.6	12.0
ホンダ	1,264,381	94.9	10.9	1,230,621	95.5	12.4	33,760	78.0	2.0
スズキ	1,218,235	100.0	10.5	1,059,456	99.8	10.7	158,779	101.4	9.6
マツダ	1,078,690	108.4	9.3	1,038,725	109.1	10.5	39,965	92.5	2.4
三菱	841,949	99.5	7.3	758,673	100.1	7.7	83,276	94.6	5.1
富士重	524,916	110.3	4.5	460,515	114.2	4.6	64,401	88.9	3.9
いすゞ	253,913	105.7	2.2	0	—	—	253,913	105.7	15.4
三菱ふそう	126,184	89.3	1.1	0	—	—	126,184	89.3	7.7
日産ディーゼル	47,960	104.3	0.4	0	—	—	47,960	104.3	2.9
その他	2,458	99.5	0.0	30	120.0	0.0	2,428	99.3	0.1
合計	11,563,629	99.7	100.0	9,916,149	99.7	100.0	1,647,480	99.7	100.0

注) 四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：日本自動車工業会

## 日本メーカーの海外生産台数の推移

(単位：台)

地域	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
北米	2,674,299	2,797,175	2,991,924	3,061,612	3,375,453	3,487,012	3,840,744	4,080,713	4,001,639	4,049,068
中南米	260,131	246,710	387,732	407,887	445,862	457,467	534,863	645,074	745,827	895,097
アフリカ	144,181	130,216	146,435	162,825	155,973	162,969	191,537	225,725	259,050	252,384
ヨーロッパ	920,985	929,303	953,170	1,032,004	1,153,059	1,338,476	1,454,903	1,545,355	1,702,836	1,976,407
アジア	1,220,890	1,551,164	1,677,998	1,878,181	2,386,621	3,013,168	3,649,778	3,974,709	4,141,256	4,524,276
オセアニア	150,685	125,575	130,933	137,084	135,498	148,471	125,726	134,581	121,635	159,710
総数	5,371,171	5,780,143	6,288,192	6,679,593	7,652,466	8,607,563	9,797,551	10,606,157	10,972,243	11,856,942

注) 他ブランド分を除く。中近東をアジアに含む。

資料：日本自動車工業会

## 自動車輸出台数の推移

(単位：台)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総輸出台数	4,408,953	4,454,885	4,166,089	4,698,728	4,756,343	4,957,663	5,053,061	5,966,672	6,549,940	6,727,091
トヨタの輸出台数	1,548,041	1,706,208	1,665,719	1,816,781	1,835,996	1,951,741	2,043,245	2,529,290	2,666,464	2,586,338
乗用車	3,757,460	3,795,852	3,568,716	4,012,373	4,080,498	4,214,027	4,363,168	5,295,497	5,811,959	5,915,429
トヨタ	1,311,503	1,446,778	1,416,469	1,534,850	1,562,456	1,656,178	1,792,116	2,334,746	2,452,752	2,347,960
トヨタ以外	2,445,957	2,349,074	2,152,247	2,477,523	2,518,042	2,557,849	2,571,052	2,960,751	3,359,207	3,567,469
商用車	651,493	659,033	597,373	686,355	675,845	743,636	689,893	671,175	737,981	811,662
トヨタ	236,538	259,430	249,250	281,931	273,540	295,563	251,129	194,544	213,712	238,378
トヨタ以外	414,955	399,603	348,123	404,424	402,305	448,073	438,764	476,631	524,269	573,284

資料：日本自動車工業会

## メーカー別自動車輸出台数(含軽)(2008年)

(単位：台)

会社名	総輸出台数			乗用車			商用車		
	輸出台数	前年比(%)	シェア(%)	輸出台数	前年比(%)	シェア(%)	輸出台数	前年比(%)	シェア(%)
トヨタ	2,586,338	97.0	38.4	2,347,960	95.7	39.7	238,378	111.5	29.4
ダイハツ	129,759	85.1	1.9	108,476	81.5	1.8	21,283	110.5	2.6
日野	67,016	112.0	1.0	—	—	—	67,016	112.0	8.3
日産	776,738	120.2	11.5	627,678	122.8	10.6	149,060	110.4	18.4
マツダ	881,518	109.8	13.1	878,891	110.0	14.9	2,627	64.3	0.3
ホンダ	650,308	92.0	9.7	650,308	92.0	11.0	—	—	—
三菱	604,841	105.7	9.0	591,864	106.0	10.0	12,977	93.7	1.6
スズキ	393,101	96.6	5.8	383,765	95.9	6.5	9,336	137.5	1.2
富士重	326,492	130.3	4.9	326,487	130.3	5.5	5	250.0	0.0
いすゞ	194,233	115.2	2.9	—	—	—	194,233	115.2	23.9
三菱ふそう	89,963	99.2	1.3	—	—	—	89,963	99.2	11.1
日産ディーゼル	26,784	102.9	0.4	—	—	—	26,784	102.9	3.3
合計	6,727,091	102.7	100.0	5,915,429	101.8	100.0	811,662	110.0	100.0

注) 四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：日本自動車工業会

# 自動車登録・届出台数・輸入車登録

## 国内登録・届出台数の推移

(単位：台)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
含軽総市場	5,861,216	5,963,042	5,906,471	5,792,093	5,828,178	5,853,382	5,852,067	5,739,506	5,353,648	5,082,235
除軽総市場	3,987,731	4,095,117	4,059,046	3,966,093	4,027,315	3,962,232	3,928,351	3,715,887	3,433,829	3,212,342
乗用車	4,154,084	4,259,872	4,289,683	4,441,354	4,715,920	4,768,131	4,748,409	4,641,732	4,400,299	4,227,643
トヨタ	1,153,368	1,216,079	1,204,885	1,325,320	1,511,664	1,574,931	1,517,780	1,490,791	1,408,399	1,317,536
トヨタ以外(除軽)	1,764,551	1,762,528	1,811,600	1,808,877	1,912,437	1,821,117	1,843,561	1,643,343	1,544,794	1,483,128
軽自動車	1,236,165	1,281,265	1,273,198	1,307,157	1,291,819	1,372,083	1,387,068	1,507,598	1,447,106	1,426,979
商用車	1,707,132	1,703,170	1,616,788	1,350,739	1,112,258	1,085,251	1,103,658	1,097,774	953,349	854,592
トヨタ	503,273	547,516	508,386	349,893	193,053	184,072	195,698	200,686	178,280	151,744
トヨタ以外(除軽)	566,539	568,994	534,175	482,003	410,161	382,112	371,312	381,067	302,356	259,934
軽自動車	637,320	586,660	574,227	518,843	509,044	519,067	536,648	516,021	472,713	442,914

資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

## メーカー別登録・届出台数(2008年)

(単位：台)

会社名	登録台数(除軽)					登録・届出台数(含軽)				
	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)
トヨタ <sup>*)1)</sup>	1,317,536	151,744	1,469,280	92.6	45.7	1,317,536	151,744	1,469,280	92.6	28.9
ダイハツ	7,300	—	7,300	62.5	0.2	512,238	130,226	642,464	102.5	12.6
日野	—	40,666	40,666	86.0	1.3	—	40,666	40,666	86.0	0.8
日産 <sup>*)</sup>	464,605	72,948	537,553	94.2	16.7	579,993	98,167	678,160	94.1	13.3
ホンダ <sup>*)</sup>	421,369	2,259	423,628	106.4	13.2	586,932	37,615	624,547	100.4	12.3
マツダ	162,258	24,975	187,233	94.4	5.8	207,588	36,944	244,532	96.2	4.8
三菱 <sup>*)</sup>	61,278	4,736	66,014	78.2	2.1	143,717	46,126	189,843	83.7	3.7
富士重	85,050	—	85,050	100.3	2.6	143,529	63,214	206,743	91.6	4.1
いすゞ	15	59,681	59,696	85.6	1.9	15	59,681	59,696	85.6	1.2
スズキ	80,205	—	80,205	100.4	2.5	534,998	135,487	670,485	99.9	13.2
日産ディーゼル	—	12,562	12,562	83.8	0.4	—	12,562	12,562	83.8	0.2
三菱ふそう	—	40,522	40,522	80.2	1.3	—	40,522	40,522	80.2	0.8
輸入車・その他	201,048	1,585	202,633	85.7	6.3	201,097	1,638	202,735	85.7	4.0
	206,278	12,953	219,231	82.7	6.8	206,327	13,006	219,333	82.7	4.3
合計	2,800,664	411,678	3,212,342	93.5	100.0	4,227,643	854,592	5,082,235	94.9	100.0

注) ※海外生産車を含む。 1)レクサスブランドを含む。

「輸入車・その他」の上段は輸入車から日本メーカーブランドとして登録されたものを除いた数字、下段は含む数字。

資料：日本自動車工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

## 乗用車系登録車両の国内販売台数ベスト10(2008年)

順位	車名	会社名	登録・届出台数(台)	前年比(%)
1	フィット	ホンダ	174,910	150.1
2	カローラ	トヨタ	144,051	97.9
3	ヴィッツ	トヨタ	123,337	101.6
4	クラウン	トヨタ	74,904	132.7
5	プリウス	トヨタ	73,110	125.4
6	セレナ	日産	72,927	94.0
7	パッソ	トヨタ	72,767	90.9
8	ヴォクシー	トヨタ	70,165	95.5
9	ティーダ	日産	65,302	104.9
10	デミオ	マツダ	64,990	99.2

注) カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、

カローラフィールダー、カローラアクシオ、カローラミオンを含む。

クラウンにはクラウンマジェスタ、クラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。

輸入車及び軽自動車を除く。

資料：日本自動車販売協会連合会

## 輸入自動車登録台数の推移

(単位：台)

	輸入総数	日本メーカーの海外生産車輸入台数*
2008	219,231	25,329
2007	265,086	33,493
2006	262,274	15,670
2005	268,112	19,119
2004	272,880	28,989
2003	278,804	31,198
2002	277,065	16,466
2001	275,279	14,002
2000	275,452	19,970
1999	278,225	26,044

\*海外生産車の対象メーカーはトヨタ、ホンダ、日産、三菱、スズキ。

資料：日本自動車輸入組合

# 自動車関係税制

自動車関係諸税は、1954年の道路特定財源制度導入以降、道路整備の財源として大きな役割を果たしてきました。しかし、これまで増税、新税創設が繰り返された結果、日本の自動車ユーザーは多種多様で国際的にみても過重な税負担をしています。

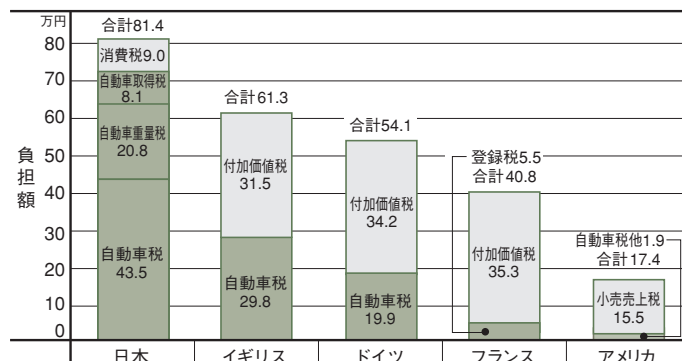
## 2008年度租税総収入の税目別内訳並びに自動車関係諸税の税収額(当初見積り額)

税目	税額	構成比(%)
法人税	167,110	17.5
自動車関係諸税	88,916	
車体課税	41,247	
取得段階		
自動車取得税	4,024	
消費税(車体課税分)	7,659	
保有段階		
自動車重量税*1	10,725	
自動車税	17,148	
軽自動車税	1,690	9.3
燃料課税	48,669	
走行段階		
揮発油税	27,685	
地方道路税*2	2,962	
軽油引取税	9,914	
石油ガス税*3	280	
消費税(燃料課税分)	6,828	
事業税	60,400	6.3
酒税	15,320	1.6
印紙収入	11,950	1.2
所得税	162,790	17.0
固定資産税	88,087	9.2
消費税	117,378	12.3
その他	244,151	25.5
租税総収入(国税+地方税)	956,102	100.0

資料：財務省、総務省、日本自動車工業会

1. 租税収入の内訳の消費税収入は、自動車関係諸税に含まれる消費税(車体課税分+燃料課税分)を除く。
2. 自動車関係諸税の消費税収入は、日本自動車工業会推定。
3. 消費税収入には地方消費税を含む。
- \* 1. 自動車重量税：国税であるが、税収の3分の1は地方へ譲与され、「自動車重量譲与税」となる。
- \* 2. 地方道路税：国税であるが、税収の全額が地方へ譲与され、「地方道路譲与税」となる。
- \* 3. 石油ガス税：国税であるが、税収の2分の1は地方へ譲与され、「石油ガス譲与税」となる。

## 自動車関係諸税(取得・保有段階の車体課税)の国際比較



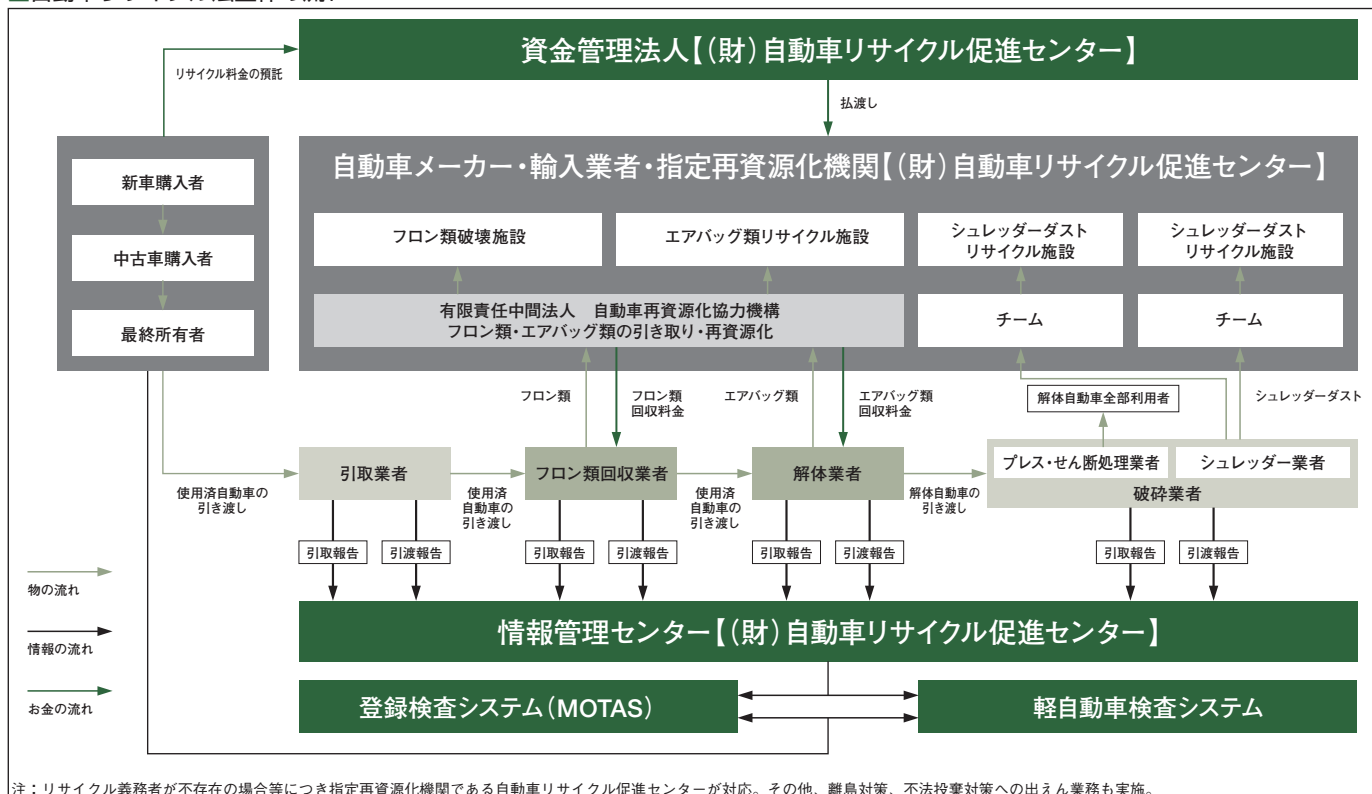
前提条件：(1) 排気量1800cc (2) 車両重量1.5トン未満 (3) 車体価格180万円  
 (4) フランスはパリ市、アメリカはニューヨーク市 (5) ドイツの排出ガス規制はEuro4  
 (6) フランスは課税馬力8 (7) 11年間使用(平均寿命)  
 (8) 為替レートは1ユーロ149円、1ポンド217円、1ドル116円(2006/4～2007/3の平均)  
 注) 1. 各国の環境対策としての税制政策(軽減措置)は加味していない。  
 2. 各国の登録手数料は除く。  
 3. フランスは2000年をもって個人の所有に対する自動車税を廃止。

資料：日本自動車工業会

# 自動車リサイクル法

国内で発生する使用済み自動車の再利用は資源保護・資源循環の観点からも重要な課題となっています。2005年1月から自動車リサイクル法(通称)が施行され、自動車メーカーは、使用済み自動車から発生するフロン類、エアバッグ類、シュレッダーダストを引き取り、リサイクル・適正処理を行っています。

## 自動車リサイクル法全体の流れ

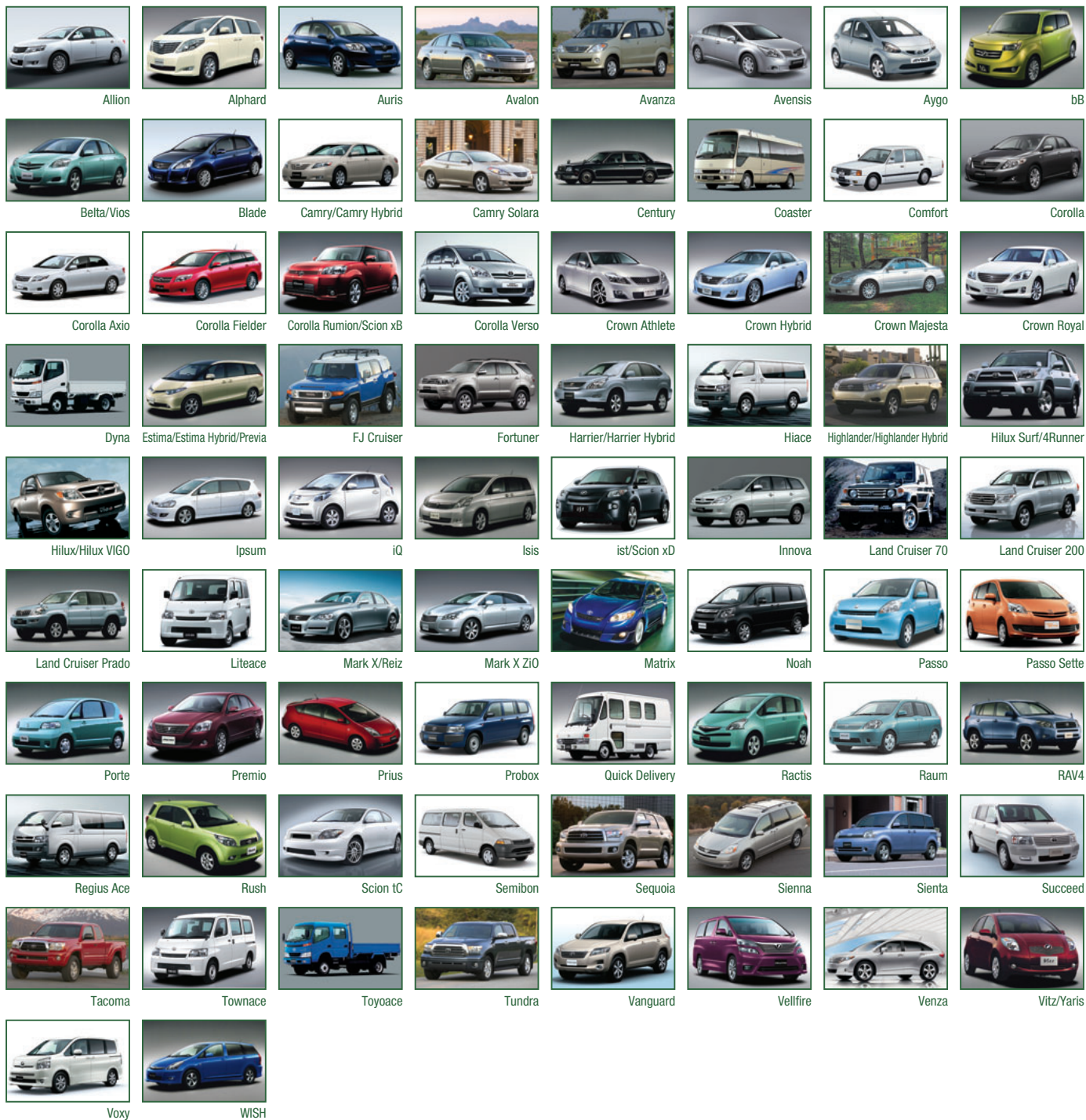


資料：自動車リサイクル促進センター

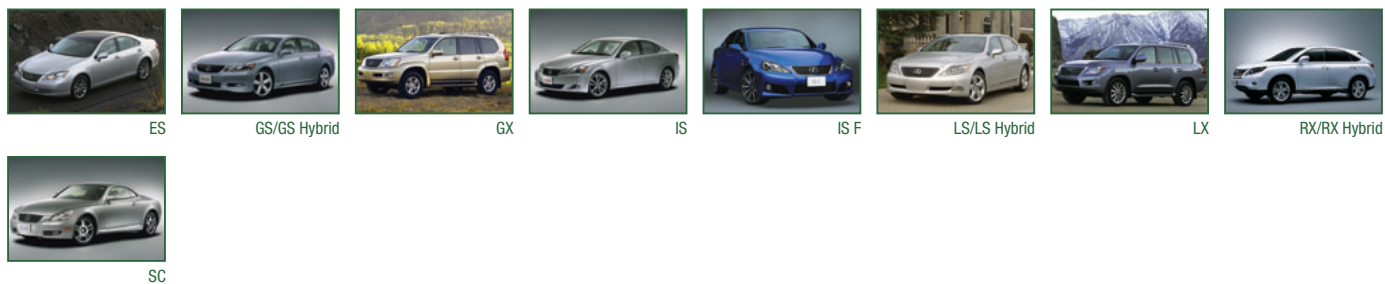


# Product Line up

## Toyota



## Lexus



- 注) 1. 2008年(1月~12月)に全世界にて販売された車種。  
 2. サイオンはトヨタブランドに含む。  
 3. 一部非掲載の車種もあり。

# TOYOTA

**トヨタ自動車株式会社**  
**[www.toyota.co.jp](http://www.toyota.co.jp)**

発行:トヨタ自動車株式会社 広報部 発行年月:2009年4月  
住所:〒112-8701 東京都文京区後楽1丁目4番18号  
お問い合わせは 東京本社/広報部 Tel(03)3817-7111(代)